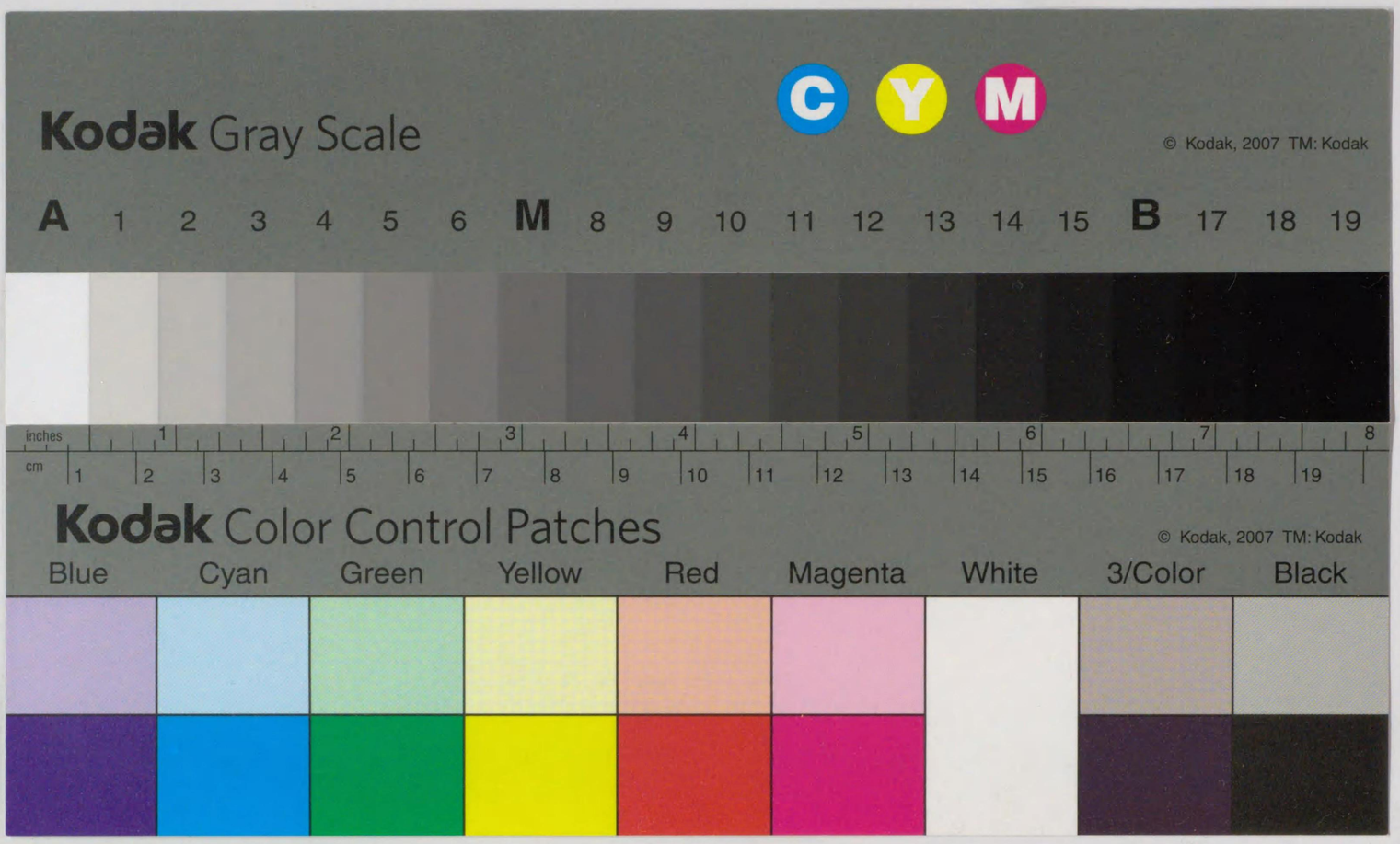


581 146
581-146
120060009962

製鐵所參考資料

（第四拾八號）

製鐵所總務部

昭和六年四月一日發行

804
338
315
内交
7.3.15
帝國圖書館

例言

一、本册子ハ文書課ニ於テ抄譯シタル外字新聞若クハ雜誌中揭載ノ事項及ヒ其他ノ調査資料ニ就キ參考トナルヘキモノヲ撰ミ關係所員ニ頒タンカタメ謄寫ニ代ヘ印刷スルモノトス

二、本册子ハ當務ノ參考ニ供スルヲ以テ目的トシ文字ノ彫琢編纂ノ體裁ニ於テ缺クル所少ナカラサルヘシ讀者之ヲ諒セヨ

製鐵所總務部

製鐵所參考資料第四拾八號目次

經濟上より觀たる獨逸の鐵鋼業と其の合理化是非論……一
ドイツに於ける鐵價の引下……四十五
一九三〇年合衆國鐵鋼業の回顧……五十六
一九三〇年の獨逸鐵鋼業……六十二
一九三〇年の西班牙鐵鋼業……六十八
昭和四年本邦鑛業の趨勢……七十三
石炭運賃及荷役賃……九十一
統計……百十七
世界鐵鋼生産概況……一一七　一九三〇年中獨逸の鋼材産額……一二一　一九三〇年中佛蘭西の鋼材産額……一二四　一九三〇年中ルクセンブルグの鐵鑛石産額……一二五　一九三〇年中英領印度の銑鐵輸出入……一二五　一九三〇年中アルゼリア及チユニシアの鐵鋼石産額……一二六　一九三〇年中端典の鐵鋼統計……一二六　一九三〇年中佛蘭西の鐵鑛石産額……一三〇　一九三一年一月中佛蘭西の鐵鋼産額……一三一　一九三一年一月中佛蘭西の鐵鋼産額……一三二　一九三〇年中伊太利の鐵鋼産額……一三三　一九三〇年中佛蘭西の鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數……一三四　一九三〇

年獨逸の鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數……一三七　一九三〇年中白耳義及ルクセンブルグの鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數……一四一　一九三〇年中英國鐵鋼材の輸出入と其の輸出入先別屯數……一四

海外雜報……百四十六

歐洲市況……一四六　波蘭軌條工場のイルマ加入拒絶……一四六　獨逸の試力板日本市場侵入……一四六　日本鋼の比律賓市場進出……一四七　日本の競爭に對應せんが爲め大洋運賃の引下……一四八　歐洲滿俺鑛ストツク減少……一四八　日本の印度銑輸入……一四八　ルーマニアの製鋼業者鋼カルテルに加入す……一五〇　日本の歐洲鋼材輸入回復……一五〇　一九三〇年露西亞の滿俺鑛產額レコードを造る……一五〇　極東に對する歐洲運賃率の引下……一五一　日本は鴨綠江畔に年產能力一萬瓩のアルミニューム工場建設を計畫中……一五一　フランス國製鐵工業狀況（一九三〇年）……一五一　ドイツの鐵鋼製品工業狀況……一五五　國際軌條製造業者組合八幡製鐵所の競爭に脅かさる……一五九　立法院を通過せる實業部組織法……一六〇　一九年度江西省政府管理の萍鑛及其附近の支持情況……一六七　鄂城鐵鑛停業……一六九　西北科學考察團綏遠に於て鐵鑛を發見……一七〇　實業部行政宣言中の鐵業及本期鑛業行政計畫綱要……一七〇　鐵道部國產石炭、國產鐵研究の會を組織す……一七

附表

一、製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生產高月別表
一、昭和四年本邦鐵鋼材用途別品目別販賣數量調表
一、昭和四年中本邦鐵鋼材用途別品目別販賣數量割合表
一、昭和五年中本邦鐵鋼材輸出入表
一、昭和五年中英國鐵鋼材輸出入表
一、昭和五年中白耳義及ルクセンブルグの鐵鋼材輸出入表
一、昭和五年中獨逸鐵鋼材輸出入表
一、昭和五年中合衆國鐵鋼材輸出入表
一、昭和五年中佛蘭西鐵鋼材輸出入表
一、各國銑鋼月別生產統計

經濟上より觀たる獨逸の鐵鋼業と其の合理化是非論

アイアン、エンド、コール、トレード、レビウ

一九三一年二月六日―三月廿日迄連載記事の抄譯

目次

一、序
一、鐵鋼業と經濟事情
一、戰後人員
一、合理化
一、燃料の經濟
一、生產單位の調和對等
一、作業の集中
一、二三會社斯業を管理す
一、勞力と賃銀
一、勞銀費
一、原料費
一、隣接諸國の競爭
一、戰前戰後の生產費
一、流動準備金の不足
一、合理化と原價償却費の增大

一、不況時に超機械化は危險
一、價格
一、アヴイ協定と國內價格の割高
一、國際協定
一、財政結果
一、輸出價格の割安
一、結論（合理化と剩餘能力）
一、政府調査委員の報告に對する鐵鋼業者の抗辨

最近獨逸鐵鋼業に關する政府調査委員の報告が發表せられたが當時獨逸鐵鋼業者の代表組合に於ては本報告が斯業に惡影響を及ぼすことを惧れ之れが發表を阻止するに或は少くとも之を遲延せしむるに努めたものであつた、國內市場價格の引下公表を長らく遲延せしめたが爲め斯業は頗る非難せられつゝあつたが、斯かる際に本報告の發表さるゝことは當業者に取つては特に苦痛であつたことは勿論で此の當業者の發表阻止運動が暴露し隨分獨逸の新聞紙を賑はしたのであつた、然し當業者即ち備主の運動は遂に功を奏せず昨年十二月其の發表を見るに至つた

元來此の調査委員は獨逸聯邦經濟審議會の推擧で任命されたもので過去五ヶ年の大部分を特に鐵鋼業の調査に費したのであつた、從つて其の報告は他種委員の報告の如く杜撰なものではない、然し一方當業者側に於ては本報告を不精確のものと非難して居り特に戰前戰後の製鐵製鋼能力に關し或は又最近數ヶ年に於ける

合理化方法や斯業の財政事情に就て報告の誤れることを指摘して居るが此の當業者の批評は本報告の概要を摘記した後で述ぶることにする

鐵鋼業と經濟事情

報告は獨逸の社會的並經濟的發展の見地より鐵鋼業の重要性を力說してゐるがこは機械工業、造船業、鐵道及建築業等の如き主要工業の原料を供給するからである、過去約五十年間中鐵鋼の產額は、多くの重要なる發見及發明に依り著しき增大を示し同時に其の消費高も增大した、戰前期間に於ては產額は急速に增加し一九一三年に至り其の時迄の最高記錄を作つた、第一表は一九一三年に於ける世界產額と戰前の獨逸と現在領域の獨逸の產額とを比較せるものである

第一表（單位百萬瓲）

	世界產額（一九一三年）	獨逸產額（一九一三年） 戰前の獨逸	獨逸產額（一九一三年） 現在の獨逸
銑鐵	八〇	一六・八	一〇・九
粗鋼	八〇	一七・二	一一・七
壓延鋼材	六九	一六・一	一一・六

大戰の勃發は世界鐵鋼產額の增進を阻止し戰時中又戰爭直後は著しき減少を示したが然し最近數年間中再

び增進傾向を回復した、獨逸に於ては戰時中の鐵鋼產額は軍事の見地よりすれば重要なるにも拘らず減少したのであつた、斯業は亦、戰爭直後に於ては尠からざる退步を示したが特にルール地方の占領中は最も苦難に陷つたのであつた。一九二五年以來漸やく斯業は其の事態を改善し發達することを得たが然し過去五ヶ年中に於ては、斯業は賠償の重荷や資本の缺乏等に依り苦しんだものであつた、加ふるに獨逸鐵鋼業の競爭的地位は、フラン貨諸國の通貨の下落に依り、又過去十二ヶ月間中に於ては市場の一般的不況に依り一層の困難に陷つた

傭役人員

調査委員は勞力に關する報告の序文に次の如く指摘して居る

鐵鋼業に於て實行さるゝ生產的過程の大部分には其の設備に莫大なる資本の投下を含んで居るが之れに比すれば勞働者の傭役程度は比較的少であつて只壓延工場の傭役割合が大である、又之を炭業、建築業、織物業等に比較する時には鐵鋼業の傭役人員は比較的少であつて、尙技術的の改善又發明の點より見るときは傭役人員は益々減少の傾向を辿るものゝ見らる、第二表は獨逸鐵鋼業に於ける被保險勞働者數と熔鑛爐、製鋼工場及壓延工場の傭役人員割合を示す

第二表　獨逸鐵鋼業の被保險勞働者數

年次	被保險勞働者總數	熔鑛爐	製鋼工場	壓延工場
一九一三年	一五四、三二七	二七、〇七八	三四、二三八	九三、九一一
一九二四年	一四八、四八八	二四、三七一	三三、二八七	九〇、八三〇
一九二五年	一五二、七二一	二三、二六六	三五、七八七	九三、六六八
一九二六年	一二三、六七八	二〇、五六〇	二五、五〇六	七七、六一二
一九二七年	一四二、九八四	二一、五二七	二九、四三三	九二、〇二四
一九二八年	一三八、七九一	二〇、三三一	二八、五三四	八九、九二六
一九二九年	一四四、四一二	二一、六三五	三〇、八四八	九一、九二九

備考　表中一九一三年の數字は獨逸現在領域のもので又一九二九年の數字は概算である、表中の數字は被保險勞働者であつて勞働者の總數を示すものではないが然し數字は各年に於ける傭役數の關係を相當精確に示すものである。因に一九二五年に於ける獨逸鐵鋼業勞働者の總數は二十七萬二百十一人に達した

合理化

戰後獨逸の鐵鋼業が採つた生產能力を增加し生產費を切下げ以て競爭的地位を向上せしめんとする企ての一切は大抵合理化の傘下に集つて居る、合理化の大部分は技術的方法及設備を改善し以て將來發展の基礎たる生產上の經濟を行はんとするもので合理化手段は不景氣の初期以來獨逸の一般產業に採用され來つたが、鐵鋼業に於ては特に顯著であつた、其の結果勞力の必要を減ずるに至つたのである、斯くの如く資本は賃銀

を犧牲にして益々重大化するに至つたが、然し最近數年間に於ける獨逸の資本缺乏に鑑みれば、合理化は獨逸資本市場の狀態に順應されたるものであるか又之と一致し得るものであるかは一大考慮を要する事柄であるが特にデマンド市場の變動と之に因る工業的活況の浮沈等に鑑みる時は、近來行はるゝが如き大規模の資本投下を差支へなからしむる程の生產費の經濟が遂行され得るや否やの問題に注意を拂はねばならない調査委員は本問題に關して後章に委しく論じて居る

一方調査委員は、平和條約が獨逸の鐵鋼業の地位に及ぼせる著しい影響に就て述べて居るが獨逸は領土再區分の結果として戰前生產能力の大部分を喪失したものである。第三表は平和條約の結果として戰前關稅領土（ザール及ルクセンブルクを含む）內の獨逸鐵鋼業の蒙つた損失の範圍を示すものである

第三表　平和條約の獨逸鐵鋼業に及ぼせる結果

	一九一三年に於ける生產高合計	讓渡されたる西部領土の一九一三年に於ける生產百分比	讓渡されたる上部シレジアの一九一三年に於ける生產百分比
銑鐵	一九、三一二千瓲	四〇・二	三・二
粗鋼	一八、四八四〃	三〇・八	五・五
販賣用半製品	二、九三八〃	四八・一	五・八
壓延鋼材	一三、一一九〃	二四・四	六・一

備考　西部領土にはザール及ルクセンブルグを含む

斯の如く讓渡されたる領土內の工場を喪失せるが然し之れが爲め獨領地內に殘存せる工場は戰爭直後擴張せられ又其の設備は改善せらるゝに至つた、加ふるに生產能力の喪失を埋合さんが爲め新に工場を建設するに至つたが新工場のタイプ及大さは、戰前に比し、鐵鑛石の供給に關する獨逸鐵鋼業の地位の變化に依り大いに影響されたものであつた。戰前獨逸は、ローレヌ及佛蘭西鑛床より所要鑛石の大部分を又スカンヂナビヤ、西班牙及其他の外國よりも供給を受けて居つた、戰後ラインランドウエストフアリアに於ける製鐵製鋼所の鑛石の供給と生產能力とは、國際事情の不安定と獨逸通貨の變動と及び高度鑛石の使用を餘議なくせしめた骸炭の缺乏とに因り頗る危殆に陷つたのであつた、右の如き諸要素の下に在りては獨逸の鐵鋼業が鑛石の供給を確保する爲めに止むなく新方法を採るに至つたことは多言を要せないであらう。第四表は過去十年間に於ける獨逸の鐵鑛石消費量を實數と百分比とを以て示すものである

第四表　獨逸の鐵鑛石消費高（單位千瓲）

年次	消費高合計	內地鑛石	外國鑛石				
			瑞典及諾威鑛石	佛蘭西鑛石	西班牙鑛石	其他の外國鑛石	
一九二〇年	四、六六	一、八〇七	一、六四一	四四二	一九七	五九九	
一九二一年	五、六七三	二、〇〇五	一、九九九	六二七	三六〇	七三二	
一九二二年	七、〇〇四	一、九〇〇	二、五七八	六四六	六二三	一、二六八	

一九二三年	三、六一九	一、二六七	一、一八八	二〇四				九六〇
一九二四年	五、八五四	一、三六六	二、五七八	四五〇	四八一			九七九
一九二五年	七、八八五	一、七六二	三、七五七	四一五	七五七			一、一九四
一九二六年	七、一三三	一、五四九	三、六九八	五一六	四三四			九一六
一九二七年	九、九五四	二、〇四九	四、六〇五	九六〇	八九六			一、四四四
一九二八年	八、八五四	一、七五〇	二、二〇七	一、一九三	一、四三三			二、一八二
一九二九年	一〇、二六九	一、九〇九	四、二九一	一、二六五	一、一〇〇			一、六三四
全百分比—消費高合計を一〇〇とす								
一九二〇年	一〇〇	三八・五	三五・〇	九・四	四・二			二・九
一九二一年	一〇〇	三五・四	三四・〇	二・一	六・三			二・三
一九二二年	一〇〇	二七・一	三六・八	九・二	八・八	二六・六		一八・一
一九二三年	一〇〇	三五・〇	三二・八	五・六				
一九二四年	一〇〇	二三・三	四四・一	七・七	八・一			一六・八
一九二五年	一〇〇	三二・三	四七・六	五・二	九・七			一五・二
一九二六年	一〇〇	二二・八	五一・九	七・二	六・一			一三・〇
一九二七年	一〇〇	二〇・六	四六・三	九・六	九・〇			一四・五

一九二八年	一〇〇	一九・八	二六・一	一三・四	一六・一
一九二九年	一〇〇	一八・五	四二・七	一一・三	一一・七

備考　一九二八年は瑞典鐵鑛業罷業の爲め影響を受く

戰後獨逸の鐵鋼業は、現存鎔鑛爐並に製鋼工場の改築及新工場の建設に大いに努力し以て能力を增大せるが其の結果操業各單位の數は減少せるにも拘らず其の生產高の合計は頗る增大するに至つた、此の開發及擴張事業は能率を增加し作業費を減ぜんが爲めに爲されたものである。獨逸に於ては多くの場合、鐵鋼業の經濟的作業は炭山、骸炭爐、鎔鑛爐、製鋼工場及壓延工場を相互關聯して經營することに依つて始めて達成し得らるものと一般に認められ居るが此の場合多くの重要なる技術的並製造上の經濟が遂行せらるゝものであつて就中、鎔鑛爐及骸炭爐瓦斯の剩餘を利用することに依つて燃料の使用に一大經濟が行はるゝものである

燃料の經濟

燃料の經濟は獨逸の鐵鋼業が絕へず深甚の注意を拂へる問題であつて、各方面の燃料問題研究の爲め特別の部局を設けて居るのである、調査委員は鐵鋼業に於ける燃料經濟の細目に亘つては、最高の技術に屬するものなるが爲め、論ずることを避け其の本來の調査範圍に屬する問題の解決方法と成果とを指摘して居るのである。技術的研究と協力作業し且つ其の研究結果を十分に利用することに依り獨逸の鐵鋼業は其の燃料の濟經に於て他方面の經濟より一層著しき進步を遂げて居ることは專門家の立證に依つて明かである

鎔鑛爐に於ける骸炭の消費高は戰前に比し頗る減じた卽ち次の通りである

銑鐵千瓲當り骸炭の消費高

一九一三年	一、一一五瓲
一九二四年	一、〇七九瓲
一九二五年	一、〇四三瓲
一九二六年	一、〇〇三瓲
一九二七年	一、〇一七瓲
一九二八年	一、〇三一瓲
一九二九年	一、〇一五瓲

鎔鑛爐の改造並に全挿入物の構成要素の配合割合の改變は、銑鐵一屯當り骸炭消費量削減の主原因を成せるものである、高度鑛（含鐵分五五乃至六〇％）を使用する場合銑鐵一屯當りの骸炭消費量は〇・九瓲或は其れ以下で十分であつたが此れに反しミネット鑛石（含鐵分約三五％）を使用する場合の骸炭消費量は一・一瓲以上を必要とした、尙一九一三年に於けるザール地方及アルサス、ローレヌの骸炭消費量は銑鐵一瓲當り一・一八屯に達した

生產單位の調和對等

各種工場の共同作業に依つて成し得らるゝ技術的並燃料經濟の外、各單位の生產能力を、生產高の均衡が取り得らる如き割合に調整することに依り別に又重要なる經濟が達成せられ得るものである、生產高の適當なる均衡が取り得らるれば全工場は經濟的及能率的基礎に於て作業することが出來る、理想的の調整は骸炭爐と鎔鑛爐との數を互に十分に作業に從事し得るやう又同時に原料並燃料、動力の双方に關し製鋼爐及壓延工場の需要に十分に應ずるやうにすることである

調査委員は次の如く指摘して居る。製鐵所が原料から製品までの生產的過程を含むやうに作業を擴大し以て經濟的利益を得んとするの傾向は、多數鋼材の競爭を益々激甚ならしめたのである、斯の如き製鐵所の生產高は增加したが然し以前他の會社に依つて成された生產高で市場の需要には十分であつた、其の結果供給過多に陷つたのである、此の關係に於て、個人會社の利益と斯業全体としての利益とは必しも一致するものではない

聯合製鋼會社（Vereinigte Stahlwerke）に於ては、不經濟的又は舊式工場を取り毀し及び現存設備を改造近代化し或は又新工場を建設し以て少數工場から一層多くの生產高を得んとするの政策を取つて居るが此の傾向は獨逸鐵鋼生產地帶の全部に亘り鎔鑛爐に於ても製鋼所に於ても將又壓延工場に於ても看取することが出來る。例を以て示せば一九一三年に於ては現在獨逸領域內には鎔鑛爐工場七十、其の高爐數二一六基、內操業せるもの二〇四基を數へ一基當りの一週平均生產高一、一二七瓲合計一〇、九〇〇、〇〇〇瓲を算した

が一九二九年に於ては工場數は四五に、高爐數は一六五基に減じ内操業せるもの一一五基を數へたるも然し一方一基當りの一週平均生産高は二、五六七瓲に增加し合計一三、二〇〇、〇〇〇瓲に達したのであつた、第五表は一九一三年に比較して過去六年間の發達狀態を示す

第五表　獨逸鎔鑛工場の變遷

年次	工場數	鎔鑛爐數 年末現在爐數	鎔鑛爐數 操業爐數	作業週數 合計	一基當り平均作業期間（週）	一基當り一週平均生産高（瓲）	生産高 合計（瓲）
一九一三年	七〇	二一六	二〇四	九、六八七	四七・五	一、一二七	一〇、九一六
一九二四年	五五	一九三	一三八	四、七八三	三四・三	一、六五五	六、二六七
一九二五年	五六	二〇〇	一四一	五、四〇八	三八・四	一、八六六	七、九一四
一九二六年	五一	一八三	一二七	四、四五六	三五・一	二、一六二	七、七六九
一九二七年	四八	一七二	一三四	五、八一一	四三・四	二、二五二	一〇、三三七
一九二八年	四六	一七〇	一二五	五、一四〇	四一・一	二、二九六	一一、八〇四
一九二九年	四五	一六五	一一五	五、一五三	四四・八	二、五六七	一三、二四〇

備考　一九二九年は概算

調査委員は、戰前戰後の生産能力を決定的に比較することの困難を述ぶると同時に次の如き專門家の意見

を引用して居る卽ち「一九一三年及一九二七—二八年に於ける鐵鋼業の生産能力を理論的に比較することは不可能である」と然し此の兩期間に於ては斯業は殆んど全生産能力に近く作業して居つたのである故に調査委員に於ては此の兩期間に於ける生産高の實際高を以て獨逸鐵鋼業の生産能力を同一と見做した。此の點より見れば（及び第五表に與へた一九二九年の數字より見れば）現在領土の獨逸鐵鋼業は全体より見ても又各部より見ても其の生産能力を大いに增加して居ることは明かである、此の增加は所謂合理化なる題目の下に集まる技術的並經濟的方法の採用に依つて齎らされたものである、是等の手段方法には前述せる燃料の利用、最新式設備の採用、現存設備の改善、組織並管理方法の善化及異なれる生産的單位間の均合等を含んで居る

作業の集中

右の如き積極的合理化方法の外調査委員は亦所謂消極的合理化方法に言及して居る卽ち一定の計畫に從ひ工場を休止すること及び生産品を一層有利の地位にある又は一層經濟的並に能率的基礎に於て作業する他工場に移讓すること等である、近年此の消極的合理化が獨逸の製鋼業に多く見られるやうになつた。聯合製鋼會社組織當時、會社は最も能率ある最も有利の地位にある工場に生産を集中することの外經營上不經濟なる工場を閉鎖することにした

此の問題に關聯し調査委員は次の事を指摘してゐる、調査に從事せる年間中の鐵鋼業の發達は一樣ではな

かつた。一九二五―二六年の不振に次いで斯業は急角の向上運動を示せるがこは幾分英國の炭業罷業及其他の要素に依つて刺戟せられたものである。其の後受註減少し次いで工場作業も活氣を失へるが遂に現在に於ける鐵鋼業は再び危機狀態に置かるゝに至つた、一九二九年六月より一九三〇年八月迄製鐵製鋼所は四割以上の衰退を示し而して現在に於ける斯業の狀態は一九二六年上半期の事情を再現して居るのである、斯くして一九二七年―二九年中の工場の閉鎖は最小限に止まつたが然し一九三〇年の初頭以來、廣範圍の工場休止を必要とするに至つた

合理化に含む鐵鋼業機械化の中最も重要なる特色は壓延工場の電氣化であつて多くの重視すべき經濟を齎らしたのである、新式壓延工場に於て經濟を遂行せん爲めには、ロールを再三取り換へざる樣同一形型の鋼材を繼續的に全能力又は能力に近く壓延作業することが必要である

獨逸の鐵鋼業には戰前既に競爭會社を合同し以て斯業の單位數を減ぜんとするの傾向があつたが此の傾向は、會社の合同に依つて得らるべき燃料經濟の點に鑑み炭鑛業と共に發達した、大會社は經濟的基礎に於て其の工場を經營せんが爲め群小工場の買收を必要とした而して多くの場合其等の小工場の作業を休止し產額を一層有効なる工場へ移讓した

鐵鋼業に於ける此の集中傾向は戰後に至り益々濃厚となれるが其の結果現在に於ては全國產額の大部分の管理は極めて少數會社の手中に歸して居る

二三會社斯業を管理す

獨立會社と見らるゝ多くの會社は實際に於ては互に提携して居ることを忘れてはならない、一例を擧ぐれば、Vereinigte Stahlwerke 會社は、中央獨逸の產額の大部分を管理する Mitteldeutsche Stahlwerke 會社の大株主である、又後者は上部シレジア地方產額の大部を管理する Vereinigte Oberschlesische Hütten 會社の株の大部分を所有してゐる斯の如く聯合製鋼會社に於ては前述二會社の株を所有する點より見れば、其の管理する生產の範圍は實に大なるものである

此の鐵鋼業の生產管理を少數會社の手に置かんとする傾向は鎔鑛爐、製鋼所及壓延工場の各分派に現はれてゐる、例へば現在に於ては、三會社が銑鐵生產高合計の六割八分八厘を管理し、四會社が製鋼高合計の六割八分三厘を管理し、又三會社が壓延鋼材生產高合計の五割五分八厘を管理してゐる有樣である第六表は一九二九年に於ける各分派の會社數と其の生產割合を示す

第六表　（一）銑鐵

生產類別	會社數	全生產高に對する百分比
一、〇〇〇、〇〇〇瓲以上	三	六八・八%
五〇〇、〇〇一瓲―一、〇〇〇、〇〇〇	三	一五・二%
二〇〇、〇〇一瓲―五〇〇、〇〇〇	三	五・八%

一〇〇、〇〇一瓲	一	二〇〇、〇〇〇	六
一〇〇、〇〇〇瓲以下			六・六%
	計	一三	三・六%
		二八	一〇〇・〇%

（二）粗鋼

一、〇〇〇、〇〇〇瓲以上			
五〇〇、〇〇一瓲	一	一、〇〇〇、〇〇〇	四
			六八・三%
二五〇、〇〇一瓲	一	五〇〇、〇〇〇	三
			一二・二%
一〇〇、〇〇一瓲	一	二五〇、〇〇〇	四
			八・八%
八〇、〇〇一瓲	一	一〇〇、〇〇〇	五
			四・二%
八〇、〇〇〇瓲以下			七
			三・八%
			三六
			二・七%
	計		四九
			一〇〇・〇%

（三）壓延鋼材

七〇〇、〇〇〇瓲以上			
四五〇、〇〇〇瓲	一	七〇〇、〇〇〇	三
			五五・八%
二五〇、〇〇一瓲	一	四五〇、〇〇〇	四
			一九・四%
一〇〇、〇〇一瓲	一	二五〇、〇〇〇	三
			八・一%
			四
			五・五%
五〇、〇〇一瓲	一	一〇〇、〇〇〇	一二
			六・八%
五〇、〇〇〇瓲以下			三三
			四・四%
		計	五九
			一〇〇・〇%

勞力と賃銀

諸種の勞働爭議に依る獨逸鐵鋼業の停止に關しては近年中一九二八年が最惡年であつた、同年に於ては、罷業に冒されたる製鋼及金屬諸工業の工場數一〇四を數へ其の傭役職工數三萬一千二百七十三人を算したが其の結果作業空費日數は一九二七年の八三、〇〇〇日に對し約五一一、〇〇〇日に達した、是等罷業の原因は主として賃銀の調和要求であつて、作業時間問題に因るものは一小部分であつた。又同年中工場閉鎖を宣言せるもの三二四工場に及び二一六、〇〇〇人の勞働者が閉出しを食つたが之れに因る作業空費日數は六、〇〇〇、〇〇〇日以上に達した、此の場合に於ても係爭問題の主因は賃銀であつた

最近年間中の獨逸鐵鋼業の賃銀及作業時間を示す調査委員の引用數字は、多くの場合、聯邦統計局發表の數字である、第七表は鐵鋼業の各分派に於て被保險勞働者に仕拂ひたる賃銀の合計と同じく一人當り仕拂高を示す

第七表　獨逸鐵鋼業の賃銀仕拂高（單位百萬馬克）

年次	全國 合計	全國 鎔鑛爐	全國 製鋼所	全國 壓延工場	ラインランドウエストファリア 合計	ラインランドウエストファリア 鎔鑛爐	ラインランドウエストファリア 製鋼所	ラインランドウエストファリア 壓延工場
一九一三年	二六〇・三	四六・四	五八・四	一五五・五	二〇七・六	三三・三	四七・一	二二七・二
一九二四年	二八四・四	四七・七	六三・〇	一七三・七	二二七・六	三五・六	四八・九	一四三・一
一九二五年	三六六・一	五八・六	八六・八	二二〇・七	二九三・三	四五・二	六七・九	一八〇・二
一九二六年	三〇九・六	五四・五	六四・七	一九〇・五	二四七・五	四二・二	四八・〇	一五七・三
一九二七年	三九五・九	六二・三	八二・〇	二五一・六	三〇八・二	四六・三	五九・三	二〇二・六
一九二八年	三九四・二	六一・五	八〇・〇	二三二・七	三〇四・〇	四五・一	五八・〇	二〇〇・九
一九二九年	四二九・九	六八・九	八八・五	二七二・五	—	—	—	—

被保險勞働者一人當り仕拂高（單位馬克）

年次	全國 鎔鑛爐	全國 製鋼所	全國 壓延工場	ラインランドウエストファリア 鎔鑛爐	ラインランドウエストファリア 製鋼所	ラインランドウエストファリア 壓延工場
一九一三年	一、七〇〇	一、七一〇	一、七三〇	一、七七〇	一、八六〇	一、八二〇	一、七三〇
一九二四年	一、九二〇	一、九二〇	一、九二〇	一、九一〇	二、一九〇	二、〇五〇	一、九一〇
一九二五年	二、四〇〇	二、五二〇	二、四五〇	二、三六〇	二、五二〇	二、七〇〇	二、五五〇
一九二六年	二、五〇〇	二、六五〇	二、五五〇	二、四五〇	二、六三〇	二、八五〇	二、七〇〇
一九二七年	二、七七〇	二、八九〇	二、八〇〇	二、七三〇	二、九〇〇	三、一一〇	二、九五〇
一九二八年	二、八六〇	三、〇一〇	二、八六〇	二、八一〇	三、〇〇〇	三、二五〇	二、九六〇

一九二九年	三、三五〇	三、二六	二、九三	二、九六四

獨逸鐵鋼業各種勞働者約五萬五千人に關する一週平均作業時間（時間外勤務を含む）及週平均所得高（時間外勤務と一人當り社會費仕拂金を含む）とを第八表に示す

第八表　作業時間と一人當り賃銀

	鎔鑛爐 一週作業時間	鎔鑛爐 一週所得高（馬克）	製鋼所 一週作業時間	製鋼所 一週所得高（馬克）	壓延工場 一週作業時間	壓延工場 一週所得高（馬克）
鎔鑛職又は壓延職	五四	六四・〇二	五一¼	七三・三九	四九¾	七七・四五
二級職工	五三¼	五六・七五	四九¾	五八・二五	四八½	六七・三一
三級職工	五三¼	五五・三一	四九½	五四・一〇	四八¼	五六・九八
其他の勞働者						
出來高拂	五六¼	五八・九二	五〇⅛	五四・一九	五〇¾	五五・七七
時間拂	五七¾	五一・七八	五一¾	四五・九二	五三	四五・一八

（出來高拂又はボーナス拂作業）

各分派に依り一週作業時間に差異あるは鎔鑛爐の作業は繼續的のものであり、之れに反し製鋼所に於ては、時折日曜日の作業を見るに過ぎず又壓延工場に於ける日曜日の作業は殆んど稀であるからである。

各場合に於ける所得高は前述の通り時間外勤務に對する手當を含むものであつて、此の時間外勤務は鎔鑛爐に於ては平均一週三十分製鋼所に於ては一時間十五分乃至二時間、又壓延工場に於ては一時間乃至一時間三十分である。

聯邦統計局に於ては「一九一三年—一四年」と一九二八年十月との週平均所得並一時間當り平均所得の比較を試みて居るが此の比較は、種々困難なる事情を含んで居る關係上全く精確とは云はれない、又週所得高の比較に關しては、戰後は戰前に比し、作業時間數を短縮せる關係上更に比較に困難なるものがある例へば、鎔鑛爐、製鋼所及壓延工場に於ける壓延職並鎔鑛職の一週作業時間數は約二割、其の他の勞働者の作業時間數は約一割六分方の短縮を示してゐる、第九表は鎔鑛爐、製鋼所及壓延工場に於ける一時間當り並に一週當りの平均所得高（時間外勤務の手當並社會費を含む）に關する戰前戰後の比較を示せるものであるが一九二八年十月の一週實際所得高は一九一三—一四年の所得高に比し、鎔鑛爐に於ては四七%乃至九〇%、製鋼所に於ては二八%乃至六五%、壓延工場に於ては三五%乃至七四%の增進を示した

第九表　戰前戰後の平均所得高比較

	一時當り平均所得高 一九一三—一四年	一時當り平均所得高 一九二八年十月	一週當り平均所得高 一九一三—一四年	一週當り平均所得高 一九二八年十月
鎔鑛爐	五九・八 Pfen	一〇九・八 Pfen	三九・八九 Mks	五八・八五 Mks

其他勞働者（〃）	五二・八	一〇四・九	三五・〇九	五八・九二
時間拂	四一・二	八九・九	二七・一八	五一・七八
製鋼所鎔鋼職				
鎔鋼職（出來高又はボーナス作業）	七七・三	一二四・三	四八・九五	六二・四八
其他勞働者（〃）	五三・四	一〇七・二	三二・八四	五四・一九
時間拂	四五・四	八八・六	二七・九二	四五・九二
壓延工場				
壓延職（出來高又はボーナス作業）	八二・二	一三八・四	四九・八一	六七・四九
其他勞働者（〃）	六七・〇	一〇九・九	三四・一八	五五・七七
時間拂	四三・二	八五・一	二五・九三	四五・一八

勞銀費

近年內國及輸出市場に於ける鐵鋼價格と兩者間の大なる開きに關し大いに吟味論究せらる所があつた此の論究は遂には概ね生產費問題に轉向し、戰後に於ける生產費の增大、又は生產費を構成する重大なる各項目例へば賃銀、原料及減價償却費等に就いて吟味せらるゝことゝなつた

賃銀費の實際レベルの問題に關しては著しき意見の相違がある、勞働者側に於ては、賃銀なるものは成品生產費合計の僅に一小部分を含むものゝ主張してゐるが又其の引證する數字は、最終作業又は一部作業に從事せる職工に仕拂へる賃銀を基礎したる數字である。一方に於ては賃銀なるものは生產費の大部分を含むものゝ主張し此の論據に對しては、原料から最終生產過程に至る最終成品の生產に從事した一切の職工に仕拂ひたる賃銀を土臺とした數字を引證して居る。調査委員に於ては此の兩極端論の中間進路を取ることに努めて居る、他方減價償却問題に關しては工場に依り大いに事情を異にせる旨を指摘してゐるが、賃銀費と減價償却費とは互に反作用するのは明かであつて近年減價償却の支辨高は增加の傾向を辿つて居る。多くの場合此の傾向は全原價に於て之れに相應する節約を齎らすことなく只單に一項目から他項目へ移讓せしめたのみである、不況時に於ては、合理化へ割當らるゝ一定額は生產費に重荷を負はすものである

原料費

調査委員は、獨逸鐵鋼業の生產費中原料の重大を大聲し、原料費は成品生產費合計中の約七割を占むることを言明して居る(稅金、社會費、利息、減價償却費を除外して)、此の七割と云ふ百分比は平均であつて、タイプ及成品の品等に從ふて工場に依り異なるものである、戰後獨逸は鐵鑛石の供給に關しては頗る不利の立場に在つて前述の通り鐵鑛山を喪失せるが爲め瑞典の鑛石生產業者と比較的高い價格で長期契約を締結したのであつた。獨逸に於ては、シーメンスマルチン鋼の生產は戰爭直後、屑の供給豐富であつた爲め大に增大したが然し其の後斯業はトマス鋼の生產に一層注意を向けるやうになつた。世界的の經濟難と價格の一般的下落あるにも拘らず瑞典鑛石の相場は一九三〇年の最終四半期まで僅少の値下りを見せたのみである、こは瑞典の採鑛業が比較的少數會社の手に行はれ從つて一樣の價格政策を採れることに半ば原因するものである

隣接諸國の競爭

獨逸鐵鋼業の强敵は佛、白及ルクセンブルグの主要會社であつて其の大部分は、ローレヌ、北部佛蘭西及ルクセンブルグ內の鐵鑛山附近に工場を持つて居る、獨逸よりも低廉なる賃銀、稅金及社會費の方面に於て是等諸國が享有する便益は又頗る低廉なる鑛石の元價に依つて一層强められて居るのである、たゞへ前者の諸要素が除去せられても、鑛石の供給確保に多大の費用を要する爲め獨逸は尙不利の立場に置かるゝであらうこは調査委員の意見である。銑鐵一屯を生產するにミネット鑛石は三瓲、瑞典の富鑛は一・七瓲を要するに過ぎないが然し之を以て西歐諸國が享有する利便を相殺するには至らない何こなれば近年生產過多の諸國から骸炭の供給が十分に得らるゝやうになり又是等の西歐諸國(佛白、ルクセンブルグ)に於ても骸炭の生產高は近年著しく增加するに至つたからである、斯くの如く鑛石の品質劣等なる故を以て西歐諸國が必要と

した骸炭の供給は、比較的低廉なる價格で容易に手に入るやうになつたのである

調査委員は又次のやうに言明して居る是等西歐諸國の鐵鋼業は、各種社會費の支辨少なきが爲め生產費の點より見れば獨逸よりも一屬有利の地步を占めて居る。此の獨逸の社會費支辨には二種類あつて一は法律上强制せらるゝもの、他は自發的のものである、此の社會費は勞力費中重要項目を成すもので調査委員は次の如く論じて居る。自發的社會費支辨は頗る長い間行はれて居るが且習慣傳統に依つて非常に强められ此れが爲め今では、法律上の義務を有する支辨と殆んど同樣の束縛的性質を有して居るのである。一九二七年に於ては、此の法律上の義務を有する社會費支辨高は勞銀費合計中約七・五%を占め一方自發的支辨は約二・五%を占めて居つた。此の社會費支辨中に含むものとしては職員職工の病氣治療費、家族手當、家賃其の他之れに類する各種の支辨である、斯業の競爭的見地よりすれば此の社會費の支辨は重要性を增すものと見られて居る何となれば最近年間に於ける歐大陸諸國の此の支辨高は獨逸のものに比し著しく少く且現在に於ける兩者の差異は頗る大であるからである

戰前戰後の生產費

戰前戰後に於ける獨逸鐵鋼業の生產費を斯業全体より精確に比較することは、工場に依り事情を大いに異にせる爲め極めて困難であるが然し全部に亘る生產費の平均概算は一九二七年に於ては一九一三年に比し約

二割を減少したと調査委員は云つて居る又同時に一九二七年に於ける「バー」の正味生產費は屯當り一一一馬克に達したと云つて居るがこは概算にあらずして精確なる數字を言つたのである、又前述せる二割と云ふ數字は正味生產費に就て云へるものであつて卽ち稅金、社會費、利子等を除外せるものである。此の正味生產費二割の減少は主として斯業の機械化及合理化に原因するもので此の機械化及合理化は、勞力節減設備の採用に依り每年減價償却費の增加を必要ならしめたのである、此の增加は勞力費の節減を或る程度まで相殺することは明かである、此の外記憶して置かねばならぬことは、一九二七年に於ける獨逸の鐵鋼業が比較的高率の作業を行ひ此れが爲め合理化の下に期待した經濟を遂行することが出來たことである

一九二七－二八年の大半斯業は高率の作業を行ひ一九二九年初頭に於ける作業率は一九二八年十一月の停業後の影響で、生產能力の九九%に達したのであつた。一九二九年六月に於ける粗鋼の生產に關する調査委員の見積に依れば斯業は生產能力の一〇〇%の作業を行つて居つたが其の後減少して一九二九年末には八四%となり一九三〇年六月には六五%に減し爾來減少の步を辿つて居ることは勿論である

流動準備金の不足

調査委員は左の如く述べて居る

正味生產費の考察に於ては稅金、資本、利子及減價償却費等の項目は除外したが然し是等の項目は全生產

費中に於て輕視すべきものではない、獨逸の鐵鋼業に於ては周知の如く近年科學及技術の進展著しく其の結果現存設備の改造、擴大並新工場の建設を見るに至り從つて生産能力は前述の通り大いに增加したのである、是等の改造並に擴張は多額の資本を必要とした。借入資金の外製鋼會社に於ては又剩餘益金の再投資に依り改善並擴張を幾分行つた。流動準備金に關する鐵鋼會社の事情を調査して見るに近年獨逸の斯業に於ては殆んど相當の流動準備金を用意してはゐないと云つてよい

合理化と減價償却費の增大

鐵鋼業合理化の結果として工場は一段減價償却費の重荷を負へることは專門家の共に認むる所であつて技術の進歩は人力の代りに機械を以てし斯くして勞力費を減じたのであつたが然し每年減價償却費を著しく增額するの必要に迫られたのであつたことは調査委員全部の意見である

一方合理化は工場の生産能力を增加するの外或る場合に於ては著しき生産的經濟を齎らし又製品の品質を改善した、故に生産一單位當りの一般作業費並勞力費は減ぜられたのであるが然し此の生産費減少の工業的重要性を餘りに過大視してはいけない。新に合理化された工場は主として增大された機械化の結果として以前よりも多量の燃料と動力との供給を必要とするものであるが又加ふるに、新工場に其の作業を移して休止せる舊工場の減價償却費を仕拂はねばならない。茲に最も重要なことゝして忘れてはならぬことは、合理化

に依つて成さるゝ生産的經濟を得んが爲めには、比較的高度の作業を行ふ工場の生産高を吸收するに十分な市場を把握せねばならぬことである

不況時工場の作業思はしからざる際には、好況時に比し利益の少きは勿論であるが亦合理化された工場は多くの場合廢止した舊式工場に比し作業費は一層嵩むもので以前より非經濟的立場に置かるゝものである

不況時に超機械化は危險

此の傾向の一例として調査委員は、最新の設計と最新の設備とを以て建設された新壓延工場の場合を引證して居る、即ち同工場は、減價償却費を差引いた後、舊壓延工場よりも作業費に於て四%の利益があつた、然し此の作業費の利益は、舊工場の三倍の生産能力を有し且能力一ぱいに作業して居つた新工場を土台としたものであつた。然し不況に際會して生産一單位の生産費は增加し此の利益は喪はれた、其の結果暫時にして、生産費は減價償却を引き去りたる後、舊工場のそれに比し四%高くなつたのである、故に調査委員は次の如き意見を述べて居る、即ち鐵鋼業に於ける機械化並技術的改善の增大は不況時に於ては極めて危險性を帶びるものである、何となれば工場に於ては經濟的立場を維持せんが爲め高率の作業を無理押しに繼續し斯くして市場の經濟事情の許す額以上に生産するの傾向があるからである

一体是等の要素は斯業の合理化計畫を成せる際に考慮に入れて置かねばならなかつたのであるが鐵鋼業の

指導者等は勞力費、燃料費其の他の增費に因り生產費が增大せる關係上合理化計畫の採用を餘儀なくせられたのであつた、尙技術的改善の可能性並其の反響に就て誤解し又十中八九利率は急速に引下げらるゝものゝ誤認して行ひたるものであるゝ調査委員は云つて居る

鐵鋼業の全生產費に對する固定費割合の質問に對し、斯業指導者の答はまちまちであつたが然し固定費が全生產費の三割以下であるゝは一人も言はなかつた、其の大多數は全生產費の平均約五割に達すゝ云ふ意見を持つて居つた、固定費ゝは工場の作業ゝは直接の關係なき稅金、減價償却費、利子、俸給、其他の費用を指すのである

價格

調査委員は左の如く言つて居る

各國間の鐵鋼價格を精確に比較することは、割戾、運賃の相違、製品々位の相違等あるを以て困難であるが、大体の比較は第十表に示す通りである

第十表　各國國內銑鐵價格比較（屯當り馬克）

年次	銑（マタイト銑）ライン地方	銑（マタイト銑）東海岸FOB（ミッドルスボロー）	鑄物銑 獨逸鑄物銑第三號（クオセル）	鑄物銑 クリーブランド第三號FOB（ミッドルスボロー）	鑄物銑 ペンシルバニア第三號（ルクセンブルク又は國境）	鑄物銑 佛蘭西鑄物銑第三號（東部工場）	鑄物銑 白耳義鑄物銑第三號（仕向地持込値段）
一九〇九―一三年	七一・二八	六五・九九	六六・〇三	五二・九一	五四・三七	六一・七六	五七・九一
一九一三年	八一・五〇	七六・〇二	七四・五〇	五九・四九	六三・〇三	七〇・一二	六五・五一
一九二五年	九七・〇六	七九・五五	八八・九九	七五・五一	七四・四八	六八・二九	六七・七三
一九二六年	九三・五〇	八二・二三	八六・〇〇	六九・〇〇	六七・五三	六七・四一	六六・四一
一九二七年	九二・〇〇	七九・四五	八三・三三	七三・六七	七二・三三	七七・七五	七五・九七
一九二八年	八七・五〇	七〇・一四	八二・〇〇	六六・一五	七一・〇〇	七二・六八	六八・八一
一九二九年	九一・〇〇	七五・二六	八三・八九	七〇・七六	七三・五二	七七・八〇	七二・一四
一九三〇年　三月	九一・〇〇	七七・一六	八五・〇〇	七〇・三七	七五・〇〇	八〇・六一	七三・三〇
一九三〇年　六月	八八・五〇	七三・〇一	八三・〇〇	六七・八六	七二・〇〇	八〇・六一	七二・三八
指數―一九〇九―一三を年一〇〇とす							
一九一三年	一一四・三	一一五・二	一一二・五	一一二・四	一一五・九	一一三・五	一一三・一
一九二五年	一三六・二	一三〇・六	一三四・六	一四一・七	一二六・九	一二〇・五	一二六・九
一九二六年	一三一・二	一二四・六	一三〇・三	一六一・一	一二六・九	一〇九・三	一二四・六
一九二七年	一三八・一	一二〇・四	一二六・二	一三九・二	一二三・〇	一二五・九	一三一・二
一九二八年	一三二・七	一〇六・三	一二四・二	一二五・〇	一二〇・六	一一七・七	一一八・九
一九二九年	一二七・七	一一四・〇	一二七・一	一〇八・九	一二五・二	一二五・九	一二四・六
一九三〇年　三月	一二七・七	一一六・九	一二八・九	一二三・九	一二七・九	一二〇・五	一二六・四

一九三〇年　六月	三四・二	二〇・六	三五・七	三八・二	二四・九
			二四・一	二三〇・五	

右の比較表を見るに、獨逸の銑鐵價格は他國に比し高價で又一般的に云へば、其の差額は獨逸の銑鐵輸入稅(屯當一〇馬克)よりも大である

ブラッセルの白耳義鐵鋼取引所は、鐵鋼の輸出貿易に於ては頗る重大なる地位を把握するもので各種鋼材に對するアントワープ渡の市價は通例國際貿易に於ける鋼材の基礎相場と見做されて居る關係上、世界市場に於ける鐵鋼の一般需給狀態を指示するものである

大抵の鐵鋼生產諸國に於ては、國內相場と輸出相場とを異にし國內價格は通例輸出價格よりも非常に高價である。又或る國に於ては、仕上工業は、加工して輸出市場に賣出す原料鋼に對し割戾を附與されて居る

第十一表　鋼材價格(屯當り馬克)

年次	棒鋼	ガーダー	厚板
△一九一三年	一一七・一一	一三二・六四	一二五・四七
△一九二五年	一一三・四七	一〇九・一〇	一三五・三〇
△一九二六年	一〇二・五一	一〇〇・九一	一一四・三九
一九二七年	九六・七五	九四・二一	一二一・六〇
一九二八年	一一四・五四	九七・四三	一二七・一八
一九二九年	一一五・八一	一〇一・八七	一二六・四三
一九三〇年一月	一〇五・七六	九九・八三	一二七・一七
二月	一〇六・八一	一〇〇・七八	一二九・一八
三月	一〇八・〇七	一〇二・〇四	一三一・一九
四月	一〇八・〇七	一〇二・〇四	一三一・一九
五月	一〇八・〇七	一〇二・〇四	一三一・一九
六月	一〇八・〇七	一〇二・〇四	一三一・一九
七月	九八・〇八	一〇〇・六六	一一九・七六
八月	八七・七一	九六・五一	一〇七・一九
九月	八五・二〇	八一・三一	一〇一・五四

備考　△印は國內價格
FOB　アントワープ相場は一九二七年よりより始まる

右表卽ち第十一表は一九一三年と一九二五年より一九三〇年に至る棒鋼、ガーダー及厚板のアントワープ渡一屯當りの價格を示すものであるが、調査委員は次の如く指摘して居る

獨逸に於ける生產費の高價(一九二七年の棒鋼純作業費—一一一馬克)と國內價格の割高と並に獨逸壓延鋼材取引總高に對する輸出貿易の持分が近年重大となれることに想到する時には輸出市場に於ける前記の代

表的鋼材の數字は法外に低廉であるが尙製鋼業が輸出取引から得たる實收は前表の數字に依つて示されたるものよりも少である何ごなれば、F O B で價格を定める場合當然獨逸製鋼業者が支拂ふべき運賃を考慮に入れねばならないからである。F O B アントワープ相場を基礎として是等の運賃は平均屯當り五馬克である

第十二表は、棒鋼、ガーダー及鋼板の獨逸國內價格ごF.O.Bアントワープ價格ごの開きを示すもので あつて、一九一三年に於ける獨逸國內市場價格は輸出市場の價格よりも低廉であつたが最近五ヶ年間に於ては逆轉狀態を呈して居る

第十二表　獨逸國內價格ごF O Bアントワープ價格ごの差（屯當り馬克）

年次	棒鋼		ガーダー		鋼板	
一九一三年	(一)	八・六一	(一)	一九・八九	(一)	五・三七
一九二五年		一八・八八		二二・〇五		九・八五
一九二六年		三一・一一		三〇・〇四		三四・三六
一九二七年		三七・二五		三六・七九		二七・三〇
一九二八年		二四・九二		三九・〇三		三〇・一二
一九二九年		二五・一九		三六・一三		三三・五七
一九三〇年七月		三八・九二		三三・三四		三五・二四
八月		四九・二九		三七・四九		四二・八一
九月		五一・八〇		五二・六九		五三・四六

一般的に言へば近年兩者の開きは頗る大であつて特に一九三〇年の後半期に於て著しきものがある。一方獨逸に於ては、壓延鋼材に對し屯當り約二十五馬克に達する保護關稅のあることを忘れてはならない又獨逸の國內及輸出價格を考察するに際しては、鋼の輸入者が支拂ふべき運賃を考慮に入れねばならない、此の運賃はオーバハウゼン運賃相場を土台として屯當り約八馬克である、獨逸鋼材の國內相場ごの開きは多くの場合關稅ごを合せたる數字卽ち三三馬克より大であることは表示の數字に見て明かである

屯當り二五馬克の關稅が設定されたる際、之れに代る何等かの補償方法が講ぜられない限りは獨逸の鐵鋼消費工業は（消費工業の多くは其の全生產高の五割以上を輸出す）輸出市場に於ける其の競爭力を妨げらるであらうごと云ふことが指摘されたのであつた、故に獨逸の鐵鋼消費工業に於ては、諸外國に對する其の競爭的地位が著しく弱めらるゝごと云ふことゝ特に外國に比し賃銀、社會費、利子等の割高ごを盾ごして關稅に反對を唱へたのである、此の抗議の結果鋼生產業ごと消費工業の代表者間に協議行はれ遂に協約の達成を見るに至つた。之れ卽ちアヴイ協定（Avi agreement）である

本協定に依り獨逸の原料鐵鋼業者は消費鋼業者に對し其の買入るゝ一切の原料（但し之を輸出用鋼材に加

工するもの）に割戻を附することゝなつたが、此の割戻は國内相場と輸出相場との間隙を補塡し且鋼消費工業をして、世界市價にて其の原料を入手せしむるやう企圖せられたものである。銑鐵の消費者に對しても亦同樣の協定が實行されて居る

調査委員の述る所に依れば此の「アヴィ割戻は國内相場と輸出相場との間隙を必ずしも十分に補ふたとは云はれない、時には鋼消費工業の要求に對して滿足を與へなかつた然しながら調査委員の調べた鐵鋼業の代表者は次の如く言つて居る、即ち

一般的に云へば此のアヴィ割戻は妥當のものであつて少くとも獨逸の鋼消費工業を諸外國の斯業と同樣な有利の地位に置いた隨つて十分其の使命を果して居る」と

諸外國中に於ても亦右と同樣な割戻の協定が或種の鋼材に對して實施されて居る。佛蘭西は其の一例である

調査委員は、獨逸の鋼消費工業の地位と一般經濟組織とに對する此のアヴィ協定の反響問題に就いて論じて居る

近年特に目立つて來た鐵鋼消費工業の輸出市場に於ける活動の增大はアヴィ協定の賜であると製鋼業の代表者は主張して居るが然し調査委員に於ては此の意見を留保し、アヴィ協定の反響は獨り輸出貿易のみに止まらず、其の影響する所廣大であることを指摘すると同時に又國内價格の割高は獨逸の一般經濟組織に對し

て危險なる重荷となつて居ることを述べて居る、抑もアヴィ協定は國内相場と輸出相場との開きを漸次に縮むるものと期待されて居つたが然し近年中の狀態は全く反對で其の開きは減ずるよりも却つて增加する一方である

アヴィ協定と國内價格の割高

調査委員は次の如く述べて居る

鋼生產業者と鋼消費業者との間に締結された此のアヴィ協定は、國内にて消費する鋼の買手に對し割高の價格を課するの政策を採らしむるに至つた、此の政策は獨逸の重要諸工業特に大規模に鐵鋼材を使用する工業に對し尠からざる重荷を負はせて居る、即ち公私の建物を含む建築工業、橋梁道路等の架設築造を含む地方自治團體の土木事業等は頗る打擊を受けて居る次第であるが、此の政策の採用は若し製鋼業にして獨逸の國内市場を獨占して居る事實がなかつたとしたならば不可能であつたであらう而して此の獨占的地位は、各種鋼材の販賣並に價格を管理する且獨逸製鋼業の殆んど全部を抱含するシンヂケートの組織に依つて得られたものである。獨逸製鋼業者間の競爭は、以前シンヂケートに參加して居らなかつた重要會社の大多數が今や之れに加入するに至つた爲め殆んど除去せらるるの狀態となつたのである

國際協定

斯くの如く共倒れ的の競爭を除去するの外獨逸の製鋼業者は亦他の大陸諸國の製鋼業者と協定し各自の市場を保護するの目的を以て內國市場に對する外國の競爭を制限して居る、本協定は獨逸の鋼市場に對し隣國から賣込まるゝ鋼製品の大部分に適用するものであるが但し白耳義との協定は其の主要會社の少數に限られたる關係上、本協定に加入せざる白耳義の諸會社から時折猛烈なる競爭を受くることがある。概して云へば近年本協定は、獨逸市場に對し協定額以上に賣込まんとする鋼材の防止に効果を收めて居るのである、然しながら世界的經濟難を呈せる最近の異常狀態の下に於ては强ち十分効果を收めたとは云はれないが然し、世界市價と獨逸の內國市價との開きが五割以上に達する事實あるにも拘らず、協定以上に輸入せられんとする外國鋼の侵入を比較的少くする上に預つて力があつたと云へる

財政結果

調査委員は獨逸鐵鋼業の財政事情を論ずるに方り、次の如く言つて居る

近年財政狀態の進展は注目に値するものがあるが然し製鐵製鋼所の財政結果を各個に調査することは其の事業を合同せる關係上困難である、鐵鋼業に於ける主要會社の大部分は銑鐵、粗鋼、壓延鋼材の生產の外、炭山、骸炭爐、化學工業等の如き諸工業にも經濟的の關係を有して居る故に調査し得らるゝものは合同事業の總合的結果のみである

鐵鋼、石炭骸炭を抱括する數多の代表的合同會社の財政結果を示す公表數字に就て見るに十六乃至十八會社に關する其の長期借入金の合計は一億八千二百万馬克（一九二五—二六年度）から九億七百萬馬克（一九二八—二九年度）に增加し又其の短期借入金の合計は五億四千八百萬馬克から八億四千八百萬馬克に增加してゐる、右の數字に依つて見れば、近年工場の擴張に投ぜられた資金は會社の準備金より出でたるものでなく、長期短期の借款を之れに充當せるものと思惟せらるゝのである。第十三表は鐵鋼並炭礦業に從事せる前記會社の減價償却と益金とを示す

第十三表　獨逸鐵鋼會社の減價償却と利益

年次	減價償却（百萬馬克）	繰越金を含む利益（百萬馬克）	資本價値の百分比として表はせる減價償却	株資本の百分比として表はせる利益
一九二五—二六年	六七	二九	六・八	二・六
一九二六—二七年	五三	五四	六・九	四・七
一九二七—二八年	一三六	九九	七・三	五・九
一九二八—二九年	一四五	八九	七・三	五・二

輸出價格の割安

獨逸の國內市場は經濟事情の順調時に於てさへも其の鐵鋼業の現在生產能力を維持し行く程十分でない故

に現今の如き不景氣時代に於ては尙更の事である。其の結果獨逸は勢ひ其の鐵鋼生產品の幾部分を低廉なる價格で輸出せざるの止むなきに至り而して內國市場の價格を高くし以て輸出價格の低廉を補償するの策を取つたのであると調査委員は云つて居る又同時に調査委員は、現況の下に於ては此の上生產費を切下げる望は極めて影が薄いと見做して居る然しながら輸出を制限せよと云ふ調査委員の提案は獨逸の主要鐵鋼製造業者の目的と全然撞着するものである何となれば彼等は、輸出の增大は斯業の作業を高率に維持する上に預つて力があり從つて生產費一單位當りの作業費を減ずるものであると云ふ意見を懷いて居るからである。勿論備主側に於ては斯くの如き政策は現在の如き時期には實行し難い事は認めて居るが然し現今の不景氣は異常現象であるが爲め事態が平時に立歸る場合には妥當の政策であることを彼等は主張して居る、現在蒙りつゝある損失を除去せんが爲めに輸出を制限せんとする調査委員の提案は、生產高の削減を必要とし從つて現在工場の幾らかを休止せねばならないであらう、こは直ちに資本の損失を招くであらうと思はるゝが然し輸出市場損失の反覆循環を防止することに依つて斯業は經濟的基礎に置かれ從つて斯業の財政狀態の改善に依り內國價格の引下を可能ならしめ結局國內需要の增加を招くことゝなり此れが爲め最初蒙つた損失を相殺するに至るであらうと論ずることが出來る

調査委員は現況の重大を大聲すると同時に斯業の根本的難件が過去數年間の比較的好況期間中に於て少しも緩和されなかつたと云つて居る

最後に調査委員は次の如く決定的の意見を述べて居る

近年に於ける獨逸鐵鋼業の難局は外界の經濟事情に基くものでなく斯業の結構素質に因るものであるが爲、永久的の作業要素に依つて自ら支配されて居るものである故に獨逸の鐵鋼業が直面せねばならない根本問題は、現在に於ける內外市場の經濟難を如何にして切り拔けるか、又一方に於ては其の生產的資源を如何にして最もよく保存するかに在るのではない。現在の不景氣が去つても尙斯業は、斯業現在の組織內に固着して居る重大難件から離れ難く而して是等の難件が根絕せらるるまでは强固なる基礎上に立つことは出來ないであらう。要は近年中鐵鋼業が採り來れる誤れる政策を根底から覆すことである。誤謬は斯業の合理化に在るのではなく、有り餘る程に能力を增進するが如き合理化に在るのである。正當なる政策としては斯業の合理化と同時に其の生產能力を相當程度に制限することであつた、若し此の政策が採られて居つたならば、斯業は其の生產品を國內市場で處理し得られたであらうが爲め損失を見てまでも之を輸出するの必要がなかつたであらう、從つて輸出市場に於ける夥しき損失を補ふ爲め國內市場の價格を法外に高くするの必要もなかつたであらうと思はる

結論（合理化と剩餘能力）

政府調査委員の報告に對する鐵鋼業者の抗辯

獨逸の鐵鋼業に關する前文政府調査委員の報告に對する當業者側の抗辯要旨次の如し

獨逸の鐵鋼業者組合（Verein Deutscher Eisen und Stahl Industrieller）は、斯業現在の危機狀態に關する政府調査委員の陳述に就いては十分同意する所あるも、斯の如き事態を齎らしたる作因的要素の分解に於て根本的に意見を異にしてゐる

廣く言へば、彼等は獨逸鐵鋼業の現狀は、世界的經濟難の反響特に現時鐵鋼材に對する需要の不足に歸因するものゝ爲して居る、他の歐洲諸國より比較的割高の賃銀、社會費及稅金を支辨することに依り斯業の苦難は諸外國に比し一層大であることを指摘すると同時に、獨逸鐵鋼業の肩上に重荷を課する此等の高費用は、近年獨逸當局が採れる政策に大部分原由するものであると云つて居るが又彼等は政府調査委員の推論の基礎となれる事實の多くは間違つて居ると公言して居る

能力問題

能力問題に關し當業者側に於ては、現在獨逸の生產能力が、廣大なる領域を有せる戰前獨逸の生產能力と匹敵する程增大するに至つたと云ふ調査委員の報告を否定して居るが又同時に獨逸の市場が好況期に於てさへ鐵鋼業を維持するに十分でなく、現時の如き不景氣時代に於ては尙更のことであると云ふ同委員の陳述をも否定して居る。當業者側に於ては又其の論爭を支援せんが爲め、著しく能力を增大せる斯業が一九二七年

より二九年に至る年間に於て屢々十分の作業を成せることを調査委員側に於ても認めた報告內の記事中より數句を引證して居る。例へば一九二九年の六月製鋼業は能力の百パーセントに於て作業し、又一九二七年に於ては需要の殺到に依り獨逸の工場は全部忙殺されたこの陳述を擧げて居る。尙當業者に於ては、製鋼業の生產能力に關する彼等の意見を立證せんが爲め次の數字を引證してゐる卽ち現在の生產能力は戰前のレベルよりも著しく低く戰前獨逸の七萬三千瓲に對し現在獨逸の生產能力は一日五萬八千瓲であつて年約五百萬瓲の減少卽ち二割以上の減少を來して居る。ザールが獨逸關稅地域內に復歸したものゝ見ても其の差は戰前の能力に比し尙約三百萬瓲卽ち一割五分の減少を示すであらう」と

平和條約に依り斯業の組織一變す

斯業難境の原因は過剩能力に在りとは云はれない從つて過剩資本化の故でもないとは鐵鋼業者の論點である。彼等は調査委員の輸出を制限し工場の若干を休止せよと云ふ勸告は現狀を見るの誤解に基けるものであると公言して居る又斯業の難境は、其の原因が元來政府當局の政策に依つて斯業に課せらるゝ重荷に在るを以て輸出の制限や工場の休止に依つて救はるゝものではないと反駁して居る、又彼等は獨逸製鋼業の組識は平和條約に依つて一變せること卽ちローレヌ鑛床と上部シレジア炭田の喪失、軍需品生產の禁止並佛、白、ルクセンブルクからの熾烈なる競爭等に因つて斯業の組織は全く一變せることを告白して居る。鑛石供給の獲

得費用は、西歐主要諸國の其れに比し著しく高價で加ふるに割高の利子と資本費とを支拂はねばならない、特に前者の重大なことは、鑛石費が壓延鋼材生産費合計の三分の一を占めて居る事實に依つて明かである。

是等の難件は戰後獨逸の當局が採れる政策に依つて一層惡化してゐるが調査委員側に於ては此の政策に就いては少しも考慮を拂つてゐない、過去五ヶ年間中費用增加の一例として傭主側に於ては次の如く指摘してゐる

「此の期間中に於て獨逸共和國内の被保險勞働者の平均賃銀は三割九分を增加し同時に稅金は五割七分の增進を示した此れに反し例へば棒鋼の價格は一九二五年以來殆んど變化なく一九三〇年の夏に於て僅に五パーセントの增進を示して居つた然るに同年六月三パーセントの引下を見たが爲め棒鋼の價格は一九二五年に比し僅に二パーセントを增進したに過ぎなかつた尙工場が可なりの好況に惠まれて居つた一九二六―二八年の期間中骸炭の價格は一九二四年の其れに比し一割方の低廉であつた」と。鐵鋼業と炭礦業とは一の聯合工業を成して居る關係上當業者側に於ては主要工業現在の危機狀態を價格の高價に歸屬せしむることは出來ないとの議論の證左として前記の價格を引證してゐるのである

政府當局の政策と生産費

當業者側に於ては又左の如く繰返してゐる

當局の政策は直接間接、生産費上に致命的の影響を及ぼしてゐる、其の影響は生産費中の重大項目たる鑛石費、資本並に利子よりも更に重大である、全生産費中の三分の二は當局の採れる一般政策に左右せられて居るのである、若しそれ戰爭の結果として鐵鋼業の組織が一變して戰前よりも困難なる事態を呈して居るならば當局は宜しく重稅を課して事態を益々惡化せしむる代りに之れを改善せしむるの方策を取らねばならない。現狀の下に於ては此の上生産費を切下ぐる餘地はなからうと云ふ調査委員の陳述は、結局當局の政策が斯くの如くある場合に限らるゝ見解であつて生産費切下の可能性は眞に爲政者の政策如何に依るものである

資本化

資本化問題に關し政府調査委員は其の報告に次の如く述べて居る

「近年鐵鋼業に依つて爲された工場擴張費の大部分は長期並に短期借入金を以て之れに充當し而して新工場の建設、現在設備の擴大に依り鐵鋼會社は舊工場の價値を感じた、尙獨逸鐵鋼業の經濟的作業と國際的競爭能力とは、新工場が舊工場の閉鎖に伴ひ原價償却費の重荷を負へるが爲め頗る惡影響を蒙るに至つた。尙獨逸の斯業が採れる合理化手段と之れに、必要とする莫大なる新資本とは現在の經濟事情に順應せるものであるか否やは一大考慮を要する事柄である。」

本問題に關し當業者側に於ては新工場が舊工場の閉鎖に伴ひ其の原價償却費の重荷を負ふことゝなつたと云ふ調査委員の所論を否定して曰く「斯業の資本化に關する調査委員の一般推論の基礎を成す數字は不精確である、一九二五年より一九二九年に至る鐵鋼所の資本價値は、三五八百萬馬克を增加し調査委員の報告にあるやうに九八六百萬馬克は增加してゐない故に實際の增加額は調査委員の報告數字の約三分の一に過ぎないのである、而して此の增加は好況期間中に出來たもので年當り僅に六パーセントの增加に過ぎない、此の程度の增加は斯業の重大性に鑑みれば相當と見做さるべきものである、尙此の擴張費は大部分外國資本を以て之に充當せるが爲め、內國信用市場の狀態には惡影響を及ぼして居ない。」

株式資本

當業者側に於ては亦鐵鋼會社の株資本に關する調査委員の數字の不精確を指摘して居る。卽ち一九二五年より二九年の期間に於て株資本は六一七百萬馬克を增加してゐない却つて實際は二八百萬馬克を減じてゐる又長期並短期借入の數字に關しても、調査委員の報告は誤りで一、〇二五百萬馬克の增加でなく六五六百萬馬克の增加に過ぎない、尙、短期借入金は一錢たりとも工場の擴張には利用されてゐないと抗辯してゐる

當業者側は亦調査委員の陳述を反駁して曰く「獨逸の鐵鋼工場は、新工場の建設、現存設備の擴大等に依りて其の價値を減じたことなく却つて增加して居る。獨逸の經濟組織は、年一億乃至一億二千萬馬克の資本を增加する主要工業の一に依り失ふ所何物もなく寧ろ稗益するところ甚大なるものがある之れに反し年幾十億馬克に達する各種の公共並社會負擔を償はんが爲に工業に重稅を課する當局の政策が獨逸の一般經濟組織に甚大なる損失を與ふるものである」と

ドイツに於ける鐵價の引下

（昭和六年三月二日著在ハンブルグ村上總領事報告）

一九三〇年十一月十四日ドイツ國經濟委員はドイツに於ける鐵價著減の必要に關し一の決議を公表せる處、右決議中には、本委員等はドイツに於ける現在鐵價の高値が競爭相手國並世界市場に於ける低廉なる價格に對し一般ドイツ國經濟に執り忍ぶ可からざるものなることを確認するものにして、今日ドイツ鐵工業が至難の情勢にあることは茲に吸々するを要せざるも、急速實現を要する生產費の低下及是に伴ふ生計費低減に對する一助として當國鐵價の著減は必要缺く可からざるものとし、茲に政府に慫慂し可及的短時日に於て之が實現を期することを述べたるが、本件鐵價引下の急速實現方に付ては經濟委員會と政府との間に意見の

一致を見るを得たり。而して右經濟委員會中の調査委員會は鐵工業者の價格制定問題取調に關し政府に一の報告を提出せるが右報告に於ては同業の機構及生產關係事項を逐一解明し、ドイツ鐵市場が獨占的組織に依るものなることを證示し、同委員會中一部小委員會會合に於ても當國鐵價の高値は唯ドイツ市場の獨占的勢力に依りてのみ維持せられ得べきことを斷言せり

當時右鐵價引下に關しては當事者間意見の一致を見たるも、右引下率が如何なる程度に於て實現せらる可きかに就ては前記報告は之を記せざりしも、一鐵加工業者代表は世界市場鐵價格（アントワープ FOB）に對し噸當り三〇馬克の差は之を忍容するを得る旨を述べたるが右差額はドイツ國稅率並、ドイツ國オーベルハウゼンよりアントワープに至る輸送賃金に略々合致せるものにして、今 Stabeisen（棒鐵）價格を標準とせば當時の價格一百三十七馬克は一百十七馬克（卽ちアントワープ FOB 八十七馬克及三十馬克）と爲り、引下價格は二十馬克（舊價の一割四分六厘）を示す譯合なり。（歐洲大戰以前に於けるオーベルハウゼン價格と世界市場價格とを比較するに其當時にありてもルール地域と外國との間に於ける賃率著しく異り、且ルール地方に於てはスエーデン鐵鑛夥多輸入せられ居りたるも、其鐵價格は大體均しかりき。又質、量、取引條件等の差異を考慮に加ふるときは英國產棒鐵もドイツ國產の夫に比較するときは、最近にありては遙に低位に在り

右に依ればドイツに於ける（標準）鐵價は昇騰の傾向をのみ表せる處例へばフランスに於ける同鐵價は常

に下押の傾向を示し、同圖表掲記年度の初に於けるインフレーションの際の價格に於ても例外を顯示せざるは注目に値すべく、高價なる勞銀に喘げる英米鐵價の低下率著しきも看過する能はざる事項なり

這箇の實狀はドイツ國製鐵業者に對する紛々たる衆訟を惹起せしめ、就中鐵加工業者は特に激烈なる非難を加ふるに至りしを以て、ドイツ國經濟委員會も敍上の如く製鐵業者の價格政策に關し同業者の考慮を促すに至りたる次第なり

是に於てか製鐵業者側に於ても一般當事者の意嚮を諒とし、經濟委員會の要求せる主義を肯定せるが、前述調査委員會の報告に對しては之に謬見ありとし、種々反駁する所ありたるも大勢は翕然として引下の方針に誘致せられ、唯其引下割合程度攻究の問題と爲れり

但し今次の引下割合は昨夏の夫れ（註參看）に比し Radical なるべしと憶測せられた爲か、一九三〇年十一月中旬より同年末に至る斯業關係筋の價格引下に對する思惑は熾烈にして、取引特に不振なりき

註

	一九二三年	一九二六年十月	一九三〇年 五月末	一九三〇年 七月末	一九三〇年 八月末
ドイツオーベルハウゼン渡	一〇八・五〇	一四七	一四七	一四三	一四三
歐洲アントワープ FOB	一〇六	一三五	一〇七・五〇	九〇	八四
フランスデイーデンホーフエン渡	一五〇・六〇	一二八	一一〇	一〇〇	九八

英國 Franko	一三〇	一四七	一二六	一二三
米國 Pittsburgh 渡	三三・三〇	一七五	一六二	一五二・五〇	一五〇

ドイツ國製鋼製鐵業の覇者たる在デユツセルドルフ當國製鋼組合の一九三〇年十二月三十一日に於ける一箇月間鐵及鋼註文締高は自一九二九年至一九三〇年會計年度平均一箇月の五割九分四厘を示せるに過ぎず。尚同組合本會計年度第三期に於ける鐵類産出額を表示すれば左の如し。(單位噸)

	一九三〇年自七月至九月	自十月至十二月
銑鐵	一、〇二一、〇〇〇	九四八、〇〇〇
粗鋼	一、〇八三、〇〇〇	一、〇〇六、〇〇〇
石炭	五、七六六、〇〇〇	五、二三一、〇〇〇
コークス	二、〇八九、〇〇〇	一、七三一、〇〇〇

斯くして一九三一年一月十四日に至りドイツ國粗鋼組合は他の鐵工業組合と協議の結果引下を行ふことゝし、右組合の名に於て大要左記の如き趣意書を公表せり

今日一般ドイツ國經濟は生産費の危機に逢着し、ドイツ國平均物價々格は其總括に於て忍容するを得ざる程度に至れるやに思料せらるゝを以て、一九三〇年六月製鐵業者は鐵類價格を其裕ならざる勞銀及俸給に對し不相應の程度に迄之を引下げ、將來更に大なる範圍に亘る價格變更に對し歴然たる證徴を與へたるが、當

時鐵工業者は他の經濟團體とも相呼應し、這箇の例に從ふべきことを强調せり。蓋し斯の如くありてこそ私的經濟に於ける物價輕減に永續的效果を及し得べければなり。當局者に於ても亦右實現を可能ならしめむが爲、課税に際しても右措置と相反背せしめざらむとし、多年來囑望せる失費の減殺勵行に對しては特に努力して、只管物價輕減を企圖し、更に廣く一般的に市價引下を決行せる處生産費及物價は自づと低下を見るに至りたり。然れども他面當局者の規定に係る失費要素（課税、社會的賦課並運輸賃率等）は殆ど例外なく變更を見ず、又は增加せる狀態なるを以て、既往の物價低減の程度緩急の度及作用は全く一般の冀望に副ふを得ざりし恨あり

斯る事情の下にありて今尚些少の變更をも見ざる賠償義務を省るときは、必要なる生産費に對し考慮を加へ得る餘裕は極めて局限せられたる限度にあるを覺ゆ。物價引下の前提として缺く可からざる勞銀低下は多大の困難の下に亦極めて不充分に實現せられたるが、炭坑に於ける勞銀も豫め實顯を見たる炭價著減に相應して引下げられざりしを以て、茲に製鐵業者は其生産品價格引下に必要なる生産費輕減を阻止せらるゝに至れり

然れども我等製鐵業者は爰半年の間に於て再び其價格を著減するに決定せるが、右は斯業經濟を價格上より復活せしめむとする冀望に因ること言を俟たず、云々

前記引下は一九三一年一月一日に遡及して行はるゝことゝし、大要左の如き價格低減を見たり

	舊價格	新價格
型鐵（載貨基點オーベルハウゼン）	一三四	一二五
同（同ノインキルヘン）	一二八	一一九
棒鐵（載貨基點オーベルハウゼン）	一三七	一二八
同（同フインキルヘン）	一三一	一二二
葉鐵		
粗葉鐵	一五三	一四七
中等品	一六〇	一五一
普通取引用優良品	一七〇	一六〇
特製品	二九五	二八二
帶鐵（ドイツ北部販賣地方に對し）	一五九	一四八
同（南部ドイツに對し）	一五五	一四四
引延鐵線（トマス式製品載貨基點オーベルハウゼン）	一六七	一五八
同（トマス式製品載貨點ノインキルヘン）	一六四	一五五

半製品價格に付ては四馬克半乃至五馬克の引下を見たり

右諸種基礎鐵價々格引下と共に、棒鐵、引延鐵線、帶鐵に對する附加價格（基準たる基礎價格に工作品質

の如何に依り或程度の割增を爲す價格）も併せて引下げられたるが、棒鐵に關しては主要品の品種及切斷面に對する附加價格著減せられたるを以て、總括的引渡の場合二馬克半乃至三馬克の減價と爲り、全體に亘る平均引下は十一馬克半乃至十二馬克を示せり。又鐵線の强度に關する附加價格は其太さに依り五十布乃至二馬克半、帶鐵は平均十八馬克の引下を見るに至れり

尙丸鐵、四角鐵、平鐵、三角鐵、丁字形鐵、小U字形鐵、Z字形鐵に對する切斷面附加價格に付ては一割五分引下げられ、通例規定の長さ三米乃至十米を、三米乃至十二米に、三米乃至十二米なりしものを三米乃至十五米となせり。右の內丸鐵に付ては從來口徑二十乃至九十「ミリメートル」迄は附加價格を附せざることゝ爲せしも、今後十六乃至九十「ミリメートル」迄附加價格を附せざることゝし、三角鐵及丁字形鐵の角度調製の爲の附加價格は二十乃至三十馬克引下げられ、鐵材結束方に關する附加價格の一部分も一馬克半乃至四馬克低減せられたり

尙棒鐵に對する切斷面附加價格は何等變更を見ざりしも、普通切斷面二四迄のI字狀、U字狀鐵に對する附加價格四十八馬克を三十七馬克、右切斷面以上のU字狀鐵に對する附加價格五十二馬克を四十八馬克とし以上は總てシーメンス・マルチン製法に依る鐵材に關することゝせり

其他製法に依る品質上の特定價格に付てはシーメンス・マルチン製法に關する六馬克の附加價格は据置きたるも、材料自由販賣限界に關しては從來の十七馬克半を十四馬克と爲せり

右以外の品質附加價格に關しては DIN（ドイツ工業規格）St. 42. 12 號に於ける十馬克を八馬克に、密度四十乃至五十瓩の輪鐵價格十馬克を八馬克に螺旋鐵に對する附加價格七馬克半を六馬克とし鉸鐵、蹄鐵、釘鐵及鎖鐵も右と同樣に取扱ふことゝせり、又シリチウム鋼 St. 52 に對する附加價格は從來の四十八馬克を三十七馬克半に低下せしめたり

棒鐵及型鐵少量輸送方に關する附加價格に就ては、屆先一件に對し各噸六馬克、組合關係製品輸送の場合總量、二千乃至三千二百瓩なる場合は各輸送に對し噸當り八馬克、二千瓩以下なる場合は十馬克と定めたり

尙在ドイツ國エッセン銑鐵組合も右と呼應し一九三一年一月一日に遡及し、左の引下を爲せり

	新價	舊價
鑄造銑鐵第一		
第一區（ラインラントウエストブーレシ）オーベルハウゼン渡	八三・五〇	八六・五〇
第三區（中部ドイツ）（ハンブルクーブレーメンデエエスブルク渡）	八二・五〇	—
マグデブルグ渡	八六・〇〇	—
ベルリン及ドレスデン渡	八八・〇〇	—
ワルウイツツハーフエン渡	八六・五〇	—
ステッテイス渡	八六・〇〇	—

鑄造銑鐵第三		
オーベルハウゼン渡	七八・〇〇	八三・〇〇
ヘマタイト銑鐵		
第一區　オーベルハウゼン渡	八五・五〇	八八・五〇
第三區	八五・〇〇	八八・〇〇
銅含有量の少き鋼鐵及ジーゲルレンデン（冶金場）質鋼鐵	八〇・〇〇	八五・〇〇
小ジーゲルレンデル冶金場冷氣衝風爐製合金用鐵（工場渡し）		
白	九八・〇〇	一〇三・〇〇
霜降り	一〇〇・〇〇	一〇五・〇〇
灰色	一〇二・〇〇	一〇七・〇〇
鏡鐵		
マンガン含有量　六乃至一〇%	九四・〇〇	九九・〇〇
同　八乃至一〇%	九九・〇〇	一〇四・〇〇
同　一〇乃至一二%	一〇四・〇〇	一〇九・〇〇
鑄造銑鐵の最優良品　アパハト渡	六八・〇〇	七三・〇〇

是と共に Verein Deutscher Giesserisen に於ても機械建築及普通取引用粗鑄鐵一般價格を即時六%引下ぐ

ることゝ爲したり。元來同組合は一九二九年六月に於ける價格制定後價格を動かすこと無かりしも、今回は特に引下を決行せるものなり。因に同組合價格引下割合は他の組合の夫に比し一體に低きも、右は單に組合公示の引下割合を示したるのみにして、實際各個の取引に關しては同組合の關する限り從來公示價格割合と多少の異るやに認めらる

以上各主要品に關する最近年間價格の動勢を總括表示すれば左の如し

（フランクフルター・ツアイツングに依る）

載貨基點	價格の動勢 一九二八年一月	一九二八年五月 同上加算	一九三〇年六月	一九三一年一月	一九三一年一月一日の基礎價格	一九三一年一月一日の世界市場價格	ドイツ鐵加工業者に對する拂戻金	保護稅
棒鐵 オーベルハウゼン					一二八			
ノインキルヘシ	＋3	＋4	＋7	−4	一二二	八七	四九	二五
型鐵 オーベルハウゼン					一二五			
ノインキルヘン	＋3	＋4	＋7	−4	一一九	七八	五一	二五
帶鐵 オーベルハウゼン					一四八			
ホムブルク（ザール）	＋4	＋6	＋10	−5	一四四	九一	六五	二五
粗葉鐵 エッセン	＋4.4	＋7	＋11.4	−5	−6	一四七	一〇九	四八	三〇

葉鐵中等品 エッセン	＋5	＋7	＋12	−5	−9	一五一	一一一	五〇	二五
葉鐵優良品ジーゲンより	−	−	−	−	−10	一六〇	−	（註參看）	自三〇至四五
引延鐵線	＋5	＋7	＋12	−5	−	一五八	一〇九	三六・五〇	二五
ジーメンスーマルチン製法附加價格	＋3	−	＋3	−2	−	−	−	−	−

（註）一九三〇年十二月 Ofengelute Bleche 一粍以上のもの四五・〇〇一粍以下のもの五二・五〇 Kestengeglute Bleche 一粍以上のもの四七・五〇一粍以下のもの五五・〇〇 Quaritatbleche 一粍以上のもの六〇・〇〇

一九三〇年合衆國鐵鋼業の回顧

アイアン、エンド、コール、トレード、レビウ誌ピツバーグ特派員述

合衆國一九三〇年下半期の製鋼高は僅に上半期の四分の三に落ち同時に第四、四半期の生産高は第一、四半期の五割五分乃至六割に過ぎなかつた。工業的活況は一九二八年中の中葉に擡頭し一九二九年の六月に絶頂に到達したるが其の後漸次凋落、十月にはストツク市場の崩潰を見るに至つた、斯の如きが爲め人々は頗る去就にまごついたのであつた。一九三〇年一月後に回復の氣勢が現はれた際彼等は之を本質的のものゝ見做し而もストツク市場の崩潰狀態が其の暗影を沒しつゝあつた爲め一層其の妄信を深くしたが然し第二、四半期に入りいやながらも其の迷妄より離脱せざるを得なかつた

鋼生産の趨勢

亞米利加鐵鋼協會の確認せる一九二九年十二月卅一日現在の轉爐及平爐鋼塊年能力は六二、二六五、六七〇噸卽ち一日（作業日數三百十一日として）二〇〇、二一一噸を算した。昨年中完成せる、又近く完成せんとする新能力は一年前の確定能力に少くとも七パーセントを加へ合計約六千七百萬噸に達するであらう

最後の確定によつて電氣鋼塊能力は七七三、八九〇噸、坩堝鋼能力は二七、九八六噸と算定された、一九二九年に於ける兩者の鋼塊能力は、轉爐及平爐鋼塊能力の〇、九九パーセントであつた。一九三〇年に於ける一切の鋼塊實産高の合計は大體次の通りである

第一、四半期	二二、三〇〇、〇〇〇噸
第二、同	一一、七〇〇、〇〇〇〃
第三、同	九、〇〇〇、〇〇〇〃
第四、同	七、〇〇〇、〇〇〇〃
計	四〇、〇〇〇、〇〇〇噸（一九二九年 五四、八五〇、四三三）

鋼塊生産高增加の趨勢は大體に於て大であつたが然し頗る不定的のものであつた。卽ち一八九九年の鋼塊生産高は一〇、四五八、七四五噸、一九〇五年及六年は二千萬噸、一九一二年及一三年は三千萬噸强で戰時中の最高生産高は一九一七年の四千三百六十一萬九千二百噸であつたが其後一九二五年迄は此の生産高以上に上らなかつた。此の點より見れば一九二八年及二九年の生産高は不自然に高いやうな感じがする、卽ち次の通りである

一九二五年	四四、一四〇、七三八噸
一九二六年	四六、九三九、二〇五噸
一九二七年	四三、七七六、七一七噸
一九二八年	五〇、三二五、三九三噸
一九二九年	五四、八五〇、四三三噸

一九三〇年　四〇、〇〇〇、〇〇〇噸

一方鋼鑄物は可鍛鑄物と同樣最早製鋼業の一部と見做されず寧ろ鑄物業の一部と見做されて居るので之れに關しては簡單に述べて置く

一九三〇年十二月卅一日現在の鋼鑄物能力は二、〇九七、九九五噸と算定せられ同時に一九二九年の生産高は一、五八三、〇四〇噸を算したが鋼塊の如き增大を見せて居ない

價格の推移

價格の變遷は一九一〇年に筆者が工夫せる合成鋼製品に依つて簡明に示してあるが其の合成割合は

バー	二五%
厚板	一五%
形物	一五%
チューブ	一五%
ワイヤー	一五%
薄板	一〇%
鋲力板	五%

であつた。軌條は相場の變化極めて稀である爲め之を除外したが、一九二二年十月一日工場貨車渡屯當り四〇弗から四三弗に値上げされたのが最後の變化であつた、合成鋼製品價格の變遷は次の通りである。

	(一封度當り仙)
一九一三年迄十ヶ年	一・八〇
一九一三年	一・七二
一九二三年	二・九五
一九二四年	二・八四
一九二五年	二・六八
一九二六年	二・六四
一九二七年	二・五三
一九二八年	二・五〇
一九二九年	二・五四
一九三〇年　一月	二・四六
同　六月	二・三三
同　十二月	二・一九

以前價格は頗る上下したもので、そうして管理市場と呼ばるゝものがあつて、決して合意の上でなく單にユ・エス・スチール・コーポレーションに依つて指導せられ、契約制度に依つて實行されたもので今から見

れば奇異の感じがするが特に英國人には常に奇態に見へたに違ひない、市價昂騰に際しては、四半期の先物契約が次ぎ次ぎに締結せられ、買手側に於ては其の契約値段が常に當時の市價以下であつたが爲め全く滿足して居つたやうな譯で、實際明示されては居ないが是等の契約は値下りに對して保證されたものであつた、故に市場軟弱に際し工場側では萬不得止場合の外價格を切下げやうこはせなかつた。一九二三年以來鋼市場は軟弱を辿つたが、然し以前の如く各製品は其の下落の歩調を共にせなかつた尤も一、二の製品には時々僅かの値上りを見せたのは言ふまでもない。一九三〇年は晩年に至り價格は强調を呈したるも然し收益に關しては全然別であつた。軌條は一八九八年に於けるカーネーギ製鋼會社こイリノイス製鋼會社この價格戰以來安定を持續し來つたが、目下此の生産業者はユ・エス・ベスレヘム及インランドの三社（コロラード社は遠隔の地で計算に入るゝ要がない）あるのみであるから價格の保持は容易である。バー・セーブス及プレートは一・六〇仙で相當の利潤がある又チューブも同樣であるが、薄板、ストリツプ及ワイヤー製品は一般に不利であつて生産業者は、例へ、作業を相當に行つても生産費を十分に償ふことは出來ないであらう、鋲力板は有利である

一九三〇年の消費

一九三〇年には軌條の需要可なりに多かつた。一方一九三〇年上半期中の貨車の建造噸數は五萬噸を超へたが然し最後の三ケ月間の屯數は約一萬屯位に止まつた。一九二九年に於てさへも車輛の不足すること等は

なかつたが、下りて一九三〇年の晩年には車輛現在數の三分の一は遊んで居つた。一九三〇年最初九ケ月間中の資本經費は合計六九八、八二一、〇〇〇弗に上り一九二三年以來の最大金額に上つた、こは線路其他の改善が多く行はれた結果であつた。此の稿を草する當時の鐵道株は一九二五年四月以來の最低價を示した。鐵道の經費は以前の財政狀態を基礎こせるもので今後同一歩調で繼續することは殆んど不可能である

一九三〇年の導管生産高は頗る多かつたがこは主こして中央南部及カリフオルニアに發見された天然瓦斯用に使用されたものであつた、又ガソリン用パイプの生産高も少くなかつたがこは新規のものであつた。一方上半期中の自動車生産高は一九二九年の高に比すれば勿論少なかつたが然し下半期の生産高は上半期の半分以下に落ちた

前途の眺望

不景氣時に於ても好況時に於ても産鋼高は年の改まるこ共に增加したものである、一九二一年は例外こして其の後の年は各年共一月の生産高は十二月の分より多く、第一四半期の分は第四、四半期の分を超へて居つた。斯の如く年末に不況を呈しても新年には回復容易なる例を示してゐる、別に重大なる事件が起らない限り、本年も第一、四半期の産鋼高は或る程度まで增加し價格も幾分持ち直すであらう

一九三〇年獨逸鐵鋼業

獨逸鐵鋼製造業者組合長 ライヘルト氏述

一九三〇年の世界的經濟難は其の影響する處實に著しく、前年と比較せる粗鋼の世界生産高を示す次表に見る如く各國の鐵鋼業は甚大なる打擊を蒙つたのであつた

世界の粗鋼生産高（單位千瓲）

	一九二九年	一九三〇年（概算）
全世界	一二一、五〇〇	九四、四一〇
合衆國	五七、七五〇	四二、〇〇〇
歐洲	五八、九一二	四八、二〇〇
大陸鋼カルテル諸國	三八、五二四	三〇、六〇五
英國	一〇、一五九	七、八九〇
獨逸	一六、二四六	一一、六〇〇

即ち一九三〇年の世界粗鋼産額は前年に比し約二割二分を減じた。之を國別に就て見るに、合衆國は二割六分、大陸鋼カルテルの參加諸國は二割、英國は二割三分、歐洲は一割八分二厘を減じて居る、故に一般的に言へば世界の生産高並主要國の生産高は四分ノ一乃至五分ノ一を減少したものと見ることが出來る。獨逸の鐵鋼業は不景氣の影響を受くること最も甚大で其の生産高は、前年より二割八分の減少を示した。此の點より見れば獨逸は他の製鋼諸國と同樣世界的不況の影響に苦しむ外尙特殊の難局に遭遇して居らねばならぬことが想像するに難くない。こは主として戰時賠償の重荷に依つて釀成された財界危機の總合的結果とヴエルサイユ條約其の他の結果に起因するものである

此の外獨逸の經濟界には內在的の重荷があることを記せねばならない而して是等の難件は資本の不足に因り他の工業諸國に於けるものに比し一層難澁の度が激しい譯である、而も此の內部の重荷と賠償の重荷との間には作因的の關係があることは明かであつて兩者は共に獨逸の經濟的生命に壓迫を加ふるの動因を成して居る。ヤング案の實行は、經濟狀態の改善並に失職の輕減を妨げないであらうと云ふ或る方面の臆測は間違ひであつた。割引率の減少と金融市場の救濟とは何等の改善を齎らすの效を成さなかつた、又外國利子の不安定は資本市場を改善に導くことが出來なかつた。失職數の增加は、世界的の不景氣と賠償並內部的重荷の影響を立證するものであつて、失職數は一九二九年十月の一、一六七、七六一人より一九三〇年十月には三、三二〇、四一三人に增加した

獨逸製鋼業の厄年

一九三〇年は獨逸製鋼業に取つては、馬克安定以來最惡の年であつた年初既に財政救濟計畫が審議中であつたが、然し經濟狀態の惡化と失職人員數の增加とは本計畫の實行を許さなかつた。獨逸の農業は諸般の困

難と鬪ふの窮境に在ると同時に一方、製鋼業の一大顧客たる建築業も亦業勢頗る萎縮し、平時に於て期待し得らるゝ丈けの鋼を消費することが出來なかつた。獨逸聯邦鐵道からの注文高も、事業の不振と財政狀態の逼迫とに因り不十分であつた。其他機械組立業、自動車業、造船業及電氣工業等の顧客も亦同樣不景氣に禍せられ製鋼業の窮境を救濟し得る程の注文を發することが出來なかつた。是等顧客の買控態度は、鋼價値下を期待して一層濃厚となつたが加ふるに輸出貿易は世界的經濟難の爲めに惡化した。是等諸般の難件は獨逸製鋼業の生產高に反映したのであつた、次表は獨逸關稅地域內（ザール地方を含まず）の鐵鋼生產月額を示す。（單位千瓲）

月別	銑鐵 一九三〇年	銑鐵 一九二九年	鋼塊 一九三〇年	鋼塊 一九二九年	壓延鋼材（半製品を除く） 一九三〇年	壓延鋼材（半製品を除く） 一九二九年	販賣用半製品 一九三〇年	販賣用半製品 一九二九年
一月	一、〇九二	一、〇八九	一、二七五	一、四七〇	八九七	一、〇〇一	九〇	一〇〇
二月	九六五	九六二	一、二七七	一、二七〇	八〇〇	八六三	八九	七一
三月	一、〇〇八	一、〇六一	一、二〇二	一、三二六	八七三	九〇〇	九三	一二
四月	九〇二	一、一二三	一、〇三四	一、四一六	七三五	九七五	九二	一二〇
五月	八六〇	一、一五一	一、〇三四	一、四二二	七三五	九六一	八一	一〇七
六月	七六七	一、一六四	八五九	一、四三一	六〇一	九八九	五九	一〇四
七月	七七一	一、二〇四	九〇六	一、四六五	六六四	一、〇三〇	六八	一〇四
八月	七三九	一、一六八	八九六	一、四〇二	六二三	一、〇一七	六四	七八
九月	六五三	一、一〇九	八一四	一、二三四	五七八	九一〇	五六	九三
十月	六八七	一、一五七	八五八	一、二七七	六二三	九七〇	六九	九二
十一月	六三七	一、〇九一	七三九	一、二八六	五三三	八六七	六八	八〇
十二月	六五〇	一、一〇〇	八二五	一、二五六	五七五	八〇四	六〇	九六
合計	九、七三〇	一三、三九七	一一、六一九	一六、二四四	八、一九一	一一、二八七	八九一	一、一六八

備考　一九三〇年十二月の數字は概算

獨逸の銑鐵及鋼產額

昨年と同樣の生產高の減少數字を見出す爲めには所謂ドーズ危機の期間たる一九二五年に溯つて見ねはならない、特に不況であつた同年の生產高でさへ、粗鋼は千二百二十萬瓲を超へ壓延鋼材は九百三十萬瓲に達した。一九三〇年第一、四半期の生產高は幾分前年のレベルを尙保持して居つたが殆んど活氣なく、軈て一般的に生產低下し始め年末迄低落傾向を續けた、而して壓延鋼材も例外なく一般に生產減少したのであつた。

輸出入

獨逸の銑鐵並壓延鋼材の輸出入は次表の如き變化を示した（單位千瓲）

月別	輸入 一九三〇年	輸入 一九二九年	輸出 一九三〇年	輸出 一九二九年
一月	一〇八	一五七	三九八	二九〇
二月	九四	九五	三〇八	二二七
三月	一〇六	一〇一	三五五	二五一
四月	一〇九	一一四	三一〇	五〇三
五月	一〇九	一二一	三三八	四七一
六月	八七	一二七	二四八	四〇三
七月	八八	一二四	二四三	四三〇
八月	八七	一一一	二三六	四〇一
九月	七九	一〇九	二五七	三五四
十月	七六	一二〇	二三七	三七七
十一月	—	一〇五	—	三三四
十二月	—	九九	—	三五六

外國貿易は輸出入共約二割方の大減少を示した、一九二九年には輸出貿易毀盛を極め之れが爲め內國市場の衰退は幾分償はれたるが一九三〇年の輸出貿易の不振は、工場の能力削減に因つて生產費を昂騰せしむるに至つた、又生產費の增加は製品ストックの累積にも起因した。一方事業會社に於ては出來得る限り職工の整理を避くることに努めたが然し事業難の益々惡化するに伴ひ停業の避け難きは勿論であつた。其の結果工場に於ては屢々操短を行ひ或は又「アイドルシフト」を採用した。生產費引下の可能性は他の逆要素の爲めに妨げられた。此れが爲め所謂エーンハウゼン仲裁判定に依り西北部の鐵鋼業地域內には一九三〇年六月一日より賃銀の引下げが行はれた。此の判定に依つて期待された工場經營難の救濟は、賃銀の節約に依る生產費の救濟を無效ならしめた程內國市場の鋼價が低落した爲め見る可き結果を齎らさなかつた。

一九三〇年の年末に近づくに當り製鋼業者は此の上の內國價格の引下を差控へることに務めたが然し一方世界の市價は、特に惠まれたる西隣の諸國の工場でさへ有利に作業し能はざる程の低落振りを示した、一方一九三〇年の春、正に實現されそうに見へた國際販賣シンヂケートの組織は國際鋼市場を改善し且一層之を安定せしむることが出來たのであらうが、不幸にして大陸鋼カルテル內の或る國が極力反對した爲め當分實現不可能となつた。近き將來には恐らく是等の難件は征服せらるゝものと思はるゝも目下の處世界的經濟難は終熄しそうな兆候が見へない。事情斯の如きが爲め、例へ此の時勢に於ては特殊の困難に遭遇することはありとするも世界市場の管制に對しては依然として努力を續けねばならない

一九三〇年の西班牙鐵鋼業

西班牙の鐵鋼業は概して一九三〇年は可なりの好況を維持したもので操業高爐數は前年と同樣二十一基を數へ一九二六年の數よりも三基を增した。一九三〇年中の銑鐵生產月額の最高は一月の六八、〇〇〇瓲で前年中は斯かる高數字を見なかつた。前執政官リベラ將軍は一九三〇年一月三十日に辭職したが其の日以來銑鐵の產額は漸減を辿つた、獨裁政治中鐵道組織は其の能率の進步に加ふるに新に建設されたるものが尠くなかつた。新政府になつて土木事業の擴大に關する政策が攻究せられて居るが所管大臣は過般次の如き事を述べた、卽ち事業の計畫が全部實施せらるゝことになつても政府は所要の經費は支出することは出來ない」と斯かる經費の削減が新政治制度に伴ふ事業不振の原因であつた。且レベラ將軍が辭職した際には七ヶ年の間見なかつた罷業が諸工業に勃發した。西班牙の二大鐵鋼會社は昨年中重大罷業に遭遇し之れが爲め其の生產高に減少を來したのみならず其の計畫に龜裂を生じた、昨年下半期中は多數の勞働者失職し其數は漸次增加しつゝあつた

銑鐵及鋼產額

一九三〇年の銑鐵產額は約八十萬瓲で前年より約五萬瓲を增加し一九一三年の約二倍に上つた。西班牙鑛鑪の實際能力は百萬瓲强で能力は需要を超過してゐる譯である、過去數年間の銑鐵產額は第一表の通りである

鋼產額は過去數年間中に於て急速に增大したものであるが大戰は其の生產を大に刺戟し多くの工場を建設せしめた。鋼塊能力は一九一三年以來漸增し一九三〇年末には百五十萬瓲に達し需要高よりも能力の方が稍々增大して居る、西班牙の製鋼爐數は五九基で內ベセマー三、平爐四〇、電氣一六基である。一九三〇年の製鋼高は約一、二二〇、〇〇〇瓲で內六割五分は平爐鋼三割三分は轉爐鋼二分は電氣爐鋼であつた。同年の最高月產額は五月の八萬六千瓲で一九二九年は八月の八萬九千瓲が最高であつた

一九三〇年の需要高は機關車、貨車、軌條等に對する鐵道からの注文制限に依つて漸減した。鐵道電化の全國聯合は主要銀行及機械並電氣事業に從事する西班牙の諸會社と共同して一九二九年に組織せられたが一方ビーセンの鐵道車輛製造所に於ては最近車輪製造の新工場を建設し且外輪製造工場を擴張及近代化した。本會社は最近ウルグワイに貨車百輛の賣渡契約を締結したが內二十五輛は旣に十二月に積出を了した。此の注文は諸外國と競爭して獲得せるものであつた。一九三一年中には "Griffin & Safek" なる特許の下で車輪、ロール、鐵道交叉器等を製造する新工場がビルバオ近傍に建設さるゝであらう

鐵鑛石

一九三〇年の鐵鑛石產額は前年とほゞ同一で約六百五十萬瓲に達したが一九一三年の生產高に比すれば僅々其の三分の二位に過ぎない、內二百萬瓲は英國へ積出されたが獨逸へも之れと殆んど同額の鑛石が輸出せ

られた（直接又は和蘭經由）尙百八十萬瓲は國內工場の消費用に供せられ殘額は佛蘭西及白耳義へ輸出せられた。第三表は最近年間の產額並輸出額を示す

第三表　鐵鑛の產額並輸出額（單位瓲）

年次	產額	輸出額
一九一三年	九、六一一、六六八	八、九〇七、三〇九
一九二五年	四、四四二、八七二	三、六一七、七五一
一九二六年	三、一八一、五八四	一、八五六、九七五
一九二七年	四、九〇六、三〇〇	四、七五七、五四九
一九二八年	五、七七一、二〇七	五、四二一、二二三
一九二九年	六、五四六、六四八	五、三〇〇、〇〇〇
一九三〇年	六、五〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇

一九二六年に於ける輸出額の減少（第三表及第四表）は石炭罷業に起因する英國製鐵工場の休止に原由するものである。ビルバオ地方は西班牙鐵鑛石總產額の四割五分を產す、一九三〇年中ビルバオ港より輸出せる鑛石は百二十萬瓲に達し內六割五分は英國に積出された。西班牙の鐵鑛石埋藏量は合計七億瓲と見積られビルバオ地方には約六千五百萬瓲を埋藏す、一八六〇年以來ビルバオ港よりの鐵鑛石輸出高は合計一億七千

五百萬瓲に達してゐるが其の內九千百萬瓲は英國へ向けられたるものである

第四表　ビルバオ地方の鐵鑛石生產高と輸出高（單位瓲）

年次	生產高	輸出高
一九一三年	三、八六四、五九〇	二、九九九、〇九二
一九二五年	二、〇八三、七四〇	一、六三七、〇二四
一九二六年	一、四五〇、七四〇	八九三、一九〇
一九二七年	二、二四六、五二一	二、五八六、五四九
一九二八年	二、三七八、〇一六	一、八四九、〇〇三
一九二九年	二、五八二、二九八	一、七六九、七五六
一九三〇年	二、三〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇

一九三〇年の年初に於ては、總地域九九、八〇七エーカーの內僅に二、四九三エーカーのみが採掘稼行されて居つた

第一表　西班牙の銑鐵產額（單位瓲）

一九一三年	四四五、〇〇〇
一九二五年	五二八、二三七
一九二六年	四八六、八四六

一九二七年			五九〇、四六七	
一九二八年			五五六、九七四	
一九二九年			七四八、九三六	
一九三〇年			八〇〇、〇〇〇（概算）	

第二表　西班牙の鋼產額（單位瓲）

年次	轉爐鋼	平爐鋼	電氣爐鋼	合計
一九一三年	—	—	—	三一四、二三七
一九二五年	一八一、〇一八	四二三、五七〇	二一、四〇八	六二五、九九六
一九二六年	一七四、一〇八	四二四、四一三	九、九一〇	六〇八、四三一
一九二七年	二〇〇、九七九	四六一、二二四	八、八一七	六七一、〇二〇
一九二八年	二一六、七九八	五四三、一一二	一七、一三二	七七七、〇四二
一九二九年	三六一、四〇九	六二二、九九四	一九、〇五六	一、〇〇三、四五九
一九三〇年	—	—	—	一、二二〇、〇〇〇（概算）

昭和四年本邦鑛業の趨勢

商工省鑛山局編纂「本邦鑛業の趨勢」より拔萃

目次

一、總說
二、鑛山事業概況
三、鑛產額
四、鑛產物の輸出入
五、製鐵業

一、總說

昭和四年に於ける本邦鑛業界は一般事業界同樣依然不振裡に推移し殊に後半期に於ては金輸出解禁氣構、對外爲替相場の回復に伴ひ鑛產物市價は銅を除き一段の落調を示し鑛產物の貿易亦前年以上の入超を示す等の好材料に惠まるゝことなく其不振更に深刻を加へたり、然れども當業者は能く難局に善處して之が打開に努め各般の事業施設に整備刷新を加ふるは勿論、技術の進步改善を圖り勞力の機械化、能率の增進に努むると共に新資源の探究開發を企圖する等鋭意事業の進展に力を注ぎたり、從て斯界は不況の裡に在りても漸次堅實なる步調を以て進步發展の道程を辿り之が證左として見るべき新事例亦尠からず、業界の盛衰を最も如

實に物語る鑛產額の如きも前年に比するときは概して增加を示したるのみならず新に產出を見たるものもあり就中金、錫、鋼鐵、石炭の如きは兩三年來引續き本邦に於ける最高記錄を示したり

鑛產總價額は三億八千四百五十五萬七千七百六十八圓にして前記の如く鑛產物は概して增產を示し且つ新に產出を見たるものもあり又金屬中首位を占むる銅に於て市價昂騰を見たる等の爲最も主たる石炭及其他に於て市價低落に因り價額減少せしものあるも總價額に於て前年に比し五百七十八萬七百九圓（一分五厘）の增加を見たり

鑛產物の貿易は輸出四千六百四十萬九千九十一圓、輸入四億八百三十六萬九千四百六十二圓合計四億五千四百七十七萬八千五百五十三圓にして前年に比し輸出三百八十七萬五千七百三十六圓（九分）輸入千五百九十一萬四百二十圓（四分）を共に增加し又輸入超過は三億六千百九十六萬三百七十一圓を算したり

鑛業の技術的方面を見るに探鑛に在りては金屬山に於ける電氣探鑛、長孔式探鑛並石油山に於ける坑道掘探鑛等が採用せらるゝに至りたるは注目に値すべく採鑛に在りては金屬山に於ける「シュリンケージ」法「スクエヤーセット」法、石炭山に於ける長壁法の施行益々增加普及し且探鑛採鑛兩方面共機械力の應用が逐年著しきを示しつゝあり、又運搬、排水、通氣等に關しても新施設の見るべきもの尠からず卽ち「ガソリン」機關車、局部扇風機の新設增加等其例なりとす、選鑛に在りては近時實施期に入れる優先浮游選鑛法が機械の選擇、試藥の配合等に實行の步を進むるに至りたるが如き製錬に於ては先年別子鑛山に於て創始せる銅

製錬の排煙より硫酸を回收する「ペテルゼン」式裝置が其後の成績益々良好にして遺利の回收、煙害の減少に著しき效果を擧げつゝあるが如き其顯著なるものなりとす

製鐵業は前年に於ける歐洲鋼材市價昂騰を受け前半期は稍活氣を呈したるも後半期に於ては金解禁氣構、生產過剩等にて漸次頽勢に傾けるを以て當業者は銑、鋼業の提携、鋼材の生產並價格の統制、設備の改善充實等を圖り斯業の維持發達に努めたる結果銑鐵の如きは近く本邦に於ける銑鐵の自給自足を期待し得る程度に至りたり、從て生產額の如きも前年に比するときは銑鐵（合金鐵共）約三千八百瓲（三厘）鋼材約三十三萬三千瓲（二割）の增加となれり

二、鑛山事業概況

今製鐵鋼業に關係深き鑛山事業の概況を摘錄すれば次の如し

鐵鑛業　倶知安鐵山（北海道膽振）は其鑛石の品質優秀にして且埋藏量豐富にして本年は前年に比し增產し尙昭和五年よりは事業擴張の豫定にて着々準備中なり、釜石鑛山（岩手）に在りては前年來採鑛法に關する新方針を立て專ら坑內の整理に努めつゝありしが、本年更に鑿岩機八臺及空氣捲揚機三臺を增加して採鑛能率の增進を計り、坑外に於ても鑛石運搬用斜軌道捲揚機を設備して運搬能力を增大し、又一ヶ月處理鑛量一萬八千瓲の選鑛場設置工事に着手するこ共に鎔鑛爐及平爐の改修並に新設を企畫して益々操業の圓滑を期しつゝあり

石炭鑛業　北海道各炭山中增產せるは夕張、幌內、三井美唄（北海道石狩）其他計十八礦に及び、之に反し送炭制限によりて減產せるは新夕張、登川、空知、幾春別（北海道石狩）及尺別（北海道釧路）諸炭礦なりとす、大夕張新坑（北海道石狩）が諸般準備作業略成り本年下記より採炭を開始し、雨龍炭礦（北海道石狩）が淺野雨龍炭礦株式會社及明治鑛業株式會社の手に依りて本年初めて開發に着手せられ又芽沼炭礦（北海道後志）が從來唯一の石炭搬出法たる海上輸送を每年冬期間風波に杜絕せらるを遺憾とし、岩內を起點とする鐵道を敷設し以て輸送期間を完備し芽沼炭今後の發展に資せんとする計畫を樹立したるは北海道石炭鑛業界に於ける本年の大なる收獲なりとす內鄉炭礦（福島）に在りては採炭方法を改善し其他鋭意諸施設の改善に努めたる結果前年に比し增產し、入山炭礦（福島）に在りては機械採炭によりて能率增進を計り前年に比し增產し好間炭礦（福島）に在りては新斜坑上層本卸の水沒に依り一時出炭を減少したるに拘らず機械採炭の成績良好にして前年に比し增產を見るに至り、又新に第二新斜坑の開鑿に著手せり湯本炭礦（福島）に於ては壓氣機鑿岩機、喞筒等を增設したる外運搬能力を增す爲め切端運搬用「チエーンコンベヤー」及電氣捲揚機を新設し入山廣野炭坑（福島）に於ては電氣喞筒「デーセル」機關發電機並に汽罐を增設せり、隅田川炭礦（福島）に於ては前年に比し增產を見たるも小野田炭礦（福島）に於ては本年五月末の水災による被害甚しき爲め減產を見、勿來炭礦（福島）は需要減少の爲め前年に比し減產し小田第二炭礦、福島炭礦、伊勢炭礦（福島）何れも事業不振にして幾分の減產を見るに至れり茨城炭田、長野炭田に於ては特に積

極的企業擴張工事を行はず唯諸般の設備、採炭方式等の改善等により極力生產費を低下し苦境を脫せんと努力しつゝあるものの如し、九州方面にありては第二大谷炭礦（福岡）は殘柱拂掘の爲め、平山炭礦（福岡）は採掘箇所增加の爲め山田炭礦（福岡）は事業發展の爲め何れも增產し、大嶺無煙炭礦（山口）海老津炭礦（福岡）は一部採掘休止の爲め鎭西炭礦（福岡）は花瀨坑休止の爲め、糸田炭礦（福岡）は中途休業の爲め、何れも減產せり

滿俺鑛業　穴內鑛山（高知）は鑛量豐富なる爲め多量出鑛を企畫せる結果前年に比し增產を爲せる外一般に不振にして岩崎鑛山（青森）清水鑛山（青森）沼館鑛山（秋田）は稼行を續け、美利河鑛山（北海道後志）は前年既に一部事業を縮少せるが本年は遂に一時中止するの止むなきに至れり、大江鑛山（北海道後志）は既に老境に入り著しく減產し、鉛川鑛山（北海道膽振）亦操業上支障多く十分の發展を爲さず

硫化鐵業鑛　松尾鑛山（岩手）は鑛量豐富なるため事業を擴張し、久根鑛山（靜岡）に於ては從來の機械選鑛と併行して浮游選鑛を運轉なし得る樣設備を改善し其能率增進を計れり、飯盛（和歌山）淺川、高越、三繩（德島）別子、佐々連、出石、伊豫、大峯（愛媛）等各鑛山に於ては何れも增產せるも、反之棚原（岡山）東山（德島）廣田、金山、千原、九町（愛媛）等諸鑛山に於て減產を見るに至れり

格魯謨鑛業　久しく休業中なりし春日鑛山（北海道膽振）の再び事業に著手したる外、二三試掘鑛山にて探鑛を開始し又廣瀨鑛山（鳥取）に於ては增產する等同鑛業今後の發展を囑望せしむるものありたるも、若

松鑛山（鳥取）は減產し又日東鑛山（北海道膽振）は屢々水害を受け操業上兎角順調を缺ぎたる爲め其產額前年に比し著しく減少せり

三、鑛產額

昭和四年に於ける本邦鑛業界は一般事業界と同樣依然不振裡に推移し殊に後半期に於ては金輸出解禁氣構對外爲替相場の回復に伴ひ鑛產物市價は銅を除き一段の低落を見るに至り其不振更に深刻を加へたるも當業者は極力各般の事業施設に刷新を加へ技術の進步改善を圖り能率の增進に努むると共に新資源の探究開發を怠らず鋭意事業の進展に努めたる結果比較的重要ならざる二、三のものを除き主要鑛產物は前年に比し何れも多少の增產を見たり

今製鐵鋼業關係のもの數種に付、之を前年と比較するに

一、鐵

鑛山附屬製鐵所中銑鐵產額の約七割を占むる釜石鑛山に於て製鋼設備の改修新設を行ひ製鋼能力著しく增進せられたる結果銑鐵の儘處分せられたるもの少く銑鐵は二割七分一厘の減少を示せるも鋼鐵は大量生產の操業方針と相俟つて一割六分五厘を增加せり

一、石炭

石炭界は一般財界の不況竝に電力統制に基く水力發電補充火力發電用石炭の著減、諸工業の休廢若は操

短、產業合理化運動の擡頭に伴ふ動力燃料等の節約に因る需要減退、支那炭、撫順炭の輸入激增の爲引續き不振にして市價の低落著しかりしが爲從來は年々五分見當の增產を示しつゝありしが本年は僅かに一分二厘の增加となれり

一、硫化鐵鑛

人造肥料、人造絹糸等諸工業の需要旺盛にして其販路は朝鮮、關東州にも及ぶに至りたる結果最近著しく增產の傾向あり年々一割以上の遞增を示し來れるが昭和四年に於ては前記諸工業不振の爲市價の低落と共に四分の增產を示せるに過ぎず

昭和四年鑛產額及價額表（前年比較）

鑛種	數量單位	昭和四年 數量	昭和四年 價額	昭和三年 數量	昭和三年 價額
金	瓦	一〇、四一九、〇四四	一四、七六〇、一六八 圓	一〇、三八三、六〇八	一四、六七六、五四一 圓
砂金	同	三、二七八	四、三五九	六、八五五	八、五〇四
砂白金	同	四、五七〇	四二、六五一	三、一〇五	二六、一九四
銀	同	一六〇、六〇四、四八四	六、一三九、三三九	一六〇、〇三三、七三五	六、五一六、〇一九
銅	瓩	七五、一四九、〇四九	六九、三九八、八一一	六八、一三二、八六五	五五、二七一、八六三
鉛	同	三、三三三、九四四	八五八、一三二	三、六五二、八六九	八四七、五五二

蒼鉛	同	四九、九三三	三五七、一二六	三二、一四一	二八七、六〇四
錫	同	八〇二、〇九八	一、五七七、八六八	七四四、八〇〇	一、五三三、〇八七
錫鑛	瓩	一六七	二二一、七六一	二三二	三〇〇、三二七
安質母尼鑛	同	八九	一五、〇八七	—	—
水銀	瓩	一、四四五	八、九七〇	四六一	三、一七六
亞鉛	同	三三、〇九九、二二九	七、一九七、五六三	一九、一二六、九五〇	六、三三九、六〇五
鐵	瓩	四一、五八六	三、四四六、六三一	五七、〇一五	四、七二一、七五一
銑鋼	瓩	七〇、八四四	六、五七七、八三八	六〇、六〇二	一、一四八、六七一
硫化鐵鑛	同	六二八、七四三	七、八九八、四八一	五九三、九七二	七、八八八、二八六
格魯謨鐵鑛	同	九、一六三	二三四、一五三〇	九、八〇八	二七六、六四六
砂格魯謨鐵	同	一五〇	四、五〇〇	—	—
滿俺鑛	同	三、一八四	八四、九七二	一七、六九九	四二四、六五八
二酸化金屬	同	一五、二六二	二八二、九六二		
重石鑛	同	五六	三〇、二〇八	五〇	二九、六四四
亞砒酸	瓩	一、九六三、〇〇二	二〇四、三三九	一、八二八、九二七	一七二、五五六
燐鑛	瓩	一四、五七三	一六八、二六五	五八、七七六	九〇六、二四一

黑鉛	同	三〇八	二、三七七	四四二	二七、一八八
石炭	同	三四、二五七、八一七	二四五、七六一、五〇四	三三、八六〇、一八一	二五四、五一六、一三一
亞炭	同	一三九、〇三一	八二七、四四七	一四七、七三〇	九〇四、九五六
石油 原油	瓦斯	三、一一三、三九九	一三、七〇七、三五五	二、九三三、六六八	一三、九四五、六〇一
石油 瓦斯	百立方米	二八六、八四一	七九三、〇四〇	二、二四四、四三一	七五八、一六三
硫黃	瓩	六五、四六四	三、六三八、〇四八	七〇、〇八三	四、〇九五、五二一
硫黃鑛	同	一五、〇八七	一二三、二一七	一三、三一九	一一〇、四七五
硫酸	同	一五、五三二	一八〇、〇五〇	—	—
合計			三八四、五五七、七六八		三七八、七七七、〇五九

備考　一、本表鐵の生産額は鑛山及砂鐵の製錬所竝主として內地産鑛を處理するものゝ産額にして八幡製鐵所、再製銑製鐵所及他産銑を原料とする製鋼所の生産額を包含せず又銑鐵産額中には本表鋼の原料に供せられたるものを含まず、尙鐵の總産額は十八頁に揭ぐ

一、硫酸の産額は別子鑛山に於て銅製錬の排煙中より「ペテルゼン」式裝置に依り回收したるもるとす

鑛産價額累年比較表

年次	價額
明治十年	三、三九一、三五〇圓
同二十年	八、一九九、九三一

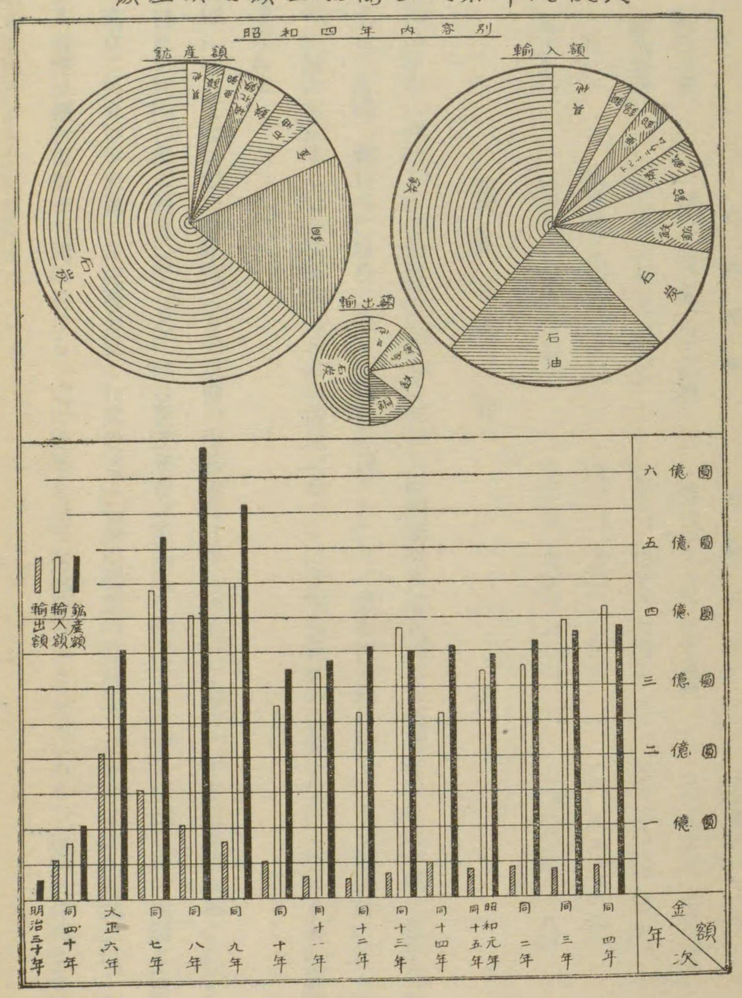
明治三十年	三二、一二一、九〇九	
同三十五年	五六、一二九、五四七	
同四十年	一一〇、五五二、三五〇	
大正元年	一三〇、二四一、三三五	
同二年	一四六、八四八、七九二	
同三年	一五五、〇三〇、二四五	
同四年	一七五、九五九、〇四八	
同五年	二八一、四二一、五〇六	
同六年	三六二、四四七、六三八	
同七年	五一四、〇九三、六七二	
同八年	六四一、二八二、一二九	
同九年	五六六、七八八、二六七	
同十年	三三二、六二〇、三三一	
同十一年	三四六、七四六、四八五	
同十二年	三五七、九五六、九七五	
同十三年	三五一、一二八、一六六	
同十四年	三五四、八二六、七〇六	
昭和元年	三四六、八八〇、四九九	
同二年	三六八、五六八、四四三	
同三年	三七八、七七七、〇五九	
同四年	三八四、五五七、七六八	

四、鑛産物の輸出入

昭和四年中に於ける鑛産物の貿易總額は四億五千四百七十七萬八千五百五十三圓にして內輸出四千六百四十萬九千九十一圓、輸入四億八百三十六萬九千四百六十二圓にして卽ち三億六千百九十六萬三百七十一圓の輸入超過を示したり、輸出鑛産物中最も主要なるは依然石炭にして其價額二千三百二十一萬五千二百十八圓を算し輸出總價額の五割强に當り其他銅七百四十萬九千四百九圓、鐵類の五百二十五萬二千二百三十三圓、眞鍮の五百萬三千四百圓等之に亞ぎ主要なるものとす

輸入に於ては鐵類第一位に在りて其價額一億五千九百七十二萬千六百十四圓に上り輸入總價格の三割九分を占め石油類の九千二百九十二萬五千二百八十七圓（輸入總價額の二割三分）之に亞ぎ其他石炭四千二百九十七萬八千五百十四圓（同二割一分）鐵鑛千九百三十九萬七千七百九十五圓、鉛千五百十六萬六千百九十七圓、燐鑛千三百四十五萬四千九百四十七圓「アルミニューム」千百四十萬二千八十一圓、亞鉛千二萬七千三

表較比年累入出輸物産鑛及額産鑛



百二十七圓等其主要なるものなり

更に之を前年と對比するに左の如く輸出に於て三百八十七萬五千七百三十六圓（九分）輸入に於て千五百九十一萬四百二十圓（四分）を何れも增加し其結果輸入超過額に於て千二百三萬四千六百八十四圓の增加となれり

以上の如く輸出の增加したるは輸出品中主要なる石炭を始め其他一般に減少を示したるものあるも銅に於て約五百萬圓を增加したるが爲なり、而して銅の增加は世界の銅市場を支配する米銅が近來稀有の活況を呈し市價も著しく昂騰せるが爲東洋方面に於ける活躍意の如くならず該方面に對し本邦銅の進出が有利に展開せられたるに基因するものゝ如し

又輸入の增加は主として輸入品中第一を占むる鐵類に於て千三十三萬八千餘圓、石炭六百萬餘圓、石油二百九十九萬餘圓、燐鑛百四十七萬七千餘圓、鐵鑛三百二十二萬三千餘圓、「アルミニューム」二百四萬二千餘圓を增加したるに因るものにして他に多少減退せるものあるも結局總額に於て前記の如き增加を見たり、而して石炭の增加は撫順炭の內地進入益々旺盛なりしと支那炭が銀塊相場の暴落に因り本邦への進出有利となりたるに基因し其他の增加は一般に需要增加せると金解禁氣構に依る爲替關係の回復に依り一般に輸入が容易となりしに基因するものと觀察せらる、唯近年高速度の增加を示しつゝありし石油類の輸入が稍其勢を弱めたるは注目に値す

	昭和四年	昭和三年	比較增減（△ハ減）
輸出價額	四六、四〇九、〇九一圓	四二、五三三、三五五圓	三、八七五、七三六圓
輸入價格	四〇八、三六九、四六二	三九二、四五九、〇四二	一五、九一〇、四二〇
計	四五四、七七八、五五三	四三四、九九二、三九七	一九、七八六、一五六
輸入超過	三六一、九六〇、三七一	三四九、九二五、六八七	一二、〇三四、六八四

五、製鐵業

昭和四年中に於ける本邦製鐵業は前年に於ける歐洲鋼材市價昂騰せる影響を受け前半期は相當良好なる成績を示し、銑鐵、鋼材共に增産に次ぐに增産を以てしたりと雖も後半期に於ては或る種鋼材に付ては既に生産過剩の傾向を示すに至り歐洲鋼材市價の落潮に加ふるに金解禁氣構の影響を受けて斯界不振の徵候著しく濃厚となれり

銑鐵に在りては各社の前年度よりの設備の改善充實計畫著々進捗し昭和六年度以降は本邦に於ける銑鐵の自給自足を期待し得る程度に至り之に伴ひ製銑業者は其販路を確保する必要上製鋼業者の團體と銑鐵賣買協定の成立に努力し年末遂に其實現を見たり其要旨は製鋼用銑鐵の總需要の三分の二は本邦銑を以て充つること及其價格は鋼材市價との間に於ける一定の比率を以て增減決定することにありて銑鋼共存共榮を目的とし昭和五年四月より之を實施せり

鋼材に在りては特に下期に入りて生産過剰及價格低落に對する方策を講ずるの必要に迫られ先づ專ら丸鋼の生産制限を目的とする鋼材聯合會設立せられ更に他の鋼材の生産及價格の調節に關する各種協定に付ても相當研究せらるゝに至れり

（一）内地銑鐵及合金鐵生産額

	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年昭和元年	大正十四年
銑鐵					
骸炭銑	一、〇六五、九〇八瓲	一、〇七七、九二八瓲	八八四、三四一瓲	七九九、四八三瓲	六七六、八七九瓲
木炭銑	二、〇〇〇	三八一	—	—	一五三
再製銑	一九、一三八	一四、一三七	一〇、九〇五	一〇、一四一	八、一四六
其他	八二	八五三	九二五	—	—
計	一、〇八七、一二八	一、〇九二、一五六	八九六、一七一	八〇九、六二四	六八五、一七八
合金鐵					
鏡鐵	一、二一〇	二、〇一一	二、一三八	一、八二一	二、〇六六
滿俺鐵	一九、〇四七	一一、〇三六	一一、一九三	七、〇五六	七、〇六八
硅素鐵	五、一四五	三、二五七	二、一四一	二、八五二	—
硅素鏡鐵	六八	五三	四六	—	—

	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年昭和元年	大正十四年
クローム鐵	七〇五	五七六	一九六	二〇一	四二
タングステン鐵	—	二	七	一四	五
モリブデン鐵	—	—	一	一	—
其他	一六〇	一四七	一九〇	二七一	八一
計	二六、三三五	一七、〇九一	一六、〇一三	二二、一〇八	一一、五四二
合計	一、一二三、四六三	一、一〇九、六二七	九二二、八三二	八二一、八三二	六九六、七二〇

（二）朝鮮、滿洲銑鐵生産額

	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年昭和元年	大正十四年
朝鮮骸炭銑	一五三、六三七瓲	一四六、一五九瓲	三九、〇〇三瓲	一二五、〇〇六瓲	九九、一六〇瓲
滿洲骸炭銑	二九五、三八〇	二八四、六七五	二四四、一〇三	一九、一四三	一三六、六八五
合計	四一九、〇〇七	四三〇、八三四	二七三、二三五	三二三、一七九	二三五、八四五

（三）内地鋼鐵及鋼材生産額

	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年昭和元年	大正十四年
鋼塊					
平爐鋼	二、二三二、九六六瓲	一、八六三、三九一瓲	一、五六九、五五二瓲	一、四〇〇、六三二瓲	一、二〇八、五八〇瓲

轉爐鋼	一、〇四八	三、二四〇	八七、九九八	八四、六七七	七四、九二三
電氣爐鋼	五二、七九七	三七、四七三	二六、五一七	一八、一五九	一五、四九六
坩堝爐鋼	一、七七八	一、五〇三	一、一七五	二、七四七	一、二〇四
其他	—	—	—	—	—
計	二、二九三、八四〇	一、九〇五、七〇七	一、六八五、二四二	一、五〇八、二二五	一、三〇〇、二〇三
鋼材（壓延鋼材）					
棒鋼	六八三、八四一	五五二、一〇七	四六〇、八三七	四二七、四八四	三四四、六三二
形鋼	二五五、五五三	二五三、二二七	二〇八、一〇〇一	一六九、五七七	一三七、五一二
鋼板	五四三、九四八	四一八、三三九	三三四、七五四	二八〇、三五七	二三五、五五八
鋼管	七八、四九二	六四、四六〇	五〇、四九一	四二、五〇九	三六、二四〇
軌條	二七一、三三四	二二三、〇六四	一六八、五六一	一七四、一一四	一三八、四〇五
線材	六八、四七一	五七、五八九	五四、四三六	五〇、三八四	四八、六〇三
其他	二九、三六六	四八、七四〇	三三、七八三	二三、九八四	一六、三三九
計	一、九三〇、九九五	一、六〇七、五二六	一、三二〇、八五三	一、六八、一四〇九	九五七、一七九
鍛鋼品	三八、四五〇	三一、九六八	二五、四七五	二四、二五三	二四、七四三
鑄鋼品	四九、一三四	四八、六七五	四三、一四五	四一、六五二	三六、一八八

特殊鋼々材	一八、五二九	一五、九二九	一〇、九四二	一〇、三五八	一八、九〇五
合計	二、〇四七、一九八	一、七〇三、八二六	一、四〇〇、四一六	一、二四四、七二二	一、〇三七、〇一五

（四）内地銑鐵及鋼材需給高

（イ）内地銑鐵需給高（合金鐵を含む）

年次	内地産出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額に對する産出額の割合
	瓲	瓲	瓲	瓲	瓲	%
大正八年	六二三、六〇九	三四八、七〇七	九六一、三二六	一七、〇三四	九四四、二八二	六五
同九年	五二九、八七五	三九〇、四六六	九二〇、三四一	八、七八五	九一〇、五五六	五八
同十年	四八〇、三〇〇	二六六、二八四	七五六、五八四	五、七六八	七五〇、八一六	六四
同十一年	五五九、三三〇	四〇九、六〇六	九六八、九二六	五、二八二	九六三、六三四	五八
同十二年	六一〇、七五一	四二九、四四二	一、〇四〇、一九三	五、一三一	一、〇三四、九六二	五九
同十三年	五九九、〇〇九	五三〇、一三三	一、一二九、一五一	七、二七〇	一、一二一、一二七	五四
同十四年	六九六、七二〇	四〇一、五六八	一、〇九九、二八八	六、五〇三	一、〇九二、七八五	六四
同十五年	八二一、八三二	五〇八、四一三	一、三三〇、二四四	四、八六六	一、三三五、五五八	六二
昭和二年	九一三、一八三	五八〇、六七〇	一、四九二、八五三	四、三二五	一、四八七、六〇三	六一
同三年	一、一〇九、六二七	七一二、七二四	一、八二一、三六一	四、九〇四	一、八一七、四五七	六一
同四年	一、一二三、四六三	七九四、八六一	一、九八八、三二四	三、七二一	一、九〇四、五五三	五八

（ロ）内地鋼材需給高

年次	内地産出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額に對する産出額の割合
大正八年	五四八、五二七瓲	七二四、九九一瓲	一、二七三、五一八瓲	一〇八、四四五瓲	一、一六五、〇七三瓲	四七%
同九年	五三三、三八七	一、〇三九、四一八	一、五七二、八〇五	九七、三八二	一、四七五、四二三	三六%
同十年	五六四、九二四	六四六、八〇二	一、二一一、七二五	八四、七三一	一、一二六、九九四	五〇%
同十一年	六六一、七八一	一、一〇〇、八三八	一、七六二、六一九	八三、二九八	一、六七九、三三一	三九%
同十二年	七五四、六七四	七九九、二七七	一、五五三、八五一	九七、八五三	一、四五五、九九八	五二%
同十三年	八三七、〇九九	一、一五四、四〇二	一、九九一、五〇一	九一、〇九五	一、九〇〇、四〇六	四四%
同十四年	一、〇三七、〇一五	五三二、八九一	一、五六九、九〇六	一〇七、五〇五	一、四六二、四〇一	七一%
同十五年	一、二四四、七七二	九二四、七三一	二、一六九、五〇三	一二〇、三八九	二、〇四九、一一四	六一%
昭和二年	一、四〇〇、四一五	八一四、二六四	二、二一四、六七九	一五五、七四三	二、〇五八、九三六	六六%
同三年	一、七〇四、〇九八	八二四、七三七	二、五二八、八三五	一八一、九四四	二、三四六、八九一	七三%
同四年	二、〇三七、一九八	八三一、九六四	二、八六九、一六二	二〇三、七二一	二、六六五、三九一	七六%

石炭運賃及荷役賃

招務省殖産局

本文は拓務省殖産局の編纂に係る「本邦に於ける石炭問題」に附錄として揭載せられたるものを轉載したるものなり

其一　主要積出港に於ける石炭の荷役賃

注意　本表は荷物炭の荷役賃を主としたるものに付何等明記なきものは總べて荷物炭の賃料とす

目次

一、大泊港　一、室蘭港　一、東京港
一、小樽港　一、敦賀港
一、横濱港　一、名古屋港　一、神戸港
一、門司港　一、若松港　一、戸畑港　一、唐津港
一、長崎港　一、釜山港　一、仁川港　一、清津港
一、基隆港　一、高雄港　一、大連港

大泊港（昭和五年三月　大泊商工會議所調）

イ、積込

積込賃	一圓五〇
艀船陸下賃	なし
棧橋卸賃	なし
港内瀬取賃	〇・三〇
計	一・八〇

ロ、荷卸

荷卸賃	一圓五〇
艀船陸上賃	なし
棧橋揚賃	なし
港内瀬取賃	〇・四五
計	一・九五

備考　右賃率は四月一日より十一月三十日迄の定にして十二月一日より十二月三十一日迄は以上の二割増、一月一日より三月三十一日迄は以上の四割増、右期間中氷上荷役は八割増とす

小樽港（昭和五年三月　小樽商工會議所調）

イ、積込（荷物炭は全部高架棧橋積なり）

A　棧橋使用の場合

一、高架卸賃	〇・一〇圓	棧橋上に於て貨車より船艙への積込賃銀
一、貨車使用量	〇・三〇	
一、其他	〇・四〇	
計	〇・八〇	

B　港内艀積の場合

一、艀船陸下	〇・三五	貯炭場より艀船迄の人力又はコンベーヤによる運搬賃
一、積込賃	〇・七六	艀船料曳船料本船々艙積込迄の賃銀
一、臺車卸其他	〇・三四	貨車卸賃其の他雜費
計	一・四五	

ロ、荷卸

取扱なし

備考　一、炭種に依る料金の區別なし

室蘭港（昭和五年三月　室蘭商工會議所調）

イ、積込

一、艀船による場合　一・三五圓

本港にて陸下、瀨取賃等の區別なく本船積込迄の賃率を總括して請負ふものなり

一、鐵道高架棧橋に依る場合　〇・七〇

一、社用コンベーヤに依る場合　〇・六七

ロ、荷卸

本港輸入石炭は四萬餘瓲あるも是部需要者用の埠頭により荷卸するを以て一般的の荷卸の取扱なし

東京港（昭和五年二月　東京商工會議所調）

イ、積込

取扱なし

備考　右料金は二―三年間變化なし

ロ、荷卸

一、船内費　〇・三〇圓

一、艀賃　〇・四〇

一、陸上賃　〇・三〇

一、其他　〇・一〇

計　一・一〇

横濱港（昭和五年二月　横濱商工會議所調）

イ、積込

	最近三ヶ年平均 昲和二年	昲和三年	昲和四年	昲和五年現在
積込賃（本船積込人夫賃）	一・三〇圓	一・三〇圓	一・二七圓	一・二〇圓
艀船賃	〇・四五	〇・四五	〇・四五	〇・四二
陸下人夫賃（距臨一〇間以内）	〇・四五	〇・四五	〇・四五	〇・四二
小計	二・二〇	二・二〇	二・一七	二・〇四
京濱間艀賃（横濱―大川端間）	〇・八〇	〇・八〇	〇・八四	〇・七八
人夫宿泊料（東京、横濱）	〇・〇八	〇・〇八	〇・〇八	〇・〇七
小計	〇・八八	〇・八八	〇・九二	〇・八五
合計	三・〇八	三・〇八	三・〇九	二・八九

ロ、荷卸

		最近三ヶ年平均 昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年現在
荷卸賃	(港内沖取人夫賃)	圓 ○・四五	圓 ○・四五	圓 ○・四五	圓 ○・四二
艀船賃		○・四五	○・四五	○・四五	○・四二
陸上人夫賃	(距離一〇間以内)	○・四五	○・四五	○・四五	○・四二
小計		一・三五	一・三五	一・三五	一・二六
京濱間艀賃	(大川端―横濱間)	○・八〇	○・八〇	○・八四	○・七八
人夫宿泊料	(東京、横濱)	○・〇八	○・〇八	○・〇八	○・〇七
小計		○・八八	○・八八	○・九二	○・八五
合計		二・二三	二・二三	二・二七	二・一一

備考　本港にては港内にて瀨取る場合極めて少し

名古屋港　(昭和五年二月　名古屋商工會議所調)

イ、積込

地方の需要に應ずる爲移輸入炭を附近の各地に船積することあるも小運搬と看做すべきものなるを以て之を略す

ロ、荷卸

	圓
一、船内仲仕賃	○・三二
一、陸揚賃	○・四五
一、艀船賃　(築港驛河岸迄)	二・五〇

備考　右艀船賃は場所によりて左の如く定む

イ、築港驛　(一、二號地運河鐵道橋迄)	二・八〇
ロ、築港揚　(六號埠頭迄)	三・〇〇
ハ、堀川揚　(尾頭橋河岸迄)	三・〇〇
ニ、新堀川揚　(東邦瓦斯河岸迄)	三・四五

等の如し

神戸港　(昭和五年二月　神戸商工會議所調)

イ、積込(一万斤に付)

一、瀨取	一・二五
一、倉下	二・〇〇
一、本船積	三・九〇
一、其の他	一・五〇

計　八・六五

即ち一瓲に付　一・四四

備考　粉炭は堤炭より一割高とす

ロ、荷卸

積込と略同じく噸一圓五〇錢内外とす

敦賀港（昭和五年二月　敦賀商工會議所調）

イ、積込

荷物炭としての積込なし

參考　焚料積込賃

	圓
艀より本船積込賃	〇・五〇
艀賃	〇・三〇
陸下賃	〇・四〇
計	一・二〇

ロ、荷荷

昭和二年　三年　四年　五年現在

	圓	圓	圓
本船より艀へ荷卸	—	—	〇・二五
艀より陸上	—	—	〇・七五
計	一・一〇	一・〇三	一・〇〇

備考　一、港内瀬取なし
　　二、棧橋荷役なし

門司港（昭和五年三月　門司石炭商同業組合調）

イ、積込

種別	荷物炭	焚料炭
一、高架棧橋卸炭車底切賃	〇・〇三八	〇・〇三八
二、高架棧橋下擔除	〇・二五四	〇・二五四
三、艀陸下賃	〇・三二一	〇・三二一
四、港内艀賃	〇・二九七	〇・二九七
五、港内曳船小蒸汽船賃	〇・二〇〇	〇・二〇〇
六、本船積込賃	〇・六五二	〇・七二四
七、穴縫賃（艙内搔均賃）	〇・〇九〇	〇・一一〇

八、貯炭場費其の他諸費　〇・二四八　〇・二五六

計　二・一〇〇　二・二〇〇

ロ、積卸

取扱なし

備考　門司鐵道局にて門司驛葛葉貯炭場に石炭船積機二臺を設置し昭和四年十二月より使用を開始したるにより將來は前掲荷役費中二、三項は相當輕減すべし

若松港（昭和五年二月　若松石炭商同業組合調）

イ、積込

A手積

汽船荷物擔積込賃（穴繰賃共）	〇・四八四
艀より艀瀨取賃	〇・二六五
艀陸下賃	〇・一九〇
繰替賃	〇・一九二
檢量賃	〇・〇九五
其他	一・二七四
計	一・五〇〇

備考　私船積の場合は一圓四〇錢となる

B機械積

棧橋より汽船積穴繰賃	〇・〇四三
棧橋卸賃	〇・〇三一
繰替賃	〇・一九二
其他	〇・〇六四
計	〇・三三〇

戸畑港

若松港に同じ

唐津港（昭和五年二月　佐賀縣調査）

イ、積込

A陸人夫賃

	圓	圓	
鐵道棹取賃	〇・〇一四	一	鐵道貨車より棧橋下に石炭を落下するもの
山積賃	〇・二一九	一	棧橋下の石炭を貯炭場に山積するもの

山卸陸出賃	〇・二二二	—	貯炭場に山積してある石炭を人肩にて艀船に陸下するもの
軌道山卸陸出賃	—	〇・一九二	同軌道にて陸下するもの
直行陸出賃	—	〇・二八二	棧橋下より山積をなさず直に人肩にて艀に陸下げするもの
軌道直行陸出賃	—	〇・二七五	同軌道にて陸下するもの
小計	〇・四四五	—	
B 沖人夫賃			
荷物炭積込	〇・四七四	—	普通汽船へ荷物炭
特別焚料積込	—	〇・五八一	大型汽船に積込むとき
普通〃	—	〇・五一八	普通汽船に積込むとき
小型汽船荷物積込	—	〇・四三一	七〇〇噸未滿の汽船
帆船積込	—	〇・二六五	陸人夫にて實施す
小計	〇・四七四	—	
C 艀船料及曳船料（唐津西港內）			
艀船料港內瀨取	〇・二二二		
曳船料	〇・〇七二		
小計	〇・二八四		

以上合計　一・二〇四

ロ、荷卸

最近二、三年全く取扱なし

長崎港（昭和五年三月　長崎商工會議所調）

イ、積込

	貯炭場より陸下積込 圓	帆船瀨取積込 圓	帆船直積 圓
積込賃	〇・五四四	〇・五四四	〇・五二〇
艀船陸下賃	〇・二八八	—	—
棧橋卸賃	—	—	—
港內瀨取賃	—	〇・二八八	—
其他	一・一九八	〇・七一八	〇・一三〇
計	二・〇三〇	一・五五〇	〇・六五〇

ロ、荷卸

本船より貯炭場揚

一、艀船陸上賃	〇・三八八	圓
一、棧橋揚賃	—	
一、港內瀨取賃	—	
一、其他	〇・五四一	
計	〇・九二九	

備考　一、本表の料金は全部定率取極めにして炭種による差異なし
　　二、最近三ヶ年間は人夫賃、曳船賃等の諸掛には異動なし

釜山港（昭和五年四月四日　釜山商業會議所調）

イ、積込

一、汽船積込賃	〇・二〇	圓
一、帆船、艀船陸下賃	〇・二五	
一、棧橋卸賃	—	棧橋を利用することなし
一、港內瀨取賃	〇・二五	
一、艀賃	〇・三〇	
合計	一・〇〇	

ロ、荷卸

一、船內賃、荷卸賃	〇・二〇	圓
一、艀賃	〇・三〇	
一、艀船陸上賃	〇・二五	
一、棧橋揚賃	—	棧橋を利用することなし
一、港內瀨取賃	〇・二五	
一、貨車積賃	〇・二五	
合計	一・二五	

備考　一、最近三ヶ年間賃料に移動なし
　　二、炭種に依り賃料に差異なし

仁川港（昭和五年二月　仁川商業會議所調）

イ、積込

一、貨車卸費	〇・一六	圓
一、艀船へ積込賃	〇・二五	
一、艀賃	〇・三五	

一、艀より本船へ積込賃　〇・二〇
計　〇・九六

右は粉炭の場合にして塊炭の積込は一圓六錢なり

ロ、荷卸

一、本船より艀取賃　〇・二〇圓
一、艀賃　〇・三五
一、陸上賃　〇・三五
計　〇・九〇

右は粉炭の場合にして塊炭の場合は一〇錢高とす

備考　一、當港に於ける石炭荷役は船渠內荷役とす
二、時期により賃率に差異なし

清津港（昭和五年二月　清津商業會議所調）

イ、積込

一、鐵道構內貨車卸賃　〇・一〇圓
一、濱出棧橋賃　〇・三〇

一、艀船使用賃　〇・二〇
一、本船積込賃　〇・六〇
計　一・二〇

ロ、荷卸

取扱ひなし

基隆港（昭和五年四月　總督府調）

イ、積込

	沖積	岸壁擔込
積込賃	〇・二五圓	— 圓
艀船及陸下賃	〇・六〇	—
棧橋卸賃	—	〇・五〇
港內瀨取賃	(〇・二五)	—
(貨車卸、貯炭場費、繰替費等)	〇・二五	〇・二五
計	一・一〇	〇・七五

ロ、荷卸

	沖荷役	岸壁荷役
荷卸賃	圓 ○・二五	圓 —
艀船及陸上賃	○・六○	—
棧橋揚賃	—	○・五○
港内瀬取賃	(○・二五)	—
(貯炭場費、繰替賃、貨車積賃等)	○・二五	○・二五
計	一・一○	○・七五

備考　一、瀬取賃は特別取扱の場合のみなれば合計は合算せず
二、炭種により賃率に差なし
三、農繁期には多少高率となることあり

高雄港（昭和五年四月　總督府調）

イ、積込
取扱なし
ロ、荷卸
荷卸賃　圓 ○・二五
艀船及陸上賃　○・七○
港内瀬戸取賃　(○・二八)
貯炭場費、繰替賃、貨車積賃等　○・三○
計　一・二五
備考　港内瀬取賃は特別取扱の場合なれば合計に算入せず

大連港

イ、積込
積込機を使用する時　圓 ○・四三
其の他人力にて積込む時　○・三二
ロ、荷却
取扱なし

其の二　内地各石炭産地より市場又は船積港迄の汽車運賃（昭和五年四月一日より實施）

（一）　磐城地方より赤羽驛までの粁程及び運賃（千瓩に付）

驛名	距離（粁）	賃金（圓）
高萩驛	一六九・九	二・七九
南中郷驛	一七四・四	二・九〇
磯原驛	一七九・〇	二・九〇
勿來驛	一九〇・六	三・一二
湯本驛	二〇八・九	三・二四
綴驛	二一二・四	三・二四

（二）北海道に於ける左記驛より手宮驛までの粁程及び運賃（千瓩に付）

驛名	距離（粁）	賃金（圓）
幌内驛	八九・二	一・八九
幾春別驛	九三・七	一・九六
神威驛	一二二・七	二・三六
歌志内驛	一二五・四	二・三六
沼ノ澤驛	一四二・二	二・五八
清水澤驛	一四七・七	二・五八
鹿ノ谷驛	一五四・三	二・六八
夕張驛	一八二・九	三・〇一
楓驛	一〇五・五	二・一四

（三）北海道左記驛より室蘭驛までの粁程及運賃（千瓩に付）

驛名	距離（粁）	賃金（圓）
幌内驛	一五三・八	二・六八
幾春別驛	一五八・三	二・六八
沼ノ澤驛	一二九・八	二・三六
清水澤驛	一三五・三	二・四七
鹿ノ谷驛	一四一・九	二・五八
神威驛	一八七・三	三・〇一
歌志内驛	一九〇・〇	三・〇一
夕張驛	一四五・三	二・五八
楓驛	一三一・六	二・四七

（四）筑豐地方左記驛より若松驛までの粁程及び運賃（千瓩に付）

驛名	距離（粁）	賃金（圓）
桐野驛	三二・八	〇・九一

伊田驛	四一・〇	一・〇四
鯰田炭坑	三五・四（内〇、七私設鐵道）	一・一七
相知炭坑	一五三・五（内六、一私設鐵道）	二・九〇
枝國驛	三九・五	一・〇四
豐國驛	四六・九	一・一七
伊岐須驛	三七・二	〇・九七
上山田驛	五三・八	一・三二
忠隈驛	三九・九	一・〇四

（五）筑豐地方左記驛より戸畑驛までの粁程及運賃（千瓲に付）

驛名	距離（粁）	賃金（圓）
桐野驛	三五・九	〇・九七
伊田驛	四四・一	一・一七
鯰田炭坑	三八・五（内〇、七私設鐵道）	一・二三
相知炭坑	一六一・六（内六、一私設鐵道）	三・〇〇
枝國驛	四二・六	一・一〇
豐國驛	五〇・〇	一・二四

伊岐須驛	四〇・七	一・〇四
上山田驛	五六・九	一・四一
忠隈驛	四三・〇	一・一〇

其の三　東京市場に於ける各種石炭の實價推算表

一、撫順炭

	圓	
イ、山元原價	六・〇〇	（假定の數字）
ロ、汽車積込賃	〇・二二	
ハ、汽車賃	六・七八	（撫順驛より大連埠頭まで二七一哩四分、噸哩二錢五厘）
ニ、荷卸賃	〇・一九	
ホ、大連船積賃	〇・四三	
小計	一三・六二	
ヘ、大連横濱間汽船賃	二・〇〇	
ト、横濱港荷卸賃	二・一一	
チ、京濱間艀賃	〇・八〇	
リ、東京荷卸賃	一・一〇	

小計　六・〇一

合計　一九・六三

備考　一、昭和四年十月に於ける大連船乗撫順塊炭の相場は一二・五〇圓なるを以て生産費は本表より低かるべく、又汽車賃も相當割引せらるゝならん

二、本表の生産費は全く假定の數字にして內地諸炭坑より規模大なるを以て其の割合を以て算定したる數字なり

二、九州炭（一等塊炭）

	圓	
イ、山元生産費	六・五〇	（鐵道省推算）
ロ、起業費金利	二・〇〇	
ハ、汽車賃	一・二四	豊國驛より戸畑に出づるものと假定す
ニ、戸畑港積込賃	一・五〇	
ホ、汽船賃（横濱まで）	一・五〇	
ヘ、横濱荷卸賃	二・一一	
ト、京濱間艀賃	〇・八〇	
チ、東京荷卸賃	一・一〇	
計	一六・七五	

備考　一、九州一等塊炭の昭和四年十月の大川端に於ける相場は二〇圓なりき

二、起業費金利とは年産一噸に對する起業費が一割の金利を負擔するものと假定して算出したる數字なり、以下同じ

三、横濱港を仲繼して東京市場に入り來るものと看做し計算したり

三、夕張一等塊炭

	圓	
イ、山元生産費	五・六〇	（鐵道省推算）
ロ、起業費金利	二・五〇	
ハ、汽車賃	二・五八	
ニ、室蘭港積込賃	〇・七〇	
ホ、汽船賃（横濱まで）	一・五〇	
ヘ、横濱荷卸賃	二・一一	
ト、京濱間艀賃	〇・八〇	
チ、東京荷卸賃	一・一〇	
計	一六・八九	

備考　昭和四年十月に於ける市價は一九・五〇圓なりき

四、常磐炭（隅田川渡）

	圓	
イ、山元生産費	六・五〇	（鐵道省推算）

ロ、起業費金利　二・〇〇

ハ、汽車賃　三、二四（綴驛より出荷と看做し）

計　一一・七四

備考　昭和四年十月に於ける隅田川市場の相場は一六・五〇圓なりき

其の四　我國に於ける石炭の相場

	九州一等塊（大川渡）	夕張一等塊（大川渡）	常磐有煙塊（隅田川渡）	撫順一等塊（大連船乗）	大連横濱間運賃
	圓	圓	圓	圓	圓
大正十二年　二月	二〇・四〇	一九・五〇	二一・〇〇	一四・五〇	二・〇四
十月	二一・四八	二〇・〇八	二一・五〇	二二・五〇	三・七六
十三年　一月	二五・五〇	二四・〇〇	二三・〇〇	二二・五〇	二・六二
十月	二三・〇〇	二三・〇〇	二二・〇〇	二二・五〇	一・三二
十四年　一月	二二・八九	二二・八九	二一・一三	二二・五〇	一・七〇
十月	二〇・〇〇	二〇・〇〇	一六・一四	二二・五〇	二・五九
十五年　一月	二〇・七一	二〇・七一	一六・五〇	二二・五〇	二・二八
十月	二一・二四	二一・二四	一六・五〇	二二・〇〇	二・二〇
昭和二年　一月	二一・八三	二一・八三	一六・八三	二二・二〇	一・六四

十月	二二・五〇	二二・五〇	一七・二〇	一・九四
三年　一月	二二・八九	二二・八九	一七・一七	一・三五
七月	二二・九〇	二二・九〇	一七・〇〇	二・一〇
四年　十月	二〇・〇〇	一九・五〇	一六・五〇	一・五〇

統計

世界鐵鋼生産概況

世界の鐵鋼界は大戰終熄と共に一齎に不振に陷り、歐洲には國際カルテルの成立あり、次で諸國の當業者間にも幾多の商議が重ねられたるにも拘らず、世界産額は逐年增加の一途を辿り來り、特に一九二九年の如きは未曾有の産額に達した。然るに地方別に對する需要は却て減少し、從て市價の低落は最近に到り愈々甚しく、遂に昨年銑鐵産額の如きは殆ど戰前程度に迄激減するに到つた。

世界銑鐵及鋼鐵生産高（單位千噸）

年次／種別	銑鐵	鋼鐵
一九一三	七七、七二〇	七四、八三〇
一九二六	七七、六七〇	九一、七九〇
一九二七	八五、二七〇	一〇〇、一八〇
一九二八	八六、九六〇	一〇八、二二〇
一九二九	九六、一八〇	一一七、八五〇
一九三〇	七九、〇〇五	九四、七〇五

昨年七月末に於ける世界各國の銑鐵及鋼鐵の生産狀況を見るに日産額は一樣に減少して居り、只ルクセンブルグのみが銑鐵の增産を示して居る

ドイツに於ては作業中の鎔鑛爐は七九基より七七基に減じ、從つて銑鐵の日産高は六月に比し二%八、又前年同期に比し實に三六%減少を示して居る。及鋼鐵の日産高は更に甚しく激減して居り、六月に比し一〇%二、前年同月に比し三八%二の減退振りである

ザール地方にて作業中の鎔鑛爐は六月より一基を減じ、現在二五基にして日産額は六月に比し銑鐵一%七、鋼鐵二%七を減少して居る。ルクセンブルグに於て作業中の鎔鑛爐は二七基にして、其の日産額は六月に比し銑鐵は〇%五增加であるが、鋼鐵は六%五の減退に當て居る

ベルギーに於ける作業中鎔鑛爐は六月より二基減じて四九基となり、日産額は銑鐵五%二、鋼鐵一一%を各々六月に比し減じて居る

フランスにては作業中の鎔鑛爐數は前月同樣一四七基にして、日産額は六月に比し銑鐵一%鋼鐵一〇%の減退を示して居る

英國鐵鋼界は甚しく不振を極め作業中の鎔鑛爐は六月一三三基なりしに反し、一〇五基に激減し以て日産額は銑鐵一六%五、鋼鐵一一%八を減少して居る

米國に於ても作業中の鎔鑛爐は六月に比し一六基を減じ、一四四基にして日産額は銑鐵一二%九鋼鐵一八%を各々減じて居る

世界銑鐵及鋼鐵生産高（單位千噸）

國別	一九三〇年 七月	一九三〇年 六月	一九三〇年 五月	一九二九年 七月	年産額 一九二九年	年産額 一九二六年
▲銑鐵生産總額						
ドイツ	七二一	七六七	八六〇	一、一〇四	一三、四〇一	一一、八〇四
ザール地方	一六〇	一五八	一七六	一八五	二、一〇五	一、九三六
ルクセンブルグ	一八五	一七八	二二二	二五〇	二、九〇六	二、七七〇
ベルギー	二六〇	二六五	二〇〇	二四七	四、〇九六	三、八五八

フランス	八六〇	八四一	九〇二	八七八	一〇、四四六	九、九八一
英國	四九四	五七二	六二四	六八三	七、七〇一	六、七二六
ロシア	四二八	四四一	四四六	三五三	四、三二二	三、三七三
ポーランド	三八	三七	四一	六六	七〇四	六八四
スエーデン	—	二九	四二	三九	四九〇	三九六
オーストリー	—	—	—	四二	四六二	四五九
チエコスロバキア	一二	一〇八	一三三	一三七	一、六四四	一、五六九
イタリー	四七	四六	四六	六〇	六七八	五〇八
米國	二、六八二	二、九八一	三、二八五	三、八四六	二二、九六四	三八、六二三
カナダ	六六	六七	八二	一〇二	一、一〇八	一、〇五四
日本	一三九	一三七	一三九	—	一、五六二	一、五四〇

▲銑鐵日產額

ドイツ	二四・九	二五・六	二七・七	三六・八	三二・三
ザール地方	五・二	五・三	五・七	六・〇	五・八
ルクセンブルグ	六・〇	五・九	六・八	八・一	八・〇
ベルギー	八・四	八・七	九・七	一一・二	一一・三

フランス	二七・七	二八・〇	二九・一	二八・三	二八・六
英國	一五・九	一九・一	二〇・一	二二・〇	二一・一
米國	八六・五	九九・四	一〇六・〇	二二四・一	一二七・七
日本	四・五	四・六	四・五	—	四・三

▲鋼鐵生產總額

ドイツ	九〇六	八五九	一、〇三四	一、四六六	一、六二四六
ザール地方	一六九	一四八	一七九	一九八	二、二〇九
ルクセンブルク	一六五	一五〇	一八九	二三五	二、七〇二
ベルギー	二六四	二五三	二九四	三五六	四、一三二
フランス	七八九	七五三	八五五	八一五	九、六六五
英國	六三一	六一〇	七〇三	八一八	九、八一〇
ロシア	四五三	四七三	四九四	三八〇	四、九〇七
ポーランド	一一四	九〇	一一四	一一三	一、三七七
スエーデン	—	四二	五九	五九	七三〇
オーストリア	—	—	—	五七	六三二
チエコスロバアキア	一五五	一二六	一六二	一九九	二、二五九

イタリー	一七九	一六四	一五六	一八七	二、一四三	一、九六三
米國	二、九八〇	三、四九五	四、〇八九	四、九八八	五五、一八四	五〇、六六五
カナダ	七〇	九七	九三	一三二	一、四〇二	一、二六〇
日本	一八四	二〇七	二二一	—	二、二九三	一、九〇六

▲鋼鐵日產額

ドイツ	三三・五	三七・四	三九・八	五四・三	五三・三	四七・〇
ザール地方	六・三	六・四	六・九	七・三	七・二	六・八
ルクセンブルク	六・一	六・五	七・三	八・七	八・八	八・四
ベルギイー	九・八	一一・〇	一一・三	一三・二	一三・三	一二・八
フランス	二九・二	三二・七	三二・九	三〇・二	三二・六	三一・一
英國	二三・四	二六・五	二七・〇	三〇・三	三二・一	二八・二
アメリカ	二四・六	二三九・八	一五一・五	一八九・六	一七七・四	一六二・九
日本	五・九	六・九	六・八	—	六・三	五・二

備考　本調査の數字は概ね Wirtschaft und Statistik (1930.9) に據る—以上通商局發表

一九三〇年中獨逸の鋼材產額（聽）

品目	一九三〇年	一九二九年
鐵道材料	八八〇、一三四	一、一九九、一八九
平鋼及八糎以上形物	九〇二、三八二	三、〇四二、六五一
棒鋼及小形	二、二一六、四〇五	四八一、六二六
フープ	三六三、八一〇	一、一七〇、六八三
線材	八六三、七九四	一、〇七二、八六五
鋼板四・七六粍以上	七四六、九四八	二二〇、九一〇
薄板三—四・七六粍	一六三、一四七	九八八、三四七
薄板三粍以下	七六七、三一三	一四三、九七八
鍼力板	一二六、四九六	九〇五、九一三
チューブ	六三三、六三五	一六九、五七〇
鐵道車輛材料	一四四、二九六	一六九、五七〇
フオーヂング	一八八、四六七	二五四、七三八
其他の製品	一五五、一九八	一九九、四六七
合計	八、一五二、〇二五	一一、二九一、九六八
販賣用半製品	九一九、八〇五	一、一六七、四三四

一九三〇年中佛蘭西の鋼材產額

品目	
タイヤー	七九、〇〇〇
フオーヂング	八五、〇〇〇
軌條	五九二、〇〇〇
枕木	一九七、〇〇〇
レールフアスニング	五三、〇〇〇
ヂヨイスト	七八六、〇〇〇
罫形鋼深さ八〇粍以上	三五四、〇〇〇
ゾアース及鐵矢板	一八五、〇〇〇
線材	二三四、〇〇〇
ワイヤー	七三、〇〇〇
フープ及ストリップ	二〇七、〇〇〇
チユーブブランクス	一九一、〇〇〇
チユーブ	
特殊棒鋼	

棒鋼	二、三〇一、〇〇〇
鉄板	七八五、〇〇〇
薄板五粍以下	七〇七、〇〇〇
鋼板五粍以上	三七六、〇〇〇
平鋼	八二、〇〇〇
合計	六、五八七、〇〇〇
販賣用半製品	一、五七一、〇〇〇

一九三〇年中ルクセンブルクの鐵鑛石產額

鑛山局の修正數字に依れば一九三〇年中ルクセンブルクの鑛石產額は一九二九年の七、七五一、二〇六瓲に對し六、六一〇、〇八八瓲に減じた。因に昨年の產額は一九二四年以來の最少數字である

一九三〇年中英領印度の銑鐵輸出入

一九三〇年中英領印度の銑鐵輸入額は三、一〇六噸（一九二九年二、八四〇屯）に達し內二、五七七噸は英國より殘額は大陸より輸入した

輸出額は次の通りである

	一九三〇年	一九二九年
合計	五〇二、六二九屯	五四八、八八一屯
英國へ	一一六、七六二	
獨逸へ	一〇、三〇七	
日本へ	二〇一、九九七	
米國へ	一〇八、九二四	
其他國へ	殘額	殘額

一九三〇年中瑞典の鐵鋼統計

產額	一九二九年	一九三〇年
銑鐵（直接鑄物を含む）	四八九、七〇〇	四五六、八〇〇
錬鐵ブルーム	三五、九〇〇	二六、三〇〇
轉爐鋼塊酸性	一二、六〇〇	九、七〇〇
〃 鹽基性	七一、一〇〇	七八、二〇〇
平爐鋼塊	四九六、一〇〇	四〇四、七〇〇
坩堝鋼塊	一、四〇〇	一、一〇〇
電氣爐鋼塊	一一二、七〇〇	一〇九、二〇〇
壓延鐵鋼	五〇四、二〇〇	四一七、九〇〇

輸入		
銑鐵	九〇、一〇〇	八七、三〇〇
鐵合金	三、六〇〇	二、六〇〇
屑	二六、二〇〇	二八、六〇〇
棒、形其他	一四七、四〇〇	一五九、七〇〇
線材	二九、五〇〇	二一、四〇〇
軌條	一三、四〇〇	一一、六〇〇
鋲力板	一〇、九〇〇	一二、一〇〇
厚板、薄板	七七、三〇〇	八三、六〇〇
鑄鐵管	二〇、四〇〇	二二、九〇〇
錬鐵管	二六、三〇〇	二三、二〇〇
計	四四五、一〇〇	四五三、一〇〇
輸出		
銑鐵	七一、〇〇〇	四六、四〇〇
鐵合金	二一、〇〇〇	一四、〇〇〇

海綿鐵其他	九、三〇〇	六、六〇〇
屑	一一、四〇〇	九、〇〇〇
鋼塊其他	二七、三〇〇	一七、二〇〇
チューブブランク	一六、八〇〇	一三、五〇〇
棒鋼	七五、三〇〇	五三、七〇〇
線材	二八、一〇〇	一九、三〇〇
薄板	二、二〇〇	一、五〇〇
チューブ	九、二〇〇	一〇、一〇〇
ワイヤー	三、三〇〇	一、九〇〇
ネール	四、九〇〇	四、三〇〇
計	二七九、八〇〇	一九七、五〇〇
鐵鑛石	一〇、九二二、〇〇〇	九、四五九、〇〇〇

一九三〇年中アルゼリア及チユニシアの鐵鑛石產額

	一九三〇年	一九二九年
アルゼリア	二、二〇七、〇〇〇瓲	二、一六五、〇〇〇瓲
チユニシア	八二八、〇〇〇〃	九七七、〇〇〇〃

一九三〇年中ザールの鐵鋼產額

ザール地方の操業高爐數は一九二九年九月以來二六基を數へたが昨年七月には二五基に減じ更に十月以來二二基に減じた。一九三〇年中の鑄物銑及直接鑄物の產額は（少量のヘマタイト銑並製鋼用銑を含む）二二二、九一四瓲及鹽基性銑一、六八九、五三〇瓲合計一、九一二、四四四瓲に達した。一方、鋼塊及鑄物の產額は合計一、九三四、七九四瓲に達したが鋼塊の內一、四五五、四七九瓲は鹽基性轉爐鋼、四五五、七七三瓲は鹽基性平爐並電氣鋼である、鑄物產額中一五、一三六瓲は鹽基性鋼と電氣鋼、八、四〇六瓲は酸性鋼である

壓延鋼材の產額は一、四一三、四一八瓲（一九二九年一、六〇二、七二四瓲）に達した。內譯次の如し

鐵道材料	二〇四、九八六
形物（高さ八〇粍以上）	一九七、〇八三
棒鋼及小形	四四七、三九一
フープ	一〇〇、二三三
線材	一四五、五九六
厚板及平鋼	一六五、五七六
薄板及鍼力板	九五、八二六

チューブ	五二、九七四
フォヂング	三、五四一
其他の製品	二一二
販賣用半製品	一六八、九四五

以上　アイアン、エンド、コール、トレード、レビウ　一九三一年三月二十七日所載

一九三〇年中佛蘭西の鐵鑛石產額

佛蘭西一九三〇年の鐵鋼石產額は合計四八、四五七、〇〇〇瓲（一九二九年五〇、六四四、〇〇〇瓲）に達した、產地別に擧ぐれば次の如し

Metz-Thionville	二〇、二四一、〇〇〇瓲
Briey	二〇、五八四、〇〇〇〃
Longwy	三、七六四、〇〇〇〃
Nancy	一、四一三、〇〇〇〃
Normandy	一、七三四、〇〇〇〃
Anjou Brittany	四八四、〇〇〇〃
Pyrenees	一六二、〇〇〇〃
其他の地方	七五、〇〇〇〃

一九三一年一月中佛蘭西の壓延鋼材產額

タ　ー　ヤ　ー	六、〇〇〇瓲
車軸其他のフォーヂング	八、〇〇〇〃
軌　條	四九、〇〇〇〃
枕　木	一三、〇〇〇〃
レールフアスニング	四、〇〇〇〃
ジョイスト其他	六三、〇〇〇〃
線　材	三二、〇〇〇〃
ワ　イ　ヤ　ー	一五、〇〇〇〃
フープ及ストリップ	一八、〇〇〇〃
チューブブランク	四、〇〇〇〃
チ　ュ　ー　ブ	一三、〇〇〇〃
特殊棒鋼	一四、〇〇〇〃
棒鋼其他	一九二、〇〇〇〃
鋲　力　板	八、〇〇〇〃
薄　板	五五、〇〇〇〃

厚板	二九、〇〇〇瓲
平鋼	八、〇〇〇〃
販賣用半製品	一二、〇〇〇〃

一九三一年一月中佛蘭西の鐵鋼產額

佛蘭西一月中の操業高爐數一三五基（十二月より三基を減ず）を數へ銑鐵の生產高八〇三、〇〇〇瓲（十二月八〇六、〇〇〇瓲）に達した。其の內譯次の如し

鹽基性鐵	六〇四、〇〇〇瓲
含燐鑄物銑	一〇〇、〇〇〇〃
半含燐鑄物銑	二二、〇〇〇〃
ヘマタイト鑄物銑	三七、〇〇〇〃
ヘマタイトフオーヂ及ベセマーアイアン	二九、〇〇〇〃
鐵合金及鏡鐵	二二、〇〇〇〃

一月中の製鋼高は七四六、〇〇〇瓲（十二月七六六、〇〇〇）を算せり、內譯次の如し。

鋼塊	七二二、〇〇〇瓲
鑄物	二四、〇〇〇〃

製法別に擧ぐれば

鹽基性轉爐鋼	五一一、〇〇〇瓲
平爐鋼	二一〇、〇〇〇〃
電氣鋼	一四、〇〇〇〃
酸性轉爐鋼	一〇、〇〇〇〃
坩堝鋼	一、〇〇〇〃

一九三〇年中伊太利の鐵鋼產額

一九三〇年中伊太利の銑鐵產額は五三四、二九三瓲（一九二九年六七八、四九一瓲）、鋼產額は一、七七四、〇九四瓲（一九二九年二、一四二、七六五瓲）に達した、尙鐵合金の產額は四三、七四七瓲に達した、其の內譯次の如し

フエロマンガン	一四、六四八瓲
スピーゲル	一〇、七三一〃
フエロシリコン及フエロシリコンマンガン	一四、八三五〃
其他	三、五三四〃

以上　アイアン、エンド、コール、トレード、レビウ　一九三一年三月十三日

一九三〇年中佛蘭西の鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數（單位佛屯）

品別	輸入	輸出
銑鐵	一五九、七四一	五二七、〇六五
鐵合金	六、〇四二	九、八四一
鋼塊	六、三五三	六八、三九一
半製品、バー	八四、二九七	一、九九六、四四三
特殊鋼	六、七五四	二、五八八
線材	二、一三八	一六三、六七二
フープ	一三、六九〇	一〇一、二八一
厚板、薄板	六三、八五七	一七五、一三〇
鍼力板	二四、八一九	二五、三六〇
ワイヤ及ワイヤーグッド	六、二八一	五三、六一九
軌條	二、一五五	三三〇、三二六
車輪、車軸等	五、七六八	二一、五六八
スプリング	四二六	四、四九六

鑄物	一五、七〇四	二三六、五九〇	
ヂョイスト	四五、七二二	二三一、九一八	
ネール	四、八五〇	四五、五九五	
チューブ	二一、〇〇六	五九、七一九	
屑	六八、九二〇	三一五、七三七	
合計	五三八、五二三	四、三六九、三三九	
鐵鑛石	一、〇一一、五四〇	一四、九八三、六一〇	

輸入資源別屯數

資源別	鐵鑛石	鍼力板
白耳義及ルクセンブルク	四七五、九八九	—
西班牙	二三一、一四三	—
アルゼリア	三八、三六二	—
チュニシア	一二七、八一八	—
伊太利	一、五八五	—
瑞典	二九、九七一	—
獨逸	七、五九五	—

其他	殘額								
英國	—	二一、〇〇五							

輸出先別屯數

仕向地	鐵鑛石	銑鐵	半製品及バー	線材	鋲力板	軌條	鑄物	形物	薄板厚板
獨逸	二、四〇二、九四一	一〇四、八二七	四三九、二九三	五四、四五九	一一、二七八	九三、八一九	五七、三〇八	六八、九四四	六六、三七三
白耳義及ルクセンブルク	二、五〇四、九九八	一七〇、七三七	三三四、九二八	一四、九〇八	—	二三、二六四	八、五七〇	八、一七三	一七、八七〇
和蘭	九三、七八〇	—	—	—	—	—	—	—	—
英國	一五〇、七八二	七八、四八九	四四一、六〇七	二〇、八六三	—	二六、二五三	二三、七〇九	—	一、五三三
エヂプト	—	—	—	—	—	—	七、一五四	—	—
伊太利	—	八〇、〇七二	九九、九七六	—	—	—	—	—	—
瑞西	—	四九、二四三	二〇一、二〇一	—	—	—	一九、二三一	二九、四八四	—
合衆國	—	—	—	—	—	—	一四、九二一	—	—
アルゼリア	—	—	七四、六九三	—	四、四八一	—	二三、二二一	三七、九八四	六、一〇二
英領印度	—	—	三六、五二〇	—	—	—	—	—	—
印度支那	—	—	三〇、〇六三	—	—	—	—	四、六五六	—
ブラヂル	—	—	—	—	—	—	三、八六六	—	—

丁抹	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日本	—	—	—	—	—	六、七五四	—	—	—
アルゼンチン	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トルコ	—	—	—	—	—	—	二〇、二〇四	—	—
チユニシア	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佛領西アフリカ	—	—	—	—	—	—	—	一〇、二五一	—
備考　各項目共殘額は其他の國へ								一、七六五	—
								一〇、三〇三	—

一九三〇年　獨逸の鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數（單位佛屯）

品別	輸入	輸出
石炭	六、九三三、四四六	二四、二八三、三一五
褐炭	二、二一六、五三二	一九、九三三
骸炭	四二四、八二九	七、九七〇、八九一
石炭ブリケット	三二、四九〇	八九七、二六一
褐炭ブリケット	九一、四九三	一、七〇五、四四三
鐵鑛石	一三、八八九、八六七	七五、七七九

滿俺鑛石	三三五、七八六	一、六九五	
紫鑛石	一、五二六、〇四一	六二三、七〇二	
黃鐵鑛	九五九、五八九	四二、八九六	
銑鐵	一七〇、三七三	二〇一、九二三	
鐵合金	一、六七八	二六、〇三四	
屑	一六一、五六三	二五七、三九一	
鑄物	四六、四五八	二六二、一九三	
ブルーム、ビレット	一〇三、六四三	三九三、〇一二	
バー、セープ、フープ	四八七、三五一	一、一八三、五四七	
厚板、薄板	七五、五八四	五〇八、六八九	
鉄力板	二四、二五九	三七、二八六	
ワイヤー	九二、一六〇	三〇六、七三五	
チューブ	六、三七七	二七四、五二三	
軌條、枕木其他	七五、三一八	三〇一、七〇九	
鐵道車輪及車軸	七二〇	六〇、九〇四	
フォーヂングス	二二、四九五	二八六、九四〇	

建築用材、ガーダー其他	二、七六六	一三〇、七九四	
鐵道材料	七、〇六二	三二、五八二	
ボールト、リベット	二、〇七四	四〇、一四三	
ワイヤーグット	三、五一八	八五、六四四	
ネール	四六八	五七、六〇九	
其他	七、九三六	一六〇、七五九	
鐵鋼合計	一、二九一、八〇三	四、六〇八、四一七	
機械及部分品	四五、一一八	七二一、七六三	

輸入資源別屯數

瑞典	佛國	西班牙	アルゼリア
諸威	希臘	チュニシア	ルクセンブルグ
鐵鑛石	六、七五、四〇〇	二、七九、九〇〇	一、八二四、九〇〇
	六〇一、四〇〇	五四四、八〇〇	一五九、八〇〇
	一七九、〇〇〇	一〇九、三〇〇	

輸出先別屯數

仕向地別	銑鐵	屑	半製品	軌條及其他鐵道材料	ビレット	バー	フープ	厚板	中板	薄板	亞鉛引板	鉛板	錫板	ワイヤー	ワイヤーロープ	チューブ	建築用材
白耳義	六三、五二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ルクセンブルク	五、三一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
瑞典	四二、五二九	—	—	一一、七二四	二九、五〇〇	二九、一〇〇	—	二八、五三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
瑞西	二、八九七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、四九五	—	—	—	—	—	—
英國	七、五八七	一五、六三三	三六、二五三	—	一三、〇八〇	八五、五一一	五一、一三〇	三〇、六六八	—	—	—	—	—	七四、〇八八	一五、六七二	二七、八三一	—
伊太利	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
チエコスロバーキヤ	—	九七、五九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西班牙	—	四二、九六八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日本	—	四〇、二六五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ユーゴースラビヤ	—	—	二三、七五八	—	—	三三、五七七	—	—	一三、六二六	—	—	—	—	二六、八九六	—	—	—
和蘭	—	—	—	—	三〇、二三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ルーマニア	—	—	—	—	二五、八八四	六二、〇九二	二六九、五六九	一八、六〇九	九四、一二二	一六、二五二	一三、四〇四	—	—	三五、八七五	—	三二、七二二	—
英領南阿	—	—	—	—	二三、七七八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	四四、五一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トルコ	—	—	—	—	二七、二一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
英領印度	—	—	—	—	一一、〇一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蘭領東印度	—	—	—	—	二七、三六五	—	—	二〇、二七五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アルゼンチン	—	—	—	—	二二、一七〇	二二、五七八	五三、二七四	—	—	—	—	—	—	三〇、三二五	—	二〇、一一三	—
丁抹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佛國	—	—	—	—	二〇、七二八	五八、二〇六	四八、八二一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
芬蘭	—	—	—	—	—	三二、一〇八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
支那	—	—	—	—	二〇、二四五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智利	—	—	—	—	一九、九九五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合衆國	—	—	—	—	一九、〇九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
露西亞	—	—	—	—	—	三三、六七三	—	—	三三、四七二	—	—	—	—	—	—	—	—
備考	各項目共殘額は其他へ																

一九三〇年中白耳義及ルクセンブルクの鐵鋼材輸出入と輸出入先別屯數（單位佛屯）

品別	輸入 英國より	輸入 總べての國より	輸出 英國へ	輸出 總べての國へ
褐炭	—	一六八、五二四	—	五九七
石炭	二、七五五、九〇六	一〇、三一四、一二七	—	三、九六二、二二三
骸炭	—	二、九四六、六四二	—	七九三、三一八
ブリケット	—	一七九、五六四	—	七一一、九一九
滿俺鑛	—	二五九、六四四	—	一八九
鐵鑛石	—	一三、八六〇、四五四	—	五〇九、〇七二
銑鐵	四三、四五九	三九九、六九四	三一、一〇二	一一五、四一〇
鑄物	三〇五	九、二〇六	三、七一五	四四、一六五
ブルームビレット	—	二三三、〇〇二	三八、七四三	四〇六、八五六
特殊棒	三八七	三、一六〇	六、一二七	二、八九七
フープ	—	二、四二三	四六、六三八	一四六、七五一
ヂョイスト其他	一、三五三	二三、一三八	二二、〇六八	五八三、〇六五

レール	—	六、九五七	一〇、八〇八	一四八、五三七
厚板薄板	一、二四二	九、九〇四	一二三、一六六	五五五、八九五
鉄力板	一九、六二七	二一、五五二	四六〇	九八、四一四
ワイヤー	一、五二五	一〇、九六三	四五、〇二二	三三九、四一二
チューブ	三、九六四	二二、一七八	三、三四四	二四、〇二八
ネール、ボールト	一〇四	七、三七七	三七、〇六〇	一〇九、四四四
其他	七八二	一七、二〇〇	二五七、四四八	一、二七〇、〇二五
屑	三三、三九五	七四、八二一	—	三八二、九九六
一九三〇年計	九五、一四三	七三〇、七六五	一、〇〇四、七九一	四、二三六、七二五
一九二九年計	二〇二、〇八五	一、二七、四〇八	一、〇四〇、二二二	四、八四二、五〇二

對英國の輸出入屯數は表中に示せるが其他の國に關する數字は次の通りである

輸入

石炭	四、三六一、二四五	獨逸より	一、一四六、〇〇二	佛蘭西より	一、八三二、四二〇
骸炭	二、二〇二、八五八		—	和蘭より	六二、九五五
ブリケット	一五五、九四三		—	西班牙より	—
褐炭	一五九、〇四七		—	諸威より	—
鐵鑛石	—		三二、二五五、三五二	英領印度より	—
滿俺鑛	—		—	露西亞より	—
銑鐵	九四、六九五		一五五、五六七		五五、一九九
インゴットビレット	—		二八、二五七		—

褐炭	—	—	—	—
鐵鑛石	—	三三、四八九	二五九、一九二（瑞典鑛石）	—
滿俺鑛	—	—	—	—
銑鐵	九四、六九五	一五五、五六七	一一九、〇七九	六五、五五九
インゴットビレット	—	二八、二五七	—	—

輸出

	佛國へ	和蘭へ	獨逸へ	白領コンゴーへ	アルゼンチンへ	ブラヂルへ	丁抹へ	英領印度へ	希臘へ	トルコへ	南阿へ	伊太利へ	波蘭へ
石炭	三、二一〇、〇一五	二八、七一五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
骸炭	六六九、八三一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特許燃料	四七四、八七八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵鑛石	二九七、七七七	—	一七四、四四三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
銑鐵	四一、六一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
軌條	—	一四、七一三	—	二一、七八五	二一、四四三	九、二三〇	五、二一九	一、五四四	—	—	—	—	—
枕木	—	—	—	一八、〇〇九	—	—	—	一〇、九〇五	七、二七三	八、九三三	二七、二〇六	—	—
亞鉛引薄板	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五八、六二三	—	—	—
フープ	—	—	—	—	—	—	—	—	七、四九一	—	—	—	—
ワイヤー及ワイヤーロッド	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
屑	—	三五、三〇七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

輸出（つゞき）

	アルゼンチンへ	智利へ	支那へ	丁抹へ	エヂプトへ	合衆國へ	希臘へ	英領印度へ	蘭領東印度へ	和蘭へ	ポルチュガルへ	英國へ
熱間フォーヂ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
熱間壓延材料（其他の項目に含めるもの）	六六、七九二	二四、一三六	一二七、七〇三	二九、九〇九	三九、二四四	六九、五六九	三〇、八〇九	六一、六五四	一七、七六九	六〇、二六九	二七、七五三	二五七、一二三

一九三〇年中英國鐵鋼材の輸出入と其輸出入先別屯數（單位英噸）

鐵鋼材別輸出入數字は本號附表に示す通りであつて鋼材の主なるものに就き輸出入先別屯數を示せば次の如し

輸入

	瑞典より	諾威より	西班牙より	アルゼリアより	チュニスより	白耳義より	獨逸より	佛國
鐵鑛石	三一〇、三〇四	四八二、三九七	一、八〇四、一三〇	七八一、九〇八	三五〇、〇〇六	—	—	—
銑鐵	六九、七八三	—	—	—	—	三〇、二一三	—	—
半製品	—	—	—	—	—	二一七、八四一	一五七、九一三	一五一、六八三
シートバー	—	—	—	—	—	四一〇、〇一七	四〇、〇五二	—
バー、アングル	七、九九二	—	—	—	—	—	—	—
ガーダー	—	—	—	—	—	一三一、一二八	—	—
						八五、六一五	—	二〇、一七三

輸出

	獨逸へ	白耳義へ	佛國へ	伊太利へ	合衆國へ	濠洲へ	加奈陀へ	諾威へ	支那へ	日本へ	アルゼンチンへ	阿へ	英領南度へ	英領印ランドへ	ニュージ	埃及
銑鐵	一七、六八一	四六、〇四五	五八、五八三	三三、〇〇一	一三、九二〇	二、二八二	三、八四七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵合金	一、〇八八	四、三〇九	九六〇	一八八	二四、一〇一	一、九一九	五、二六八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
棒鋼	—	—	六、四〇三	—	五〇九	一七、一二三	六、九二九	三、二七六	五、五六九	九、四五四	三、一七八	一五、六四〇	四二、四五一	三二、〇七九	—	—
フープ及ストリップ	—	—	—	—	—	五、七一四	—	—	—	—	—	—	一三、五〇七	二、三四二	四、七二七	—
厚板薄板五吋以上	—	—	—	—	一	三二、九六九	—	—	—	九、八七〇	—	—	一五、〇三七	五、五五五	—	—
厚板薄板五吋以下	—	—	—	—	—	七、六七二	一四、一三一	—	三、六五六	三二、四七四	七二、一六七	—	一六、八五八	二、四三五	—	—
亞鉛引薄板	—	—	—	—	—	三一、五七一	一二、三八〇	—	—	—	—	三五、八二七	一一〇、一一三	二一、四三三	—	—
鋲力板	一七、四九九	二一、〇八〇	一九、九二七	一五、一六二	—	五一、五二九	三〇、四七四	七、七四一	二七、五三〇	一九、七五二	二六、一七九	—	二一、五六六	八、七四五	—	—
錬鐵チューブ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、七一四	二一、九九一	一八、三五七	二六、五一九	一一、三八〇	二、五六三

海外雜報

歐洲市況

【倫敦四月七日】 大陸市場は靜穩で鋼價は保合つて居るが然し獨逸の鋼組合に於ては價格の好轉を見る迄或る種の鋼材の輸出を手控へることにした

佛蘭西の製鋼所に於ては、消費者及商人のストックが殆んど消盡されたと傳へられ且運賃も價格も頗る低廉であるが爲め取引の不振は好轉するものと信じて居る

波蘭軌條工場のイルマ加入拒絶

先きに國際軌條製造業者組合に加人するやう傳へられた波蘭の軌條工場は遂に加入を拒絶するに至つた

英國造船業界は不振を呈し、クライデ造船所に對する突然の造船契約の殺到を以てしてさへも、本年の造船高は最低の記錄を齎らすであらう。クライデ造船所の三月中の進水船隻數は六千噸級十隻であつた。目下手ぶらの造船所七ヶ所を數へ三月中新規の注文は皆無であつた

獨逸の鉄力板日本市場侵入

獨逸が逐日外國市場に對する鉄力板の供給地位を增大しつゝあるのと、日本の鉄力板生産能力の擴大とに

伴ひ以前英米の鉄力板製造業者が享有して居つた輸出貿易は衰退の調を表はすに至つた、獨逸品は價格低廉で或る場合に於ては外國品の相場より一箱一弗の開きがある、最近 c i f 日本港渡の鉄力板相場は一箱約四弗四五に對し獨逸品は約三弗五〇である。

日本石油會社は前週一萬三千三百箱の石油鑵用鉄力板の買入契約を締結したが其の内九千三百箱は米國の五製造業者へ、四千箱は獨逸へ注文したものである。又台灣の一製糖會社は鉄力板二千五百箱を獨逸へ注文し一方明治製糖會社は五百箱（一箱百七十封度）を米國へ注文中である。一方八幡の製鐵所に於ては、四月一日より鉄力板生産能力を三百瓲增加し合計月産額二千五百瓲即ち五萬箱（年約六十萬箱）に增加した、官營製鐵所の年産額の中約三千六百瓲即七萬二千箱は日本石油會社へ又約四千八百瓲即九萬六千箱は大阪…製造會社へ通例販賣せられ、約千八百瓲即ち三萬六千箱は自家用に使用せらる、殘りの三十九萬六千箱は日本市場に賣出さるゝものである

日本鋼の比律賓市場進出

【横濱三月十一日】 官營製鐵所に於ては從來支那諸港シベリア、滿洲、暹羅、新嘉坡に其の鋼材の輸出市場を開拓しつゝあつたが又最近には比律賓のマニラにも新市場を開拓した此の市場には白、獨、の競爭あるも可なりの注文を獲得して居る

以上 アイアン エーヂ 一九三一年四月九日

日本の競爭に對應せんが爲め大洋運賃の引下

【漢堡三月十六日】　蘭領東印度に於て急速に增大しつゝある日本の競爭に對應せんが爲め、歐大陸諸港からの鐵鋼材の運賃は一割乃至二割五分引下げられた、又暹羅、海峽殖民地及南支那諸港に對する對する運賃も同樣引下げらるゝものゝ豫期せらる

線材カルテルに於ては最近價格の据置きを決定せるにも拘らず、カルテルに加入せざる線材業者及カルテル內の或る組合員は c i f 日本並支那諸港渡屯當り六磅八志で提供してゐる

歐洲の滿俺鑛ストック減少

【漢堡三月十六日】　昨年末ロッテルダム、エムデン其他の大陸諸港にあつた多量の滿俺鑛石のストックは漸減しつゝあるがこは、露西亞、ブラヂル、アフリカ及印度からの着荷が極めて少ない結果である、大陸の滿俺鑛消費者は最近多量の鑛石を購入したが、報ぜらるゝ所に依れば、アフリカ、印度及ブラヂルの採鑛會社の代理店は、今後鑛價の値引を打ち切ることに協定したゝ云ふ

日本の印度銑輸入

【橫濱三月八日】　印度銑の競爭に對抗せんが爲め日本の生產業者は輸入價格以下に其の相場を引下げた、日本の銑鐵業者は高率の產額を持續せるのゝ又新價格が採算取れざる爲め甚大な損失を招いて居る、過

去三ヶ年に於ける日本の銑鐵輸入を比較し見るに印度銑が其の王座を占めて居る。次の如し（單位瓲）

積出國	一九三〇年	一九二九年	一九二八年
支那	三八、三六一	五六、八三四	三〇、七四七
關東州	一五八、六四二	一四〇、四一九	一八二、三九四
印度	二三六、三〇三	四一一、四七七	三一〇、四八九
英國	四、四四六	九、一三三	八、三九六
獨逸	五、三〇九	四、五九一	六、五八六
白耳義	二二四	三〇五	六八〇
瑞典	一、六〇九	八一四	一、四三一
合衆國	一、八七六	三〇、四七三	二七、七六五
其他	六七	〇	五四二
合計	四四七、三四二	六五四、〇五五	五六九、二一四

前表に就て見るに印度銑の輸入額百分比は次のやうになつて居る

一九三〇年	五二・八%
一九二九年	六三%
一九二八年	五四・五%

ルーマニアの製鋼業者鋼カルテルに加入す

【漢堡三月十六日】　ルーマニアの製鋼業者は、大陸鋼カルテルの分派たる中歐鋼カルテルに加入した、ルーマニアの製鋼能力は著しく增大せられ生產業者は皆カルテルの會員になつたのであるが但し獨逸の所有に屬する在ブライラのダビットゴールドベルグゾーネ工場は二月に作業を開始した許りで未だ加入してゐない

以上　アイアン、エーヂ　一九三一年四月二日

日本の歐洲鋼材輸入回復

【漢堡四月一日】　日本の消費者は最近大々的に歐洲より鋼材の買入れを再始した。先週獨逸工場との間に五千瓲以上の線材の引渡契約を取り結んだが此れに比し、本年一月より本契約前までの取引合計は僅に七千瓲に過ぎなかつた本契約に於ける線材の平均價格は日本港 c i f 屯當り五磅である、又日本との間には若干屯數のチューブ、ライトゲーヂ黑板、フープ及建築鋼材の取引があつた、先週中日本の半製品購入高は約五千瓲に達した

一九三〇年露西亞の滿俺鑛產額レコードを造る

【華盛頓四月七日】　一九三〇年九月卅日に終る會計年度の露西亞の滿俺鑛產額は（選鑛にして）一、四四四、一六六瓲に達した。（前會計年度一、一八三、八八〇瓲及一九一三年一、二四五、二七四瓲）右はソ

ヴイエット政府當局の發表數字であつて尙同會計年度の輸出額は八七四、五一八瓲、前會計年度は八八九、九六九瓲及一九一三年は一、一九二、七九〇瓲であつた、前年に比し輸出額の少きは、露西亞金屬工業の一般的發達と共に、滿俺鑛石の內國消費高が著しく增加した爲めであると報じて居る

極東に對する歐洲運賃率の引下

【漢堡四月一日】　最近の報道に依れば極東市場に對する日本の競爭は歐洲諸港からの運賃率を著しく引下げしむるに至つた、和蘭の一主要汽船會社は前協約を取り消し極東諸港に對する鋼材の新運賃を c i f 一屯當り約五志引下げた

日本は鴨綠江畔に年產能力一萬瓲のアルミニューム工場建設を計畫中

【漢堡四月一日】　日本は、朝鮮鴨綠江畔に生產能力一萬瓲のアルミニューム工場を建設せんとし之れに要する機械及設備を當市場に引合中である、目下獨逸滯在中の日本政府の代表者が設備に對して商談中である

以上　アイアン、エーヂ　一九三一年四月十六日

フランス國製鐵工業狀況（一九三〇年）

昭和六年三月七日著在フランス芳澤特命全權大使報告

製鐵當業者の發表せる統計に依り一九三〇年フランス國製鐵工業を通覽するに、年末の狀況は年初よりも遙に不況なり、尤も國内の取引は相當ありたるも、前半季の末頃より合衆國より歐洲に波及したる世界的不況の影響を免ること能はざりしに依り、右の影響は七月頃に初り其極に達したるは十月以後にして、其原因は寧ろ生產及消費の不均衡よりも生產諸外國の競爭に依るものなり。從つて佛國は生產諸外國に比して不況の程度甚しからず。北米合衆國と比較せば同國に於ては鑄鐵に付一九三〇年三月の生產量は三、二四六、〇〇〇噸にして、同年十月には二、一六四、八〇〇噸に減退し、鋼鐵に付一九三〇年三月の生產量は四、三〇〇、〇〇〇噸にして、同年十月には二、七二〇、〇〇〇噸を越えず、卽ち約三十%減を示せり

併し佛國製鐵工業は合衆國に比し狀況優れたるは左に示す通りなり。（單位千噸）

▲鑄鐵

	一九三〇年	一九二九年
一月	八七五	九〇五
二月	八一五	七八二
三月	八九八	八八〇
四月	八五四	八七一
五月	九〇一	八九七
六月	八四一	八六五
前半季計	五、一八四	五、二〇〇
月平均	八六四	八六六
七月	八六一	八七七
八月	八四五	八九三
九月	八〇〇	八四三
十月	八二七	八九四
十一月	七八一	八六五
十二月	八〇〇	八七四
後半季計	四、九一四	五、二五三
月平均	八一九	八七六
年總計	一〇、〇九八	一〇、四五三

▲鐵

九月	七六七	七六三
十月	七九六	八四七
十一月	七〇六	七九〇
十二月	七五六	八一三

後半季計	四、五八九	四、八五五
月平均	七六六	八〇九
年總計	九、四二五	一　九、六五五

右に依れば前半季に於て鑄鐵は好況時代たる一九二九年と同等の位置を維持し、而も鋼鐵は僅少の進展をさへ示し、五月に於て八五五、〇〇〇噸に達したるは未だ嘗て見ざりし處なり。然れば一九二九年に示せる進境より減退を示すに至りしは後半季にして、鑄鐵に付三五〇、〇〇〇屯、鋼鐵に付二〇〇、〇〇〇噸の減少を示せり。右は佛國國內市場及國際市場に於ける價格の差異に起因し、外國の競爭激甚を加へたるに依るものにして輸出減退し輸入增加するに至れり。右組合の輸入統計左の通り。（單位千噸）

	一九三〇年	一九二九年
普通鑄鐵	二七	九
赤鐵	一〇七	三一
特種鐵及鐵製品	三二	一六
半製品及鐵棒	九一	五六
鐵板	六四	二五

然れば佛國製鐵市場は一方に於て生產者の努力昨年中終始不安の狀態を續け乍らも協定の存在せしに拘らず、年末に於て不況の狀勢を示し、隣國に於て既に行はれ居る勞銀の引下も或は止むなきに至るやも計れざる狀勢を示すに至れりと

尙本年一月以後の狀勢は益々不況の度を加ふるに至れる如く、關係機關雜誌等の記事に見るに多數の工場に於ては勞働時間の短縮勞働者の解雇を必要とするに至れりと報ぜり。（佛國經濟新聞ジュルナル・アンデウスツクエール記事に因る）

ドイツの鐵鋼製品工業狀況

昭和六年三月十日著在ベルリン長井商務書務書記官報告

一、生產　ドイツに於ける專門家委員會の報告に依れば、ドイツ鐵鋼製品工業は約二萬七千の工場と四十五萬人の從業員を有し居り、而して同工業の製品別を擧ぐれば三千五百に及び年產二十五億馬克に上る處、之が主なる目種に付生產價格を表示せば左の如し。（單位百萬馬克）

大鎌	四・五
鶴嘴	四・一
鐵槌	二・一
車輛	四八・〇

螺旋	六七・五
ロップ	三七・七
針金	一八五・〇
縫針	一八・四
鐵道車輛用バネ	一七・四
家庭及臺所用具	九〇・〇
看板用鋲力板	一五・〇
鍵錠	七二・〇
建築用留金	三六・〇
スケート	四・〇
事務用家具	四・〇
細斷用具	一〇〇・〇
ボールベーリング	三八・〇
ロールベーリング	二一・〇
鐵道建築用螺旋	二〇・〇
手工道具	二〇〇・〇

精密なる用具及特殊の鑽孔器	七八・〇
包裝用鋲力板	一三六・三
ストーブ	四〇・〇
電氣放射器	四〇・〇
暖房用釜	三〇・〇
自轉車部分品	一四〇・〇
ペン先	三・八

二、貿易　鐵鋼製品中其の三分の一は輸出せられ居り、其の金額はドイツ總輸出金額の八%四（百十二萬馬克）を占め居る次第にして、右は石炭褐炭類燃料（六%三八）の輸出よりも多しと雖、紡織工業（一四%三七）及化學工業（一〇%二）に於けるものより僅少なり。而して本工業を貿易バランスより觀る場合には百四萬二千馬克の出超にして、化學工業及機械工業に於ける夫々の出超に次ぎ第三位を占め居れり

世界輸出額を檢討すればドイツは第一位に在り、次で英國、北米合衆國、フランス、ベルギー及スエーデンの順位となる。生產金額の最高は北米合衆國にして約千百五十萬馬克なるが、ドイツの生產は之に次ぐものなり。輸出品量は其の種類に依り頗る異る處あるも、之を擧ぐれば生產高に對し二乃至一〇〇%の內を行くものなり。而して留金、針金（各種）針、等は五〇%以上、亞鉛引鋲力、寢臺用具等一〇%以下なり

一九二九年に於けるドイツ該品輸出は一九一三年に比し五五％九の增加にして、噸當の總平均價格は二五％九の增加なり。各國は競ひて新工業助長策として關稅引上或は補助金制度を設けて外國品と競爭するに至れり。主要鐵鋼品二十九種に對する一九一三年に於けるドイツの平均關稅は諸大國中の關稅率にして中位にあるものに比しても尙其五八％八又一九二九年に於ては三八％九に該當し居るなり。ドイツに於ける本工業は內國需要不活潑なると共に一九一三年に比較して著增せる生產能力を發揮せしめんが爲不況打開策として層一層輸出に努力せざる可らざるなり

三、需要品の變遷　流行の變化、軍需品の減少、技術的進步發達に據り、二十年間に於ける需要品の變遷は目覺しきものあり。例へば帽子用針、コルセット用鐵、靴底用鐵は完全に市場より姿を消し、自動車の價格低廉となりたるに伴ひ自轉車部分品製造工業は苦境に陷り、之に反し鐵製風呂、水道、下水用鐵管及鐵製家具の需要增加せり。洋傘の骨は逐次其需要減少しつゝあり。尙手工用具に關しては漸次機械化せらるゝに至れり。本工業は一九一三年に比しては增加せる生產能力を有するも、農業建築及鐵道界に於ける資本缺乏に災せられ其需要一般に思はしからず。鑛區に於ては節約及合理化の行はれつゝある折柄ロッブの如き戰前一萬「メートル」を用ひたる處は現在に於ては僅に二千乃至三千「メートル」を用ゆるに過ぎざるなり

四、販賣　卸賣せらるゝは主として建築用螺旋、車輛用バネ、フィッチング、車軸等にして、ゾーリング製及物の如きは直接小賣せられアーヘン製針の如きは卸小賣の兩取引行はれつゝあり。卸賣せらるゝもの

ゝ利益は二〇％、小賣せらるゝものに於ては三三乃至八〇％にして、卸小賣せらるゝものに於ては更に多し。而して利益を最多く價格內に含めしむるは耐久品（寢臺用具、ストーブ等）及價格低廉且少量づゝ賣捌かるゝ品（縫針ペン先等）に於てなり

尙鐵鋼製品工業に於けるカルテル及カルテルに近きもの約百三十存在し居る現狀にあり。斯く多數のカルテルの存在すると共に本工業の過剩生產並製品の多種多樣なることは不況なる市場を好轉せしめ得ざる一素因なりとも視らるゝなり

國際軌條製造業者組合

八幡製鐵所の競爭に脅かさる

英國　アイアン、エンド、コール、トレードレビウ一九三一年二月廿日所載

獨逸　イルマ卽ち國際軌條製造業者組合は目下日本の競爭に直面して居る

八幡製鐵所に於ては今や外國市場の開拓に最大の努力を爲しつゝあるが最近エヂプト及南阿に於ては日本軌條製造業から誘惑的の價格で取引の申込を受けて居るのでイルマとしては此の新侵入者に就いて何等かの對策を講ずるであらう、因にイルマ會員の割當百分比は次の通りである

二四・七五
一九・五七五

合衆國	一八・五
佛蘭西	一七・六
ソコベルジ(白耳義)	五・四八五
其他の白耳義工場	八・八四
ルクセンブルク	四・九五
中歐諸國(チエコ、墺太利及匈牙利)	四・〇〇

立法院を通過せる實業部組織法

支那鑛業週報　第百二十六號

實業部組織法草案は既に立法院十日の第一二五回會議に於て修正通過せり、茲に鑛政關係の各條文を摘錄し左に揭ぐ

實業部組織法草案

第一條　實業部ハ全國ノ實業行政事務ヲ管理ス

第二條　實業部ハ各地方最高級ノ行政長官ニ對シ本部ノ主管事務ヲ執行セシメ命令監督ノ責任有リ

第三條　實業部ハ其主管事務ニ關シ各地方最高級ノ行政長官ノ命令又ハ處分ニ對シ法令違反又ハ越權ト認ムル場合ニハ國務會議ニ提出シ議決ノ上之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得

第四條　實業部ニハ左ノ各署司ヲ置ク

一、林墾署
二、總務司
三、農業司
四、工業司
五、商業司
六、漁牧司
七、礦業司
八、勞工司

第五條　實業部ハ立法院ノ議決ニ據ラザレバ各署司及其他各機關ヲ增置裁併スルヲ得ズ

第六條　林墾署組織法ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　總務司ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、文件ノ收發分配・撰擬・保管ニ關スル事項
二、部令ノ公布ニ關スル事項
三、印信典守ニ關スル事項

四、職員ノ進退記錄ニ關スル事項
五、統計ノ調製整理ニ關スル事項
六、出版物ノ編輯刊行ニ關スル事項
七、本部經費ノ豫算決算及會計ニ關スル事項
八、直轄各機關ノ經費及會計ノ監査ニ關スル事項
九、本部ノ國有財產國有物ノ保管ニ關スル事項
十、本部ノ庶務又其他各司ニ屬セザル事項

第八條　農業司ハ左ノ事項ヲ掌ル（省略）

第九條　工業司ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、國營ノ化學・機械・冶煉及其他工業ノ籌設及管理ニ關スル事項
二、民營ノ化學・機械・冶煉及其他工業ノ奬勵保護監督改良擴張ニ關スル事項
三、製造品ノ徵集試驗檢定ニ關スル事項
四、工業ノ獨專及特許ニ關スル事項
五、國貨ノ證明及奬勵ニ關スル事項
六、工廠ノ登記及監査ニ關スル事項

七、工業技師ノ登記及監査ニ關スル事項
八、工業團体ノ登記及監督ニ關スル事項
九、工業規格ニ關スル事項
十、度量衡ノ製造檢定普及ニ關スル事項
十一、工業ノ調査及統計ニ關スル事項
十二、其他工業ニ關スル事項

第十條　商業司ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、國營商業ノ設計管理ニ關スル事項
二、民營商業ノ奬勵保護監督改良、擴張ニ關スル事項
三、商品陳列展覽ニ關スル事項
四、商品ノ檢査試驗ニ關スル事項
五、商號及商標ノ登記ニ關スル事項
六、商業團体ノ登記及監督ニ關スル事項
七、商業金融及國際爲替ノ調査及其調節ノ研究ニ關スル事項
八、取引所ノ登記及監督檢査ニ關スル事項

九、保險會社ノ認可登記及監督ニ關スル事項、
十、會計師ノ登記及監督ニ關スル事項
十一、物價及市場販賣ノ調節ニ關スル事項
十二、商約商稅ノ研究ニ關スル事項
十三、國際貿易ノ振興ニ關スル事項
十四、商埠商港ノ經營ニ關スル事項
十五、駐外商務官ノ指導監督ニ關スル事項
十六、商業ノ調査及統計ニ關スル事項
十七、其他商業ニ關スル事項

第十一條　漁牧司ハ左ノ事項ヲ掌ル（省略）

第十二條　鑛業司ハ左ノ事項ヲ掌ル

一、國營鑛業ノ籌設及管理ニ關スル事項
二、鑛業ノ監督保護奬勵ニ關スル事項
三、鑛權ノ特許及取消ニ關スル事項
四、鑛業登記ニ關スル事項

五、鑛區稅ノ決定及徵收ニ關スル事項
六、鑛業爭議ニ關スル事項
七、鑛務警察ニ關スル事項
八、鑛業調査及統計ニ關スル事項
九、鑛區設定及鑛質分析ニ關スル事項
十、鑛業用地ニ關スル事項
十一、地質調査ニ關スル事項
十二、其他鑛業ニ關スル事項

第十三條　勞工司ハ左ノ事項ヲ司ル

一、勞工團体ノ監督ニ關スル事項
二、勞工生活ノ改良及保障ニ關スル事項
三、工廠鑛廠ノ衞生設備ノ指導監督及檢査ニ關スル事項
四、工人ノ智識增進ニ關スル事項
五、工人ノ失業及傷害ノ救濟ニ關スル事項
六、勞働保險及工人結社ノ促進ニ關スル事項

七、工人ト雇主間ノ紛糾ノ調定及勞資協調ノ指導ニ關スル事項
八、工人或ハ工會相互間ノ紛糾ニ關スル事項
九、工人ノ作業能率及服務狀況ノ調査ニ關スル事項
十、勞工ノ移殖及在外工人ノ保護ニ關スル事項
十一、勞工國際ニ關スル事項
十二、勞工統計ニ關スル事項
十三、其他勞工ニ關スル事項

第十四條　實業部々長ハ本部ノ事務ヲ總理シ所屬ノ職員及機關ヲ監督ス
第十五條　實業部政務次長及常任次長ハ部長ヲ輔助シ事務ヲ處理ス
第十六條　實業部ニ祕書六人乃至十人ヲ置キ部務會議及長官指定ノ事務ヲ分掌セシム
第十七條　實業部ニ參事四人乃至六人ヲ置キ本部ノ法案命令ニ關シ撰擬審核セシム
第十八條　實業部ニ署長一人司長七人ヲ置キ各署司ノ事務ヲ分掌セシム
第十九條　實業部ニ科長二十四人乃至三十二人、科員百二十人乃至百六十人ヲ置キ長官ノ命ニ依テ各科ノ事務ヲ處理セシム
第二十條　實業部々長ハ特任（親任）、次長、參事、署長、司長及祕書三人ハ簡任（勅任）、其餘ノ祕書及科

長ハ荐任（奏任）、科員ハ委任（判任）トス
第二十一條　實業部ニ技監一人又ハ二人ヲ置ク簡任トス、技正（技師）二十四人ヲ置ク其中八人乃至十二人ハ簡任其餘ハ荐任トス技士（技手）三十二人ヲ置ク其中十八人ハ荐任其餘ハ委任トス、技佐（技術雇）二十人乃至三十人ヲ置ク委任トス、長官ノ命ニ依テ技術事務ヲ處理セシム
第二十二條　實業部ハ事務上ノ必要ニ因テ顧問及專門委員ヲ聘用スルコトヲ得
第二十三條　實業部處務規定ハ部令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十四條　本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

十九年度江西省政府管理の萍鑛及其附近の支持情況

昭和六年二月十四日鑛業週報記載

茲に昨年度江西省政府管理の概況につき分述す

（一）工程概況

各工程は盡く原有炭坑に據つて採炭し新に建設せるもの無く、各種機料電料及雜料は久しく購入せず、各項の機械も過ま損壞するこゝあるも修理する能はず。又坑内の緊要なる風道、水道も五月中匪軍の爲に陷落してより後多く破壞せるも材料無き爲亦修理をなすこと能はず

（二）營業概況

運輸時期に阻滯を生ぜし爲運炭捗らざりしを以て需要に應じて供給することを得ざりき

（三）產額統計

一月より五月に至る間每日產炭千噸なりしも五月十六日匪軍の爲陷落してより後全部の停工約半載に及ぶ、本年の產炭總計約十七萬噸なり

（四）員工人數

全礦の職員工人約六千八百餘人

（五）員工給料

一月より五月に至る間工人日給最底二角五分（銀二十五仙）最高一元にして職員俸給は漢冶萍原有俸給に從て三分の一を支給し最高も每日一元を以て限度となせり。匪軍刼略を經て恢復開工後員工一律に一人に付每日食費大洋二角を支給す

（六）販賣區域

漢口、長沙、株州一帶にして多くは炭商の請負販賣なりとす

（七）運輸方面

列車運送は株萍線を經て湘鄂線に轉ずるも目下湘東橋水害にて中斷され尙未だ修復されざるを以て人力を以て渡河せざる可らず

（八）特殊情況

（1）五月より十月に至る間匪軍四次安源を陷る公私の損失約計二百餘萬被害職員十餘人なり

（2）礦界の內外附近に土井林立約三百餘個處なるを以て若制止の方法を講ぜざれば本礦の風道水道に莫大の妨害あり

次に新年來の萍鑛に就て述ぶれば專員更迭し前者は已に去り新任者來り總務科長凌子貞（前鑛長）は維持の方法を講じ新に贛鄂路と訂約し礦山より每日石炭二百噸を交付し長沙にて每日一千元を支給し食費を補助し不足の數は石炭販賣によりて支持す。每日石炭六百噸を產するも工人に二角の食費を支給すれば應用に足らざる故に產炭數量も亦不足なり。種々の困難は到底筆舌に盡し難きなり

鄂城鐵鑛停業

支那鑛業週報　第百三十一號

【大冶通信】鄂城鐵鑛は江岸に臨むと雖も成分劣等なる爲販賣し難く目下停業中なり、貯藏の爆藥百五

十箱は聞くところによると象鼻山官鐵鑛にて五十箱を、漢口市工務局にて八十箱を購買せりといふ

西北科學考察團綏遠に於て鐵鑛を發見

支那鑛業週報　第百三十號

西北科學考察團は女師院研究所に於て第一次展覽會を開催し新疆甘肅の採集品三千餘點を展覽せり。黃文弼、丁道衡兩博士と採集の經過に付て記者は對談せるに丁道衡博士は白雲鄂博に於て鐵鑛を發見せり西北の巨大なる富源なりといふ。丁氏の談次の如し

綏遠白雲鄂博に大鐵鑛を發見せり、白雲鄂博は心明安旗に屬し綏遠の西北約五百里の地に在り、余は十六年七月三日調査に出で發見せるものにして、鑛石は磁鐵鑛にして斷層關係に因り全部露出す石灰岩中に產出し長岩の接觸作用を受けて成れるを以て鑛質甚だ新にして已に第一次の分析に據れば成分は六十パーセント以上なり。鑛量十三億六千九百五十八萬九千噸にして確定數量は八千五百十二萬六千四百噸の多量に達す、洵に西北巨大の富源たり云々

實業部行政宣言中の鐵業及本期鑛業行政計畫綱要

支那鑛業週報　第百三十號

實業部長孔祥熙最近實業部の行政宣言をなさんとす、茲に其原文中鑛業に關するものを摘錄して左に掲ぐ

探鑛所の籌設　各種應用機械を設備し最新の探鑛方法を應用し期を分つて進行し、以て各省鑛產貯藏量を確定すると同時に地質調査を爲し未開鑛區を公布し開採を提倡し地下の富源を盡く開發せんことを期す又最短期間に於て全國十萬分の一の地質圖を完成せんことを期す

鑛業指導所の籌設　鑛學の人材を集中し改良發明を研究し國內停業の各鑛をして應に原狀を恢復せしめ以て失業工人を救濟すべし。其已に開辦して尙未完成の各鑛については當に援助督促の方法を講じ其完成を逐げしむ、同時に積極的に督促し各種重要鑛產を開發し以て利權を挽回すべし。謹んで總理の建國實業計劃に遵ひて力めて油鑛炭鑛の開發を謀り水力電力の利用に迄及び以て實業上必要の動力を充すべし

國營工業の籌辦　基本性質を有する酸、碱、石炭及銅、鐵の冶煉の如き重要金屬の工業は私人の能力を以ては一時に能く經營を興し得るものに非ず、均しく緩急を斟酌し各別遂行し以て倡導に資せんとす

（別報）　實業部成立後內部組織は林墾署、總務、農業、工業、商業、漁牧、鑛業、勞工の各司に分つ其主管事項は今後實業の發展に關係すること甚だ鉅なり。茲に同部の新に決定し中央へ呈送せる一、二、三、三箇月の行政計劃中の礦業に關する分を摘錄して左に掲ぐ

本期鑛業行政計劃綱要

（一）　鑛業法の實施並に本法附屬法規の擬訂

鑛業法は已に十九年五月國民政府にて命令公布し十九年十二月一日を以て施行日期と定めたり、本部成立

せるを以て應に遵照施行すべし

此外鑛業登記條例、職工待遇條例、鑛業警察規則、鑛場警衛章程、炭礦爆發豫防規則、鉤虫病豫防規則等の附屬法規に關しては已に命じて各別に起草し施行に便せしむ

（二）鑛業指導所の籌設

鑛業指導所に關する件は前農鑛部にて章程豫算を擬具し中央政治會議に呈して通過せるものなり、唯同所の經費を財政部にて未だ支出せざるを以て未だに設立せざるなり

本部は同所の設立を詳細調査せるに實に總理の實業計畫に遵照し兼ねて米國鑛業所の成規を採用して組織し以て專問の人材を集中し鑛冶の改良と發明を研究し同時に臨時鑛業の指導をなさんことを期す、鑛冶に關係すること實に重大なりとす即ち原案を繼續籌備せんとす

（三）國營雷家溝炭礦の籌備

雷家溝炭田は早くより鑛探をなし優良骸炭用石炭を產し鑛量最少三千萬噸なること明確となれり。若し即時開採するを得ば長江一帶の外國炭は自ら逐漸減少すべし而して國家鋼鐵事業需要の骸炭も亦自給することを得べし。直ちに職員を派遣して一切を籌備せしめ本期間中に籌備着手し開採に從事するを期す

（四）燃料研究の遂行

燃料は國際上重要なる實業問題の一にして近年來各國は固體液體氣體の各種燃料に關する研究に全力を傾

注し且つ多くの發明あり。本部の地質調査所は前に金紹基氏の援助に依て已に十九年に燃料研究室を設立し米、獨、佛、瑞各國の器械を購入し作業に從事すると共に專問家に委託して米、獨二國に在て調査練習せしめ一切の設備を增加す。本部は現に積極的遂行を督促せんとす

（五）邊境地質の調査

本部の地質調査所は所内にて技師分任して報告を編輯し、燃料、化石地質、地震等の研究をなす外、現に技師譚錫疇等を四川及西康一帶の調査に、技師楊鍾健等を外蒙及察哈爾一帶の調査に、技師王恒升を遼寧及吉林一帶の調査に派遣せり。又同所々長翁文灝は近く東三省より四川省に赴き成都、重慶等を調査す。本部は一層督勵し積極的に遂行せんとす、本期内に調査の結果或は新鑛床の發見あらんか

（六）地震研究の遂行

我中國に於ても時に震災あり斷層地震に屬するもの多し、本部地質調査所は前に林行規氏の援助金を承け北平西山鷲峰林場に地震研究專室を建築し十九年六月落成せり。大小各地震計に關しては已に獨、露、日の各國に夫々註文し其中の一部は業に運送し來り夫々裝置せり。本期内には緊張せる作業をなし研究の結果については直ちに隨時公表し以て衆覽に供す

（七）首都地層材料の收集

潛水地質に就ては前農鑛部にて派員調査せりと雖も近來陸續として鑿井をなすもの其數少なからざるを以

て今後は應に隨時鑿井の各公私團体に通報し其の得たる地層見本及深淺の記錄並びに井水化學分析成分に就き本部に報告せしめ、同時に部より職員を派して各種材料を收集し各別に陳列し參考に供せんとす

（八）鑛產化學試驗の增設

鑛質の優劣は生產費に關係すること至つて重要なれば工業試驗所內に鑛產化驗及試金の各種設備を增設し以て各鑛廠の請求に應ずると共に本部技術員の研究に供せんとす

（九）鑛稅及改定稅額の整理

鑛區稅は原來國稅の一なるに、軍與以來各省の鑛稅省政府に截留さるゝものあり鑛商の缺納するものあり、本部は整理を加へ稅收を裕にせんとす、又新鑛業法中稅率は從前に比し輕減し此の施行の始に當りて當に一律に改定し以て商人の負擔を輕減せんとす

（十）鑛業執照の交換支給及新登記の籌備

鑛業法曁施行細則は均しく已に先後して命令公布施行されたるも惟鑛業登記條例は尙頒布されざるを以て本部は卽ち起草上呈し決裁され公布施行さるゝを俟て直ちに各省に通令し法に依て登記し執照を交換支給す

（十一）執照を受けず私に開採をなす鑛山の取締

各省人民の窃に鋼質を開採するもの已に習慣となり加ふるに交通不便の爲地方官法令の施行に力めざる結果遂に隨意開採するの弊を生ぜり、將來大鑛山開採を礙する危險あるを以て本部は此種の事件に對しては當

に嚴重なる取締を加へ以て鑛利を保護す

（十二）烈山炭礦の整理

烈山煤礦公司は軍事の影響を受け作業を休止するに至れり、昨年官商合辦となしてより以來各項の全工程を切實に整理し年末に及べり、同鑛北窰五六兩井、南窰八十兩井は積水を盡く吸上げ終り四五兩井は已に炭層に及び現在已に石炭を產出しつゝあり。本期內に鍋爐水井を增加し發電所を籌設し南北各井を修理し以て出產增加を期す

（十三）全國各大鑛山の懸案整理

（甲）開灤公司

開灤公司は元來英國商開平公司と中國商灤洲公司と合同して成立せるものにして契約規定に遵へば期限を定めて灤洲公司にて應に現款を以て開平公司を收回すべしとなすも遂に未だ實行せず、且つ一切の事宜に關して從來我中國の法律に遵はず稅款を納入せざるなり

前農鑛部は曾て財政、外交兩部と會同し整理委員會を設立し其規約に就て利權を挽回するを促せしも時局の關係に因て未だ結果を得ざりき本部は應に遂行の方法を講じ以て解決を期す

（乙）魯大公司

山東省大公司經營の事業は川淄坊子各炭礦及金嶺鎮鐵鑛にして、ワシントン會議後同公司は改めて中日合

辦こなせり。山東省政府は同公司事實上の一切の實權は盡く日本人の把握するこころなる爲同公司こ爭執を生じ前農鑛部は曾て行政院に呈淮し魯大公司整理委員會を組織せるも山東省委員延引して派遣せられざりし爲遂に成立せざりき

本部は繼續遂行せんこす

（丙）中原公司

河南省中原炭礦公司は營業良好なりしが十六年の軍興以來軍派員接管し、其退走後河南省政府の經營に歸せり事情複雜にして、且福公司こも亦紛糾多く前農鑛部は曾て院令を奉じて外交、鐵道兩部及河南省政府こ會同し中原公司整理委員會を設立せるも河南省委員派出されざりし爲遂に決定するこころなし。本部は同省政府に速に委員を派して遂行を協議せんことを催促せんこす

（丁）漢冶萍公司

本件は原來我中國鑛業上重大問題の一なり、曾て交通部、農鑛部にて先後して整理委員會を組織處理せしに嗣で三中全會の議決により國民政府にて專員を派して處理せり。本部は現に愼重考慮を加へ方案を決定し呈して採擇を俟てり。唯萍鄕炭礦は原來漢冶萍公司の一部なるも同鑛停業以來江西省政府は職員工人の生計維持の爲曾て職員を派し經費を出して接辦せるも經費不足の爲作業時に停頓す。再び遷延して僅に廢棄せざるのみなるは眞に惜む可く亦地方の治安に影響するを恐るゝを以て草訂方案を呈して核准施行さるゝを俟たんこす

（戊）臨城公司

本件の發生は河北省政府こ商股々東（民間株主）この間に資本關係及管理問題に關し紛糾を起せるに因る、前農鑛部は曾て双方の代表を南京に召集し善後方法を討論せしめしに省政府代表未到の爲未だ解決するを得ず、其後商股方面は部にて接收整理せんことを請へるも未だ辦理するに及ばず、本部は繼續して解決の方法を講ぜんこす

（十四）停業各金鑛の恢復による金恐慌の救濟

目下の金昂騰銀安の我中國經濟に影響すること甚だ鉅なり。前農鑛部は已に財政部こ會同し全國採金委員會を設立するこ共に遂行計畫を決定せるも唯財力不足の爲尙未だ實行せず。我中國產金區域は頗る廣大にして業に開辦さるゝもの面積約計三百方里なり、全國の已に開辦せる各鑛に通令し復工の方法を講ぜしめ以て救濟に資し政府の財政に餘裕あるを俟て直ちに上述計畫に遵ひて速に探採を遂行し以て將來の金本位實施の準備をなさんこす

鐵道部國產石炭、國產鐵研究の會を組織す

支那鑛業週報　第百二十九號

鐵道部業務司の最近上申せるこころを抄略するに卽ち、鐵道の支出に於て材料購買は其の大宗にして、材

料購買に於ては石炭、木材、鋼鐵の三項を以て最も重要なりとす。此の三項の材料は多く外國より購入す、其價格の低廉を求めんと欲するも需要盡きざるを以て勢ひ國產を注重するに非ざれは不可なり。此點に關しては本部に於て八方考慮したるも尙一時に具體辦法を籌劃するに至らざるなり

石炭の一項に就て云へば、北方各鐵道沿線には我中國人の開採する鑛山乏しからず、而して鐵道と鑛山とは密接なる關係あり就ち近くに購買すれば價格は甚だ低廉となるなり。南方の各鐵道廣九、廣韶、南潯、京滬、滬杭甬等の鐵道沿線附近には從前炭礦無く平日は尙國產石炭を採用するを得るも、時局偶々不安となるか或は車輛不足の場合には外國より購入す。之を北方の各鐵道使用炭の價格に比較せば其差何倍に及ぶを知らず。若し全體通算することを得ば凡そ南方石炭無き各鐵道の需要石炭は總て北方石炭の有る各鐵道より豫め運送し巨額の貯藏をなし置けば、時に交通梗塞するこも亦源々として供給を滿すを得べし、則ち南方の各鐵道は常に廉價なる石炭を使用するを得、又利權外溢の患無きなり。（中略）

鋼鐵の一項に就て云へば、我中國各地の鑛區は盡く出產あり、從前漢陽鐵廠の未だ停辦せざる時には所有る大冶鐵鑛及各處所產の鐵は盡く同廠にて煉鋼を行ひ鋼材を製造し國內に販賣せり、其鋼軌は、平綏、湘鄂の各鐵道及平漢線南段の如きは曾て購入使用し甚だ適切なりき。漢陽鐵廠停辦後は大冶の鐵及大小各地の出產は製煉の法なく外國商の手にて購入輸出され是に於て各鐵道需要の鋼軌及其他の鋼材は遂に盡く外國より購入せざるを得ざるに至る、漏巵の大なることこ此より甚だしきはなし

目下金價暴騰せるを以て此の鋼材價格騰貴せるに一方各鐵道年中の需要數量巨額なるを以て若し速に自ら開廠するか或は漢陽鐵廠を恢復するかの方法を講じ製煉に從事するに非ざれば公帑を浪費することこ將に底止するこころ無かるべし

近來鐵道經濟を論ずる者にて先づ國產材料を使用す可しこ主張せざるものなし。以上の各部は鐵道營業の前途に關係するここ甚だ大なり

適當なる職員を派遣し國產鐵道材料供給辦法を研究し具體計畫を籌議せしめ積極遂行するを呈請せんこす、以て材料價格の逐漸低下し公家支出の逐漸節約せらるゝを期し鐵道營業の利益增加を庶幾ふ。同部は上申後同部工務司々長薩福均、技正鄭華、盧維溥、鄭英傑、專員孫多蔡等を特派し鐵路材料研究會を組織し切實に國產鐵道材料を研究せしめ以て採用に便し漏巵を塞がしむ

製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生產高月別表

單位 瓲

		銑鐵	普通鋼			半製品			普通鋼壓延鋼材									
			鋼塊	鑄鋼	計	販賣向壓延鋼片	販賣向シートバー	計	鋼板 厚0.7粍以下	鋼板 其他	棒鋼	形鋼	軌條	ワイヤロッド	鋼管	其他	計
製鐵所	昭和二年月平均	58,524	87,326	220	87,546	5,638	81	5,719	1,710	12,555	13,640	11,821	14,535	1,845	… …	3,196	59,303
	昭和三年 〃	69,741	91,087	307	91,394	4,446	623	5,069	2,340	13,499	15,094	13,493	17,140	1,564	… …	3,889	67,019
	昭和四年 〃	65,614	109,476	346	109,822	7,755	537	8,292	3,836	15,025	17,158	13,425	23,095	5,147	… …	884	78,570
	昭和五年 〃	72,109	107,438	351	107,789	6,139	65	6,204	4,219	14,279	12,386	12,872	24,353	6,347	… …	699	75,155
	昭和六年 1月	55,656	58,893	285	59,178	2,880	7,429	10,309	4,912	6,837	6,399	11,660	11,506	7,545	… …	388	49,247
	2月	47,414	66,254	266	66,520	2,044	7,007	9,051	5,016	9,742	6,358	11,636	13,410	7,334	… …	473	53,969
	3月	54,406	73,077	203	73,280	5,015	3,378	8,393	5,798	14,604	8,248	11,659	7,147	9,248	… …	350	57,054
民間製鐵所	昭和二年月平均	15,162	46,433	2,191	48,624	28	255	283	5,446	8,994	23,965	5,505	345	450	4,193	1,832	50,730
	昭和三年 〃	19,998	60,365	3,829	64,194	15	… …	15	6,435	12,913	30,493	7,865	341	568	5,626	1,835	66,076
	昭和四年 〃	23,201	76,934	3,779	80,713	54	… …	54	12,270	14,913	34,341	8,226	132	502	6,544	1,455	78,383
	昭和五年 〃	23,955	75,126	2,746	77,872	60	630	690	14,424	13,194	24,302	7,789	261	3,773	7,288	1,331	72,362
	昭和六年 1月	22,006	52,036	1,727	53,763	… …	1,370	1,370	12,825	8,142	17,792	3,391	38	6,331	4,572	735	53,826
	2月	21,904	67,553	1,615	69,168	62	37	99	16,246	13,224	20,846	4,450	142	6,581	4,373	523	66,385
	3月	23,124	68,351	2,259	70,610	108	27	135	14,990	14,353	23,779	5,032	… …	6,378	4,781	686	69,999

備考　本表中には滿鮮を含まず　製鐵所の管理下にある東洋製鐵會社並九州製鋼會社の生產高は製鐵所に含む

滿鮮の三月迄の合計銑鐵產額　128,855

昭和四年本邦鐵鋼材用途別品目別販賣數量調表

備考　本表壓延鋼材販賣總數量2,236,259瓲ハ同年中同鋼材需要總數量2,512,334瓲ニ對シ約89%ニ相當ス

（壓延鋼材）

品目＼用途		鐵道（電鐵ヲ含ム）	土木建築 鐵骨構造	造船	機械 鐵工業	石油 瓦斯 水道	鑛山	其他	合計
		佛屯	佛屯	佛屯	佛屯	佛屯	佛屯	佛屯	佛屯
軌條及附屬品	45封度以上	191,822	2,243	530	553	9	188	2,965	198,310
	45封度未滿	2,744	4,077	73	367	35	1,228	497	9,021
	繼目板	11,970	322	32	24	3	80	238	12,669
	其他	5,360	298	30	15	1	304	505	6,513
	計	211,896	6,940	665	959	48	1,800	4,205	226,513
棒	丸鋼	14,665	293,754	17,259	57,416	2,882	11,702	57,424	455,102
	角鋼	10,500	10,154	3,898	16,935	649	2,695	11,057	55,888
	平鋼	6,729	31,325	7,186	30,044	850	4,843	27,403	108,380
	其他	497	1,346	682	8,424	58	1,227	781	13,015
	計	32,391	336,579	29,025	112,819	4,439	20,467	96,665	632,385
形	山形	19,186	118,253	31,541	32,806	706	3,558	17,359	223,409
	溝形	5,130	28,147	7,837	6,998	213	422	7,882	56,629
	工形	1,592	39,027	6,245	6,967	146	353	9,415	63,745
	乞形	226	557	734	115		11	129	1,772
	其他	39	556	377	228	31	53	163	1,447
	計	26,173	186,510	46,734	47,114	1,096	4,397	34,948	347,002
板	番物	751	86,1 5	648	39,960	974	781	97,706	226,975
卑金屬ヲ鍍セザルモノ	電氣鐵板	119	1,200	7	9,090		7	400	10,823
	其他ノ鋼板	41,867	65,902	128,563	144,007	455	5,207	76,504	462,505
	計	42,737	153,257	129,218	193,057	1,429	5,995	174,610	700,303
ワイヤロッド		21	4,525	11	50,362	16	151	23,509	78,595
筒及管		4,883	4,955	11,677	9,280	19,900	6,881	12,787	70,363
其他		13,067	4,028	1,514	127,735	28,905	135	5,714	181,098
合計		331,168	696,824	218,844	541,326	55,833	39,826	352,438	2,236,259

（銑鐵及屑鐵鋼）

品目＼用途		製鋼	壓延（スクラップ、ローリング）	鑄物	其他
		佛屯	佛屯	佛屯	佛屯
銑鐵		1,322,025	… …	616,280	… …
屑	鋼屑	708,447	9864	25,429	11,286
	屑鑄物	6,207	… …	20,282	13,539

6.0 0.2	100.0 0.6
15.3 27.4	100.0 28.3
7.8 4.9	100.0 10.0
13.9 2.2	100.0 2.5
14.8 2.7	100.0 2.8
7.3	100.0 0.1
11.3 0.1	100.0 0.1
10.1 9.9	100.0 15.5
43.0 27.8	100.0 10.1
3.7 0.1	100.0 0.5
16.6 21.7	100.0 20.7
24.9 49.6	100.0 31.3
29.9 6.7	100.0 3.5
18.2 3.6	100.0 3.2
3.2 1.6	100.0 8.1
15.7 100.0	100.0 100.0